

RID2680（兵庫県） 2016 - 17 年度 柏原ロータリークラブ



## 柏原ロータリークラブ・会長の時間

例会 会長の時間 いろはにほへとちりぬる・・・

会長 坂東 隆弘

2016-17年度 RID 2680 柏原ロータリークラブ 会長報告・会長の時間の目次

1	い	陰陽五行説	2016年7月1日(初例会・新年度会長所信)	2
2	ろ	櫓を押して櫂はもたれぬ	2016年7月8日(クラブアッセンブリー例会)	4
3	は	八観六駈	2016年7月15日(クラブアッセンブリー例会)	6
4	に	西 周	2016年7月22日(クラブアッセンブリー例会)	9
5	ほ	奉仕の真の精神	2016年7月29日(地区補助金プロジェクト説明)	11
6	へ	ヘレン・ケラー	2016年8月5日(氷上特別支援学校移動例会)	13
7	と	トムヤムクン	2016年8月19日(高橋利明会員卓話)	15
8	ち	中	2016年8月26日(イニシエーションスピーチ黒田好信)	17
9	り	リヒテンシュタイン	2016年9月2日(荻野富雄・深田俊郎会員卓話)	19
10	ぬ	塗りの芸術	2016年9月9日(土田博幸会員卓話)	21
11	る	ルーズヴェルトゲーム	2016年9月16日(ガバナー補佐訪問)	23
12	を	をぐら百人一首	2016年9月23日(観月例会)	25
13	わ	和を以って貴しとなす	2016年9月30日(ガバナー公式訪問例会)	27
14	か	勝海舟は、…(米山梅吉)	2016年10月7日(米山学友会ナンディー氏卓話)	30
15	よ	四つのテスト	2016年10月14日(田中潔会員卓話)	33
16	た	多様性・diversity	2016年10月28日(イニシエーションスピーチ土田光一)	35
17	れ	零(れい)	2016年11月4日(深田俊郎会員卓話)	38
18	そ	素問	2016年11月11日(矢野宗司ガバナーノミニー卓話)	40
19	つ	ツアラトゥストラはかく語り	2016年11月18日(上月靖史会員卓話)	42
20	ね	ネルソン・マンデラ	2016年11月25日(イニシエーションスピーチ金子敬之)	44
21	な	内憂外患	2016年12月2日(片山覚会員卓話)	46
22	ら	鸞翔鳳集	2016年12月9日(柏原 P.B.青木潤会長卓話)	48
23	む	睦(むつむ)目に順うなり	2016年12月16日(ロータリーファミリー例会)	50
24	う	烏兎忽忽	2017年1月6日(新年移動例会)	52
25	み	井の中の蛙、大海を知らず	2017年1月13日(上半期クラブアッセンブリー)	56
26	の	ノーベル平和賞 エリヴィーゼ	2017年1月20日(佐竹茂康先生卓話)	58
27	お	王 陽明	2017年1月27日(イニシエーションスピーチ竹内理弘)	60
28	く	黒船見物禁止令	2017年2月3日(荻野泰男会員卓話)	63
29	や	薬食同源	2017年2月10日(篠山 RC 合同例会・瀧川 G.E 卓話)	65
30	ま	麻姑搔痒	2017年2月24日(ロータリー創立例会・三木明 P.G)	67
31	け	敬愛和協、質実剛健、…	2017年3月3日(インターアクト卒業例会)	69
32	ふ	不易流行	2017年3月10日(中澤敏会員卓話)	71
33	こ	古教照心、心照古教	2017年3月17日(山名純吾会員卓話)	72
34	え	栄西禅師	2017年3月24日(規定審議会の件黒田由弘会員卓話)	75
35	て	手に手つないで	2017年3月31日(坂谷高義会員卓話)	77
36	あ	アーチ・クランフ	2017年4月7日(柳川拓三会長エレクト卓話・PETS)	79
37	さ	サムライジャパン	2017年4月14日(岸田好史会員卓話)	81
38	き	危機管理	2017年4月21日(定款・細則、富田博重会員卓話)	83
39	ゆ	ユース エクスチェンジ	2017年4月28日(足立秀文会員卓話)	87
40	め	メビウスの帯	2017年5月12日(柏原 RC 創立記念例会・田中洋行氏)	89
41	み	密雲不雨	2017年5月19日(原田義之氏卓話)	91
42	し	親睦	2017年5月26日(丹波市教育長 岸田隆博氏卓話)	93
43	ゑ	ゑびす	2017年6月2日(次年度会長方針例会)	95
44	ひ	人こそ人の鏡	2017年6月9日(RYLA 報告例会)	97
45	も	毛利元就	2017年6月16日(ロータリー活動報告例会)	99
46	せ	正射必中	2017年6月23日(本年度クラブアッセンブリー)	101
47	す	素(す)	2017年6月30日(最終 移動例会)	103

2016年7月1日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 1

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**陰**陽五行説、私の職業である漢方・東洋医学、そして東洋思想の基礎ともなる理論です。

これは中国の神話、盤古（ばんこ）に由来します。陰陽二元論とも言い、この世のものは全て陰と陽とに分けられます。

この太極図はご存知でしょうか？ 月は陰で、太陽は陽、女は陰で、男は陽、そして男でも背中面は陽、腹面は陰、掌は甲が陽で掌は陰、腹も五臓六腑の肝臓、腎臓など蔵するものは陰、胃袋、胆のうなど袋の腑は陽となります。



天は陽、地は陰です、プラス（+）、マイナス（-）に似ていますが、それとは違い、どちらかというコンピューターの0と1と同じです。数字も、偶数が陰で奇数が陽です。1月1日、3月3日、5月5日・・・、9月9日は重陽の節句です。本日、7月1日 初例会日 陽が重なりました。本日、暦の雑節、半夏生、天気も梅雨の晴れ間・・・。

改めまして、皆さん、こんにちは。いよいよ、新しい2016-17年度が始まりました。輝く伝統のバッチ、そして大変重い小槌を受け取り、本年度会長を務めます坂東隆弘です。これから一年間、2005年2月に入会させていただいて、12年目の未熟者ではございますが、宣誓にもありましたように一所懸命務めさせていただきますので、皆様のご理解、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本年度のしかも第1日目に、いの一に阪神第3グループのガバナー補佐・阪上栄樹様（宝塚中RC）、補佐幹事の田辺朱希美様、古川彰治様、前川正明様、そして遠方よりRID2700の地区青少年奉仕委員長で、福岡東RC幹事の田村志朗様、RID2640からは高石RCの大森豊様、お越しいただきありがとうございます。また、柏原ローターアクトクラブ2016-17年度会長の小山雄平様、副会長の田代春佳様、幹事の久保彰彦様、お越しいただきありがとうございます。本年度、一緒に頑張りましょう！

本年度の柏原RCは、会長方針として「奉仕するロータリー」とし、『奉仕』についてよく考え、また、よく活動、よく行動する一年にしたいと考えております。かねてからお伝えしてありますように、クラブ・リーダーシップ・プラン（CLP）の活用で、クラブの活性化、委員会組織の機能化のため、必ず委員会を開催し、委員の合意の下、よく協力しながら活動や事業にあたっただきたく、お願い申し上げます。

常任委員長、各委員長様には、それぞれ委員会をご開催いただき、会長の方針、会長諮問事項に沿って活動、事業を考えていただき、誠にありがとうございます。皆様のお力なくしては、柏原RCは組織として前へ進むことはできません。

クラブ運営に関しまして、不慣れでございます。ご助言、ご教授をいただき、先輩諸氏、また会員の皆様の総意をもって進めなければ、ロータリークラブの意味がないと考えます。よろしくお願いいたします。

クラブ会長方針としての『奉仕』を考えると、冒頭でお話ししましたように、奉仕の中にも陰陽があるのではないかと思います。クラブの充実、円滑な運営を図るクラブ奉仕は「陰」、地域社会に働きかける奉仕プロジェクト、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕は「陽」といったところでしょうか。

陰陽は対峙するものではなく、また打ち消し合うものでもなく、両方が備わってこそ一つのバランスが取れた小宇宙を形成します。陽だけでもいけませんし、陰だけでもいけませんし、成り立ちません。偏らず「中庸」が肝心となります。

また、陰極めれば陽になり、陽極めれば陰になる。ロータリーの職業奉仕も、陰極めれば陽になる。まさにロータリーの真髄、奥の深いものではないかと思います。

陽の奉仕だとする奉仕活動の中にも、陰と陽が存在します。これは、すべての奉仕の世界にも言えることだと思います。陰は陽を認め、陽は陰を認め、否定することなく、お互いをそれぞれの違いを認知し、総括して認め合うことが、ロータリーの寛容の精神であると私は考えます。

さて、もう一つだけお話しします。86,400 円の話はご存じでしょうか？ 毎日、毎日、毎日、～、86,400 円、86,400 円、86,400 円が振り込まれます。あなたの口座に、毎朝、86,400 円が振り込まれるとしたらどうでしょう？ 毎日です。きっちりと定額。ただ日をまたぐと、その口座の残高は 0 円になります。この振込金は、繰越すこと、貯金すること、人に譲渡や寄付することはできません。皆さんだったら、どうしますか？ もちろん、毎日 86,400 円を引き出して、すべて使おうとしますね。

もうお気づきの方もいらっしゃると思いますが、私たちは一人一人が同じような銀行を持っています。それは時間です。毎朝、私たちには 86,400 秒が与えられます。毎晩、うまく使い切らなかった時間は消されてしまいます。

時間の大切さや使い方、これをくどくどというつもりはありません。例会の時間は、一時間としても一人 3,600 円です。メイクアップだと、柏原 RC は 2,000 円ですが……。この 3,600 円×50 名 = 180,000 円を、価値あるものに代えなければなりません。

「例会は人生の道場」一。会長として、よい例会であったか、価値ある例会であったかを、毎回自問自答し、向上させていきたいと思ひます。そして、48 回分の例会を 8,640,000 円以上の、ある意味プライスレスな価値ある一年にしたいと思ひます。

以上のことを、会員の皆さま、そして今日の例会にご出席いただいた全ての皆様にお誓ひし、第 1 回の会長の時間といたします。そして最後に、あなたのその 86,400 円・秒を、自分のためだけにとどめず、地域のために、そして人のためにも繋がるように使っていただけたなら、それは素敵な『奉仕』になると思ひます。ご清聴、ありがとうございました。

2016年7月8日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 2

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**櫓**を押して櫂は持たれぬ。船の櫓を押しながら櫂を操ることは困難であるということで、一時期に二つのことは難しい例えですが、この言葉は、この8月に「氷上特別支援学校との補助金プロジェクト事業」と「前島国際キャンプセミナー」の二つの大きな事業を計画し、血相を変えている今の私のものであります。

改めまして、皆さん、こんにちは。今年度、第2回目の例会ですが、この一週間、私にとってはあっという間でした。例会2回目だけに、会長になって初めてお会いする会員の方もいらっしゃいますね。改めまして、私が今年度の柏原ロータリークラブ会長の坂東です。一年間、よろしくお願いします。

さて、第1回の例会では、皆様、いきなりで驚かれたと思いますが、会長就任式を荻野前会長、深田前幹事、柳川副会長、足立幹事そして富田 S.A.A.ご協力のもと、行いました。実は、これは会長の研修時にいただく会長実践マニュアルに補遺として記載されており、実施することが推奨されています。従来の襟ピン交換のみのセレモニーより、会長としての宣誓など、重要なポイントが幾つもあることから、初の試みとしてさせていただきました。特に最後の小槌の引継ぎは、小槌が持つ**クラブ運営の象徴**としての重さを再認識するためにも、ぜひ必要と判断した次第です。

丸尾研一直前バスターガバナーからは、「最初の点鐘を打つ時は手を震わせ、それくらいの重みをもって鳴らしなさい。それくらい点鐘は重いものです」と、アドバイスをいただいております。しかし、現実には、そう言われなくても緊張で手が震えました。いつになく、舞い上がってしまいました。

神戸ロータリークラブでは、新会長にポール・ハリスの額入りの書が引継ぎで手渡され、幹事が小槌を受け取るという儀式が、毎年第一例会で行われるそうです。他クラブでも色々あるようで、年度の区切り、けじめをはっきりつけることは、新年度への敬意としても大切なことだと思います。

7月3日の日曜日、三木防災公園内競技場において、第13回兵庫県特別支援学校サッカー選手権大会が開催されました。氷上特別支援学校が出場するとのご連絡を受け、私、そしてプロジェクト副実行委員長の余田会員が、急きょ応援に行きました。

大変規模の大きな大会で、全面コートを使用する11人制のAグループと、ハーフコート8人制で行うBグループ、そしてSとSSグループに分かれました。氷上特別支援学校からは27名、B、S、SSへ3チームが出場しました。この夏の炎天下の熱い中、各々のチームは予選リーグから一所懸命プレーをし、特にBグループ(13チーム)の氷上チームは、予選リーグ3試合、決勝2試合を勝ち抜き、見事に優勝を果たしました。決勝戦はPK戦の末の優勝でしたが、5年ぶり3回目の快挙だそうです。体力、技術力は勿論ですが、この暑さの中、最後まで走りぬぎ、強い精神力の勝利であったと思います。

さて、いよいよプロジェクト合宿に参加する生徒 18 名、教員 13 名が決まり、各校 3 校のインターアクトクラブ、柏原ローターアクトクラブの協力を得て、8 月 4 日～5 日に『知的障害者への理解と支援のためのスポーツ研修合宿』を行います。

昨晚、補助金奉仕プロジェクトの実行委員会が、大和にて 14 名ものプロジェクトメンバー参加で開催され、森田茂樹実行委員長の下、会議が開かれました。熱心にご協議をいただき、夜遅くまで役割分担や準備の細かい点などを確認していただきました。熱心に協議している姿を見て、「これで、櫓は任せられたかな」と思いました。ただ、大変大きな規模の事業であります。プロジェクトメンバー約 20 名で準備しておりますが、2 日間の長丁場を人海戦術で何とか乗り切らなければなりません。また、そのメンバーを除いても、40 名を超える方々のご参加があります。

このプロジェクトの目的は、単なるスポーツ合宿の支援ではありません。社会的弱者である知的障害を持つ子供たちへ、共にスポーツをし、共に合宿するなどの体験を通して、達成できる自信と勇気を育み、彼らの自立支援を目的とするものです。また、共に活動することにより、我々の認識も変わるはずですので、実際に参加してもらわなければ、我々においても意味をなさない事業になってしまいます。

なんと申しましても、この事業は、本年度の柏原ロータークラブ主催のメイン事業です。プロジェクトメンバー以外の会員の皆様のご協力なくしては、成功いたしません。何卒、ご理解いただきまして、ご支援、ご協力をお願いいたします。

プロジェクトの時間毎の参加表を用意しております。また、5 日は氷上特別支援学校での移動例会となり、卓話には校長先生のお話をと考えております。是非この機会に、普段であればあまり関わり合いのない特別支援学校を訪ねていただき、現状にご理解を賜りますようお願いいたします。

最後に、「櫓の立たぬ海もなし」一。櫓も櫓も使えない海は無いように、どんな難事にも必ず方策があるものだと皆様にお頼りし、会長スピーチといたします。

2016年7月15日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

### 会長の時間 3

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**八**観六験（はちかんろくけん）をご存知でしょうか？ 中国の戦国時代に編集された『呂氏春秋（りよししゅんじゅう）』に記されている、人間を八つの面から観察し、六種の方法で試し、その品格を見極める方法です。ロータリアンとして自身の品格を高めるためにも、一つのチェック方法として「八観六験」という先人の知恵を学ぶのもいいのではと思います、今回ご紹介いたします。

改めまして、皆さん、こんにちは。今年度、第3回目の例会です。この一週間、先週も同じことを言いましたが、私にとっては本当にあつという間でした。先ず足立幹事と2名、月曜日に宝塚RC、水曜日に篠山RCを表敬訪問してまいりました。年度当初ですので、どちらもクラブアッセンブリーをされていましたが、その内容は各クラブによってまちまちです。宝塚RCはクラブアッセンブリーの司会を幹事が行い、篠山RCでは、卓話の時間としてアッセンブリーをクラブ運営委員会の進行で行っていました。それぞれあるものだと思いましたが、柏原RCのように例会を閉じてクラブ協議会をするのなら、S.A.A.でなくクラブ奉仕委員会なのかなあとも思います。

さて、父の書棚に、お前はこれを読めとばかりに、一冊飛び出ている本がありました。手に取りますと、安岡正篤（やすおか まさひろ）「一日一言」という書でした。話のネタにとパラパラと覗いてみると、冒頭の『八観六験』という言葉が私の目に飛び込んできました。著者の安岡正篤氏は、昭和58年に亡くなられておりますが、政財界のリーダーに多大な影響を与えた方で、終戦時、昭和天皇によるラジオ放送の終戦詔書発表（玉音放送）を推敲して原稿を完成させたことでも有名です。東洋学に裏打ちされた該博な知識、そして人物としての魅力によって、日本のトップ・リーダーたちにわが国の進むべき道を常に指し示していたことから、「昭和最大の黒幕」とも評された人物でもあります。

本年度、会長となり、会員の皆さまから、常に「八観六験」されているとヒシヒシと感じます。その「八観」とは、

1、「**通則観其所礼**」 通ずれば、その礼するところを観る。

**すらすらうまく行き出した時に、どういうものを尊重するかを観る**

上手くいきたした時に、どういうものを尊重するかで人物が分かるの意。

例えば、金か、位か、知識か、技術か、そして仕事で返すかどうかで人物が分かります。出世した人に対しては、その礼儀正しさを見ると良いでしょう。いつも謙虚でマナーの良い人もいれば、出世したことで傲慢になり、礼儀やマナーを無視する人もいます。礼儀正しいかどうか、そこに**人間の品格**が現れます。

2、「**貴則観其所進**」 貴ければ、その挙ぐるところを見る。

**地位が上がるにつれ、其の登用する人を見る**

地位が上がるにつれて、どんな人間を敬うかで人物が分かるの意。

地位の高い人に対しては、その人が使っているものや、そばにいる人を見ると良いでしょう。「**類は友を呼ぶ**」と言われるように、周りを見ればその人の**好みや人格**が垣間見えます。

3、「富則觀其所養」 富めば、その養うところを見る。

**金ができる、何を養いだすかを観る**

金ができると何を養いだすか。豊かになったら、どんな人間を養うかで人物が分かるの意。  
お金持ちの人に対しては、お金の使い方を見ると良いでしょう。貧しい時は生活に追われ、自分の欲を満たすことにまで手が回りませんが、お金の余裕ができた時、そのお金を何に使うか、そこに人間の本性が現れます。お金の使い方を見ると、その人の**人生観や倫理観**まで分かるのです。

4、「聴則觀其所行」 聴けば、その行うところを観る。

**善いことを聴いたら、それを実行するかどうかを観る**

聴けば、いかに知行合一するか、或いは矛盾するかを観る。実行となると難しいものだ意。  
人の言動をよく観察しましょう。発言と行動が一致しているかどうかで、その**人が誠実か否か**が分かります。

5、「止則觀其所好」 止（いた）れば、その好むところを観る。

**一人前に仕事ができるようになると、何を好むかを観る**

この「止たる」は、俗に言う「板についてくる」の意味です。余暇の過ごし方を見ると、その人の人生観の側面が見えてきます。職場などの公式の場での振る舞いよりも、休日や余暇の過ごし方にこそ、**本質的な価値観**が現れやすいのです。

6、「習則觀其所言」 習えば、その言うところを観る。

**習熟すれば、その人の言うところを観る**

話を聞けば、(学問がどの程度身につけているか) その人の人物・心境がよく分かるの意。  
親しい人と気楽な雰囲気の中で交わした言葉は、**人の本心**を反映しやすいものです。そういう場での発言こそ、注意して観察すべきです。

7、「窮則觀其所不受」 窮すれば、その受けざるところを観る。

**貧乏したときに、何を受け取らないかを観る**

貧しいときに、何を受け取らないかで人物が分かるの意。  
貧乏するとなんでも欲しがるといような人間は駄目である。生活に困っていても、受けてはいけない援助や利益があります。受けるべきではない援助や利益を受けているか否か、そこにも**人の品格**が現れます。

8、「賤則觀其所不為」 賤なれば、そのなさざるところを観る。

**人間は落ちぶれると何をするかわからない、だから為さない所を観る**

人賤なれば、恥も外聞もなく何でもやる。落ちぶれた時に、何をしないかで人物が分かるの意。  
地位が低く、弱い立場に置かれた人でも、自分の利益や出世のためにやってはいけないことがあります。やるべきではないことを控えられるか否かで、**真に志があるかどうか**が分かります。

そして、「六駮」ですが、会長の時間の関係上詳しくは述べません。週報には記載しますので、ご興味のある方は読んでいただければ幸いです。

その「六駮」を要約しますと、「喜ばせて、楽しませて、怒らせて、恐れさせて、悲しませて、苦しませて」何を見るのかと言え、その人物が**恒常心**をどれだけ保ち得るかということに尽きる一です。

苦境に立ったとき、人は試されるし、その人物がどういう品格なのかが分かるといいますが、苦境に限らず、絶好調のときも試されているのだということです。前東京都知事が、よい例だと思います。



また、『論語』の「為政第二の十」には、次のような言葉があります。すなわち、孔子は人を見抜く基本的な方法として、「視・観・察」の三つを挙げているのです。

**書き下し文**『子曰く、其の以（な）す所を視、其の由（よ）る所を観、其の安（あん）する所を察すれば、人焉（いづく）んぞ 度（かく）さんや、人焉んぞ 度さんや。』

**現代語訳**『孔子がおっしゃった。「人の一挙一動を見て、これまでの行為を詳しく観察し、その行為の動機が何なのか分析する。そして、その人の安んずるところ、つまり、どんな目的を達すれば満足するのかまで察する。そうすればその人の本性は隠しおおせられるだろうか？ 決して隠しおおせないものなのだよ。』

ロータリアンとして、また会長として、この「八観六験」を常に自戒の言葉とし、4つのテストと同様、何かにつけて自問自答していきたいと思えます。

最後に、各委員長様にも「八観六験」、クラブアッセンブリーでの所信をよろしくお願いいたします。

## ※ 参考「六験」

### 1、「喜之以験其守」 之を喜ばせめて以て其の守を験（ため）す

人間は嬉しくなると羽目を外す。しかし、人間には守らねばならない分とか節がある。それを喜ばされたくらいで外してしまうようでは、人間として落第である。得意になっている時も失意の時も自我を失わず、自身をしっかり制御できる人は、ぶれない人です。

### 2、「樂之以験其僻」 之を楽しませめて以て其の癖を試す

喜びの本能に理性が伴うと、これを楽という。人間は楽しむと、どうしても癖する。かたよる。すると公正を失って物事がうまくいかない。喜んでいる時に、悪い癖が現れるかどうかを試します。喜びの最中に現れる悪い癖は、時に悪事の種となり得るからです。

### 3、「怒之以験其節」

怒った時に、自制力が失われるかどうかを試します。人は怒ると感情的になりやすく、理性を失った人は償えない程の重大な過失を引き起こすことがあるからです。

### 4、「懼之以験其持」

恐れている時に、信念を堅持できるかどうかを試します。命が脅されても信念を失わない人こそ、真に信念を持っていると言えるからです。

### 5、「哀之以験其人」

悲しみに暮れる時に、品格の変化があるかどうかを試します。

### 6、「苦之以験其志」

苦しみの中にいる時に、その人が志を失うかどうかを試します。

2016年7月22日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 4

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**西**周（にし あまね）（1829-1897）は、science を日本語に訳すとき、分科学とせず、分を取り去り『科学』と造語しました。これが現在の科学信仰ともいえるそもそもの特別なイメージの始まりであったのかと思います。

改めまして、皆様、こんにちは。本日は三田ロータリークラブから会長の西上俊彦様、幹事の西省造様、そして篠山ロータリークラブから会長の大西仁司様、幹事の廣田実光様、そして小田垣博三様。ようこそおいでくださいました。本日は、クラブアッセンブリーとなっています。どうぞご自由に、ごゆっくりしてください。



幕末から明治にかけて西洋、近代の学術思想を日本に取り入れるにあたり、翻訳の仕事は重要な役割を果たしました。中でも、今まで日本に存在しなかった新たな概念を表す造語、近代の漢語の発明は、西周の功績が際立っています。

西周は津和野藩（島根県）の出身で、父は医師。幼少期から儒学を学んだ後、江戸へ出てオランダ語や英語を学んだあと、オランダに留学。欧州の思想を多く日本に紹介、名著「百学連環」で多くの学術用語の訳語、造語を発明しました。『学術』という言葉も、science and art を西周が訳したものです。この他、現在では当たり前に使っている翻訳漢語にしても、例えば技術 mechanical art、芸術 liberal art、哲学 philosophy とか、主観・客観、本能、概念、観念、帰納（法）、演繹（えんえき）（法）、命題、肯定、否定、理性、現象、知覚・感覚、総合、分解などは、西周が新しい日本語として造語したものです。

一方、中国では、ある時代（アヘン戦争以後）、欧米からの思想を拒んでいたため、新たな西洋的概念に関する中国語への訳語が進みませんでした。今日の中国教科書で使われている熟語三千文字の中でも、先の例はもちろん、自由、権利、義務、宗教、進化、経済など、なんと千文字が、日本から中国へ逆輸入されたものなのです。

人民、共和国、革命なども、実は日本語由来だったとは、当の中国人も知らないでしょう。ですから、中国の正式名称「中華人民共和国」は、後半3分の2（人民と共和国）が日本語です。この事実を知れば、何の根拠もない九段線をさも史実のように主張する性格の彼らは、烈火のごとく怒り、完全否定をしてくるでしょうが、これは事実です。

冒頭に述べた science ですが、語源としては「細かく分けてわかる」という意味です。したがって、そういう語源から、これを「分科学」と訳していれば、現在の科学に対する特別なイメージ、「科学 = 真理、科学 = 絶対的なもの、正しいもの」など、いわゆる「科学」という語句に対する妄信的な信仰はなかったのではないかと思います。つまり、「科学」という新語に過剰な幻想を抱くことはなかったのではないかと思うのです。

science は分科学だと認識すれば、分科するだけのものであり、決して真理でも、正しいものでも、でもありません。例えば、外科と内科に分け、内科を胃腸科と循環器科、泌尿器科とどんどん分けていきます。そうすると Medical science、つまり「医学」となります。

自然科学 (natural science) は自然分科学、生命科学 (life science) は生命分科学です。社会科学も宇宙科学も同様で、どれも分化して細かく分けていくことで、本質、真理を探求するものです。しかし、あくまで探求方法であって、それ自体は本質でも真理でもありません。例えば、麻黄という生薬を抽出分離して、一成分のエフェドリンという物質を取り出す。これは science 分科学です。エフェドリンは、気管支拡張、咳止めの成分になります。抽出・分科は、西洋的発想なのです。一方、この麻黄に杏仁、桂枝、甘草という生薬を加えて煎じると、麻黄湯という処方になり、せき止めだけでなく、インフルエンザなどに効きます。合わせ・和するは、東洋的発想です。

なぜこんなことを言うのかといいますと、私が職能として誇りをもって営んでいる漢方について、「漢方は非科学的だ」と言われる方があります。非科学的と言われると、漢方を完全否定されたような気がして非常に不愉快です。しかし、非分科学的だと言われるのなら、素直に、「そうですね。生薬を分解せずに、それぞれを合わすわけですから、非分科学です」と納得します。

かなり分かりにくい話になりましたが、私が言いたいことは、言葉の持つ力、メッセージカ、イメージの大切さ、言葉の方向性と訳語の難しさです。science は「科学」と訳語・造語され、そのために、特別で絶対的な分不相応なイメージ、科学至上主義的なイメージを纏ってしまいました。これは西周のせいではなく、その後の国語教育に責任があるのかもしれませんが・・・。

ロータリーは、日本へ入ってきた折、新しい理念や抽象的な概念がたくさんあったはずで、色々な新造語、訳語が、ロータリー用語として作られたことでしょう。幸いにして、ロータリーの考えは日本人に向けていて、職業奉仕の理念も共感・納得しやすいものでしたし、そこで用いられた訳語にしても概ね的確であったのだと思います。現在も、RI の会長年度テーマを日本語に訳すとき、時間をかけ、慎重に熟慮されていると聞いています。Object of Rotary にしても、今は「ロータリーの目的」となりましたが、私は以前の「ロータリーの綱領」の方が、その重みといい、イメージといい、何かしっくりきます。また、Ideal of Service は、今は「奉仕の理念」ですが、私は以前の「奉仕の理想」の方が好きです。今なぜ、慣れ親しんできた日本語訳をわざわざ変えるのかは分かりませんが、最近の国際ロータリーの変質に近い変化に対して、私は危機を感じます。

今年度、ロータリー財団 100 周年を迎えます。ロータリー財団は、国際ロータリーの「奉仕」という目的を行うための手段であったはずで、大切な職業分類を蔑ろにし、とにかく増強拡大、会員を寄付の頭数として考えるような流れに思えてなりません。今や、ロータリー財団の維持拡大が、国際ロータリーの目的になりつつあるのではと危惧いたします。皆さんはどう思われるでしょうか？

今、国際ロータリーの方向に、特に日本の会員達が疑問の声をあげています。漢字の本場に漢字の熟語を逆輸入させた西周のように、今こそロータリーを研究し直し、日本から国際ロータリーに真のロータリーの進む方向を新造語で教える時かもしれません。国際ロータリーに物申す、強い日本のロータリアン、日本の存在感を示すときだと思えます。

最後になりましたが、19 日は三田 RC に表敬訪問してまいりました。昨日は足立幹事と一緒に、柏原プロバスクラブの第 100 回例会に出席してまいりました。大阪プロバスクラブからもビジターとして 3 名が来られ、会員 21 名で盛会に行われましたが、4 つの卓話、そして 3 時間を超えるという強烈な例会でした。先輩方の年齢を感じさせない熱意、衰えを知らない気概を、ぜひ見習いたいものです。

2016年7月29日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 5

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**奉**仕の真の精神は、世界を救済することができます。

ポール・ハリスは、1918年3月号のロータリアン誌でこう述べています。

また、ポール・ハリスは、1946年2月号のロータリアン誌で、  
新会員に助言したと仮定しましょう。

新会員にロータリアンが何を考えているか、ロータリアンの問題は何か、  
どのようにしてその問題を解決しようとしているかについて観察するよう  
提言します。

ロータリーは、基本的には教育課程だと新会員はわかるに違いありません。

ロータリーは、地に足をつけるよう手助けをします。

ロータリーは、物事には内面と外面とがあることを教えてくれます。

と述べています。どれも、ポール・ハリス自身の言葉です。ロータリーは、基本的には教育課程である。  
昨今のロータリークラブでは、この辺がなおざりにされているのかも知れません。



改めまして、皆さん、こんにちは。そして、ビジターとして篠山 RC から吉田英昭様、ようこそおい  
ていただきました。早いもので、会長に就任して一ヶ月が過ぎようとしています。先日の山東会で、あ  
る方から、「時々後ろを振りむいて、みんなが追いついて来ているか確認するように」と、ありがたいご助言  
をいただきました。振り返りましたが、ご助言された方の姿が見えません。

さて、先ほどの言葉は、ポール・ハリスが新入会員に「ロータリーとは？」と語りかけた文章でしょ  
う。来月の8月5日の例会で、金子敬之氏が新入会員として入会されます。最も若いメンバーになりま  
す。見ず知らずのところに入ったときの不安は、皆さんも入会時に経験されたことでしょう。温かく、  
お迎え頂き、積極的に話しかけ、この会に早く馴染まれるようにやさしく願いいたします。

もちろん、「ロータリーとは？」についても、しっかりご指導いただきたいと思います。新入会員は、  
なかなか思うようには育ってくれないかもしれませんが、先輩ロータリアンを見たとおりに育つのが世  
の常、よろしく願います。

今週は、あまり触れたくありませんが、陰惨な事件がこの日本で起こってしまいました。この事件を  
避けるわけにはいかないでしょう。一人の超異常者の犯行だとか、ヒトラーが思想かぶれだとか、大麻  
中毒だとかで、単純に片付けられない深い根っこ、闇を背負っているような気がします。戦後、日本の  
教育の欠落した部分が極に偏在してとんがり、爆発した感があります。

仮にも、一時期は教育者を目指したとか。知識偏重、能力主義、役に立たないものは価値のないもの、  
価値のないものは存在意義のないもの。お荷物で迷惑でしかないから、邪魔な存在、抹消すべきもの……。  
こういうロジックが、彼の中で成立したのでしょう。頭だけで育つと、化け物になる例です。

ポール・ハリスは、1912年9月号のロータリアン誌で、こう説いています。

人間の心と手が助け合わずにできるようなことは、文明の試練に耐えられません。心と手を最高度までに効果的に働かせ、調和させなければ、ラファエロやミケランジェロの作品は生まれません。独立宣言も書かれることはなかったでしょう。これらの仕事は、人間の最高の資質、あふれる感情の表現力、そして心が必要です。仕事が大きすぎて、頭と手だけでは失敗してしまうような時、その中にちょっと心を込めてみてください。限りある生命の人間にできる全業績の中で最大のものは、心と頭と手を完璧なまでに結集しようとした努力の結晶です。

犯人は、人の心を学んでいません。生きていることを心から喜びを分かち合う心がないのです。

以前、青少年奉仕特別セミナーの中で、深川純一先生から3つの教育をお話いただきました。

第1は、Technical Education 技術教育

第2は、Humanistic Education 人間がお互いに心豊かになろうという教育

第3は、Inductive Education 人間とは何かという真実に招き入れる教育

という中で、戦後教育は第1のTechnical Education 技術教育一辺倒になり、そういう価値観を生み出しました。しかし、その結果どうなったか？ 本来、人間は如何にあるべきか—ということ教える倫理教育・道徳教育の分野が疎かになり、第2のHumanistic Education、第3のInductive Education の分野が欠落してしまっただけであります。

今回の事件は、その最たるものだと私は思います。

故・今井鎮雄先生も、

『戦後の日本は、技術教育にばかり専念したために、人間として大切なものは何かという

ことではなく、人間にはどれだけの能力があるかということに計る「試験第一主義の教育」が横行していると言ってもよい。しかし、世界的な視野に立ってみると、世界の状況は人間個人に中心をおいて、一人ひとりの人間の問題を考えなければならない状況になっていると思われる。技術教育というものから、もっと人間を大事にする教育、いわゆる教育革命が世界の中に深く潜行してきたように思う。しかし、日本の現実、未だ技術教育一辺倒のように思われる』と、生前にRYLAで言われていました。

まさに、今回の陰惨な事件の発生を危惧されていたかのようなお言葉であります。

元来、私達人間は、動物の命、植物の命、生きとし生けるもの全ての命を頂いて生きています。この生きとし生けるものの命を奪って生きていく人間とは一体何か。そもそも生きとし生けるものの命とは何か。このようなことを青少年に問いかけていく教育の分野が、現在の教育体系の中に欠落しているのです。では、どうすればよいのか？ 本質的に重要なことは、また後日、述べることにします。

最後に、ポール・ハリスの言葉で締めくくりたいと思います。

私たちの生きる目的は何でしょう？ それは、学ぶことです。では、何を学ぶために生きているのでしょうか？ 学ばなければならない唯一のことは、どうすれば自己にとらわれないようになるかということです。私たちはそれを学ばなければなりません。学ばないわけにはいきません。自発的に学ぶことができなければ、強制されるでしょう。遅かれ早かれ、私たちは自己と決別せざるをえません。最後の日を迎えるまで、自己にとらわれているかもしれません。あるいは自然に、徐々に、そうです、喜びをもって、自己と決別できるかもしれません。

深川純一先生、今井鎮雄先生、ポール・ハリス先生の言葉を胸に、来週の『知的障害者への理解と支援のためのスポーツ研修合宿』へ臨みます。皆さんも是非、学びに来てください。

2016年8月5日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ（氷上特別支援学校移動例会）

## 会長の時間 6

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

ヘレン・ケラーは、こう言いました。

「物事を成し遂げさせるのは、希望と自信です」――。

改めまして、皆さん、こんにちは、本日は、移動例会で、氷上特別支援学校をお借りして、県立氷上特別支援学校・学校長の小島眞理子様をゲストスピーカーに、そして2日間手伝ってくれました姫路ローターアクトクラブの春木優杏君、柏原ローターアクトクラブの青山翔太君をビジターに迎えました。



さて、昨日からまるまる一日以上、4日、5日と地区補助金奉仕プロジェクト「知的障害者への理解と支援のためのスポーツ研修合宿」にご参加、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。好天に恵まれすぎまして、とつても猛暑、しっかり酷暑の中、プロジェクト実行委員会のメンバー並びに支援メンバー、そして柏原ローターアクト、柏原、氷上、氷上西の各インターアクトクラブの皆様と顧問教諭、そして姫路ローターアクトクラブの方にもご支援いただきました。

また、昨日、この事業のご後援もいただきましたNPO法人スペシャルオリンピックス・兵庫の理事長で、神戸西RCの会員でもある武田寿子様、同スペシャルオリンピックス・兵庫の理事で鹿島勝治様。また、ご来賓として兵庫県教育委員会の特別支援教育課副課長で三浦忠保様、さらに地区からは補助金委員会の好崎泰州様にもお越しいただきました。

なにより、氷上特別支援学校の教職員の皆様、保護者の皆さまには格別のご配慮、ご協力をいただきました。柏原RC25名を含む総勢102名を超える皆様、ほんとうに沢山の方々に支えられ、プロジェクト事業を実施することができましたこと、心から感謝申し上げます。

「いく先々で出会うみなさんの思いやりのおかげで、物事がいつもうまく進んでいきます」――。これもヘレン・ケラーの感謝の言葉です。

『奇跡の人』でも知られるヘレン・ケラー。乳児期に目、耳、口の三重苦を背負った彼女ですが、彼女自身の努力もさることながら、彼女を支えたアン・サリバン先生や周りの人の理解と支援があればこそ、『奇跡の人』は生まれたのだと思います。

ちなみに、このサリバン先生を紹介したのは、電話を発明したグラハム・ベル氏です。指文字を覚え、単語の習得に熱心になったヘレンは12歳頃には有名になっていたようで、ベル氏は「普通の子としての生活をさせてあげたい」と、動物園や万博などに連れて行ったそうです。無論、サリバン先生の付添いありで。展示品にも特別に触れる許可も得ていたそうで、ヘレン・ケラーは、後年「指で万博の素晴らしさを知った」と語っています。

私がこの事業で示したかったことは、冒頭のヘレン・ケラー言葉「物事を成し遂げさせるのは、希望と自信です」一。すなわち、希望と自信の大切さ。これが何よりの力となります。そしてその積み重ねが自立への道標となり、社会への道が開けます。それには先ず、知ること、理解することが何よりも大切になります。私たちの仕事は、希望と自信を与えることだと思います。

本日、例会で初めてこの県立氷上特別支援学校を訪問された方も多いと思います。障害としてではなく、多様性としてとらえ、理解と支援が必要であると思いますが、どうでしょうか？

ヘレン・ケラーは、

「私たちにとって敵とは、“ためらい”です。自分でこんな人間だと思ってしまうと、それだけの人間にしかたれないのです。」

と言っています。ですから、相手をためらわせてはいけません。こちらから積極的に心を開いて、受け入れることが大切であると思います。

本日は、小島校長先生に卓話をお願いしております。是非、お聞きになって、現状を知り、ご理解を深めていただきたいと思います。

最後も、ヘレン・ケラーの言葉で結びます。

「あきらめずにいれば、あなたが望む、どんなことだってできるのです」

もう一つ、

「はじめはとても難しいことも、続けていけば簡単になります」

ご清聴、ありがとうございました。

2016年8月19日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 7

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**ト**ムヤムクンは、世界三大スープの一つとされ、辛味と酸味、複雑な香りが特徴的な、有名なタイ料理です。日本のエーゲ海と言われる美しい景観の牛窓・前島で、瀬戸内に沈む夕日を眺めながら、30名のインターアクター受講生とスタッフ・メンバー26名と共に味わうトムヤムクンは、甘み、酸味、辛みとエスニックな香りの国際的なくれない色の見事な味わいでした。

改めまして、皆さん、こんにちは。このタイのような酷暑の中、ご無事にお盆をお迎えできたでしょうか？ 12日の例会が休会となり、14日ぶり。私、皆様に長くお会いできなくて、寂しく感じておりました。移動例会もあり、久々の例会場で例会をうれしく思います。

本日は、宝塚ロータリークラブより会長の中井宏行様、幹事の安藤幹根様にご訪問いただきました。ようこそ おいでくださいました。ごゆっくりしてください。

この8月は、本当に熱い暑い夏でした。先ずは、8月4日～5日の2日間に亘る本年度の補助金社会奉仕プロジェクト事業「知的障害者への理解と支援のためのスポーツ研修合宿」一。まさに皆様の熱意のこもった、熱い暑い地域支援事業でした。

真夏のさすような日差しの中でのサッカー合宿、土埃に紛れながら汗だくになって若い生徒たちと一緒に、練習に試合にと、老骨に鞭打ちながら頑張ってくださいました。また、合宿の料理は夕食、朝食ともに手作りでもとてもおいしく、生徒たちは大変喜んでくれました。

特別支援の生徒15名、教員13名、インターアクター3校の18名、ローターアクター8名、クラブ・メンバー34名、他で総勢100名を超え、しかも丹波市内の県立学校が4校全て揃うという、過去に前例のない大事業になりました。

生徒たちにしても、学校外の人々との交流・合同の事業を通し、この貴重な経験がきっと希望と自信につながっていくものと思います。2日間、最初から最後までお世話になった方、時間を割いて少しでもと駆けつけ、ご参加いただいた方、本当にありがとうございました。皆様の熱意は、きっと伝わったと思います。

もう一つは、8月8日～11日の3泊4日に亘る「前島・国際青少年リーダー養成セミナー」一。これまた、この夏の猛暑、炎のような研修セミナーが無事に終わりました。二つの事業ともご協力、ご参加いただきました会員の皆様には、そのご厚意に値する感謝の言葉が見つからないほどです。本当にありがとうございました。

そのセミナー受講生は、地区内IAC20名と地区外IAC7名で、大阪や九州からも参加いただきました。さらにタイ王国3名の生徒も入れて、合計30名。彼ら受講生を、学校が重ならないようにばらばらに4班に分け、各々の班にカウンセラー男女各1名の合計2名に専属でついてもらいました。



実は、このカウンセラーは、地区 RYLA 学友会の精鋭 8 名です。もちろん、事前にカウンセラー・セミナーを受講してもらい、心得は研修済みです。そして M 顧問教諭 4 名（タイ王国 1 名）、地区内ロータリアン 6 名、地区外ロータリアン 3 名にも参加していただき、講師 5 名、RYLA 学友会 15 名（精鋭カウンセラー 8 名を含む）、ローターアクト 2 名、柏原 RC 12 名を含め、総勢 77 名で実施して、無事、予定の全過程を終了することができました。ご協力いただいたすべての皆様に、衷心より感謝申し上げます。

このセミナーのテーマは、「奉仕」です。特に柏原 RC の会員の皆様には、「奉仕」以外の何物でもなかったと思います。例えば、セミナー前日より準備に入られ、結局最後までお付き合いいただいた義理堅い会員様。初日・二日目と厨房でひたすら働きながら、タイ人教師のノンヤオ先生手作りの真に美味しい本場のトムヤムクンを食べずに帰丹された会員様。また、手弁当で最終日に戻って来てくださった、人情に厚い会員様々。おそらく、されたこともないであろう鍋・釜洗いで、一生分、一心不乱に格闘された愛情あふれる会員様。最後の集合写真に顔も出せず、ひたすら厨房で最後の昼食準備をされていた責任感の強い会員様。本当にありがとうございました。皆様のご奉仕のおかげで為せた事業であることを、感謝申し上げます。

セミナーの内容そのものについては、報告会で改めて行いたいと思います。

最後に、受講生の感想を二つ紹介します。最初は、地区内の受講生です。抜粋で紹介します。これは、FB で届いたもので、詳しくは報告書に記載します。

「本当に本当に、最高の思い出ができた。このような自分の成長の糧になる、最高の思い出も作れる、とても良いセミナーを企画してくださったロータリークラブの皆さま、私たちインターアクターが充実した 4 日間を送れるようにそばで支えてくれた RYLA カウンセラーの皆さま、お礼を言いたいです。ありがとうございました。今回のセミナーで得た、経験、知識、そしてセミナーに参加された方々との出会い、これらを今後のいろんな活動に活かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。」

もう一つは、タイ人の留学生、チャリターの感想です。

「ありがとうございました。このセミナーに参加して本当によかったです。友達もたくさんできたし、自分の知識も増えました。これからも日本語をしっかりと勉強続けて、将来に向かって、たくさんの人の役に立つ人になりたいと思います。」

オリンピックも終盤に入り、若い選手の活躍に勝って涙、負けても涙、また涙。涙腺がかなり緩くなったことを、このセミナーでも、ひしひしと感じた私でした。



2016年8月26日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 8

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**「中」** 麻雀では、チュンとも言いますが、中庸の「中」です。

安岡正篤(やすおか まさひろ)氏は、「中」について、こう説かれています。

理想と現実との間に分裂、遊離がないというのが、本当の人間らしい姿である。ところが人間というものは、どちらかという現実のほうへいく人と、どちらかという理想のほうへいく人とがある。本当にこれが統一されて少しも危なげないものを「中」という。中道は難しいというのは、ここでもわかる。

理想家肌というのは少し空想的。現実家肌というのは少し堅すぎて、進歩性がなくなるというふうに分かれて、なかなか「中」には行けない。「中」というと、相対するものを結んだその真ん中を「中」というと考えるが、それは「中」の一番幼稚な段階。本当の「中」というのは、矛盾撞着(むじゅんどうちゃく)しているものを解決して高いところへ進める一、これを「中」という。



とされています。難しいですね。

現実と理想、利己と利他の相対する矛盾撞着の中、まさに「中」を追い求め高いところへ進めるのがロータリー、ロータリアンではないかと思いますが、皆さんはどう思われますか？

改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、神戸モーニングロータリークラブより佐々木努様、そして、前島・国際青少年リーダー養成セミナー参加者で柏原高校インターアクトクラブの松本華奈さん、若林芹奈さん、ようこそおいでくださいました。ゆっくりしてください。

今日は8月26日、8月最後の例会となりました。黒田好信会員のInitiation Speechを楽しみにしています。8月の会員拡大・増強月間も終わりますが、会員拡大・増強委員会の皆さまの熱心な活動により、土田光一さんの再入会、金子敬之さんの新入会と、仲間を迎えることができました。大変ありがたい、うれしい限りであります。

私は会長として、年度当初、3項目の活動重点項目を掲げさせていただきましたが、

- 1.会員増強拡大、
- 2.地区補助金奉仕プロジェクトの成功、
- 3.青少年奉仕活動への会員の理解と参加協力、

とも、すべて順調に進んでいます。これも偏に皆様のご協力の賜と心より感謝申し上げます。

会員拡大・増強は、もちろん年間継続であります。8月は事業が大変多く、通例の拡大増強例会を持つことができませんでした。懸案事項である女性会員についても、クラブとしてのコンセンサスを大切に考えていきたいと思っておりますので、委員会で会員の皆様の意見集約などをお願いいたします。また、本音の聴ける炉辺会議などもよろしくお願い致します。

今日は、ノーベル平和賞を受賞された修道女・マザー・テレサが、お生まれになられた日（1910年8月26日）でもあります。



マザー・テレサは、キリストを知らない人が、真にキリストを知るようになることを願っていました。そのことに関連して、彼女はこの世のすべてのキリスト信者にとって大切な、次のようなメッセージを残しています。

『インド独立の父といわれるマハトマ・ガンディーは、キリストのことを知った時、興味を抱きました。しかし、彼はキリスト信者たちに会って、がっかりしたそうです。キリストに近づこうとしている人たちにとって、キリスト信者たちが最悪の障害物になっていることがよくあります。言葉だけきれいなことを言って、自分は実行していないことがあるからです。人々がキリストを信じようとしない一番の原因は、そこにあるのです。』

マザー・テレサの言葉は、一つの宗教だけに限った話ではありません。我々、ロータリー、ロータリアンにとっても自戒とすべき言葉だと思います。彼女の言葉をロータリーに置き換えて、今一度考えてみてください。がっかりさせていませんか？ 言行不一致していませんか？ 今一度、胸のバッチに手をやり、それらを自問自答してください。

実践すれば、人々はロータリーを認めるでしょう。そして、ロータリーは信頼されるでしょう。それで初めて、公共イメージ向上に、より良いクラブに、より良い地域に繋がるのではと思います。

まさに、安岡氏の「中」を目指し、矛盾撞着しているものを解決する努力を怠らず、嵩き人間形成、そして真のロータリアンを目指していこうではありませんか。なにより、その魅力にひかれて、入会者が現れる一、そんな素敵クラブにしようではありませんか。

本日は会員拡大増強月間の最後の例会です。思うところを、正直に述べさせていただきました。

2016年9月2日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

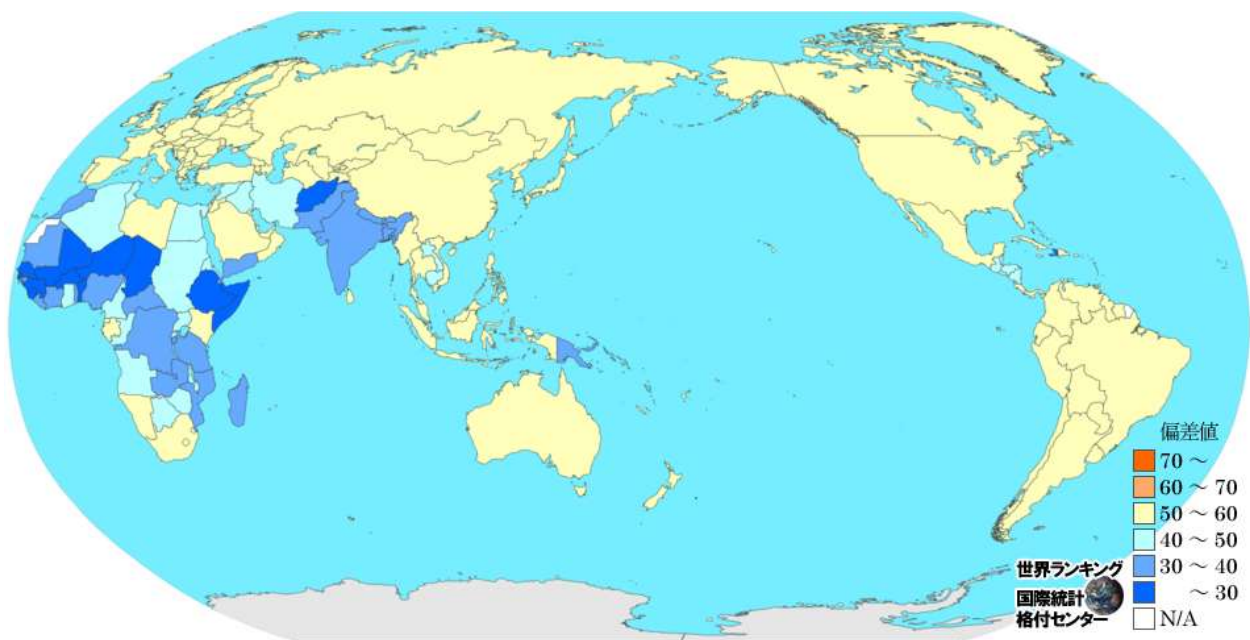
## 会長の時間 9

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**リ**ヒテンシュタインは、識字率 100%で世界一位です。

図は、世界 217 の国と地域を対象とした「識字率についてのランキング」です。他にもいろいろな機関が出している統計がありますが、これは米 CIA のワールドファクトブックにもとづいています。

かつて世界一を誇った日本の識字率は 99.0%で、世界ランキングの順位はなんと 28 位です。2 位は以外にもミサイルを発射する北朝鮮の 100.0%、3 位はノルウェーの 100.0%です。ランキングの最下位は、アフリカ南スーダンの 27.0%です。



識字率偏差値ランキングマップ

改めまして、皆さん、こんにちは。9月のロータリー特別月間は、基本的教育と識字率向上月間、そして、ロータリーの友月間でもあります。本日は、荻野富雄・直前会長と深田俊郎・直前幹事のお二人に、ロータリー情報委員会としての卓話をお願いしております。よろしくお願いいたします。

識字率世界 1 位のリヒテンシュタインを、皆さんはご存知ですか？ カトリックが 80%を占める、西ヨーロッパの小さな国です。国土は小豆島ぐらいで、人口は 36、925 人。神宮球場の収容人数ぐらいですね。これなら、識字率 100.0%もうなすけます。ある意味、種明かしです。

この世界ランキングにしても、調査方法等でかなり違いが出るので、鵜呑みにできない点があります。このランキングによると、タイの識字率は93.5%で、116位となっています。世界平均の識字率が85.9%ですから平均以上となりますが、この数字は大変疑問です。

先日の「前島・国際青少年リーダー養成セミナー」でメイン講師をお願いいたしました、RID3360 タイ国のチェンライ・ロータリークラブの2013-14年度会長、原田義之氏は「これは、でたらめな数字である」と、はっきり言われました。



かつて当地区の高砂青松ロータリークラブの会員でもあった原田氏は、9年前の64歳の時からタイにおられます。そして、ミャンマー、ラオスと国境を接するタイの最北部、チェンライにある国立ダムロンラドソク高校で日本語教師の無償ボランティアをしながら、タイの少数民族であるアカ族の識字率向上に向けて、支援を続けられています。

原田氏によると、タイも地方、特に山間部へ行くと識字率は低く、特にタイ北部の少数民族であるアカ族はアカ語をしゃべります。母国語のタイ語は両親ともしゃべれない家族が多いので、その状況で育った子供は、当然アカ語を話し、タイ語はしゃべれません。それだけに、地域によっては母国語識字率が0%のところも当然あります。

母国語のタイ語がしゃべれなければ、もちろん就職はできません。細々と山間部で、取れ高が低い農業を朝早くから晩遅くまで家族総出でするしかありません。もしくは、この地域は麻薬地帯でもあるので、男の子はお金を稼ぐのに手っ取り早く麻薬の運び屋をするか、女の子は年頃になると売られてしまうかです。

母国語ができない→就職できない→収入がない→学校へ行けない→母国語ができない・・・といった「負」のスパイラルが続きます。このスパイラルは、麻薬や人身売買、売春、HIV感染といった「悪」のスパイラルにも直結してしまいます。

原田氏がアカ族の子供たちにボランティアでタイ語を教えている「夢の家」には、20キロ離れたアカ族の村から、母親が女の子を預けに来るそうです。もしなければ、この子は父親に売られてしまう運命だからです。

そんな悲しく、厳しい現実が、識字率の向上により救われる子供、人、人生がある。しかも、この現代に現実にあるということを知っていただきたい。それは、単に学校へ行けないというだけの問題ではありません。

一方、識字率の問題とは、非識字者の問題というよりも、実は識字者たちが作り出した、つまり私たちに責任のある深刻な課題でもあるのです。例えば、王様や武士階級や僧侶階級などが文字文化を独占してきた・・・という歴史があります。

カンボジアで恐怖政治を行ったポル・ポトは、フランスに留学していました。政権をとった後、図書館を閉鎖し、作家を迫害しました。人々が自由に情報を取り入れ、学んでいくことの恐ろしさを知っているからこそ、そうしたのでしょう。

ポル・ポト体制は、徹底的に知識人を嫌いました。特に、自ら行う体制を批判されることを嫌悪したのです。そのため、兵隊はすべて13歳前後の子どもたちを使いました。カンボジアで大きな虐殺が起きたのは、一部の政治家に扇動された子どもたちによってなのです。

識字率の問題は、文字を教えることが重要な目的なのではなく、文字によって何を教えるか、文字を何のために使うのが、一番大切な識字の原点であるといえます。識字率世界2位の北朝鮮の現実が、これをよく表しているのではないのでしょうか。

貧困や格差から紛争の絶えないアフリカ諸国。日本政府も、アフリカ開発会議（TICAD）首脳会議で注目を浴びましたが、先行する中国を意識しての目先の開発事業や資源供給、物売りの輸出ではなく、基本的教育の実施、識字率向上に向けての支援に取り組むべきです。

そうした教育施策こそ、国を挙げて重点的に行うことが、識字率の下位を独占するアフリカにとって、また日本にとっても、長い目で見れば将来的に最大の成果を上げ、ひいては世界平和につながるのではないのでしょうか。皆さんは、どう思われますか？

2016年9月9日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 10

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**塗**りの芸術、伝統の輪島塗りの工程は、下地の造り一つとっても、強化のための切彫り、そして数回の刻苧（こくそ）から「塗りの工程」が始まります。乾燥させ、それを落とす刻苧落とし、そして生漆（きうるし）塗りの木地固め。さらに乾燥、木地磨き。輪島塗の特徴である布着せでまた塗り、乾燥、着せ物削り、惣身地付け（そうみじつけ）で塗り、一辺地付け、二辺地付け、三辺地付けと、塗りと磨きを繰り返す、やっと下地の仕上げ「塗の目摺（めすり）」となります。



下地だけでも、最低で8回の塗りと同数の磨き。中塗りでも、中塗り、つくろい錆、小中塗りなど、塗りの3工程。上塗りは、二度に分けて行われ、最後に加飾、沈金などが施される。木地づくりから数えると、一つの器ができるまで、なんと124工程があるといえます。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日のゲストは、篠山RCの栗山泰三様です。ようこそお越しいただきました。ごゆっくりしてください。そして本日の卓話は、土田博幸会員による卓話です。楽しみにしています。

また、本日は、明日のロータリー甲子園野球大会の前夜祭です。野球同好会でない方も、ぜひノボテルホテルでの前夜祭に参加いただき、名門・奈良RCに睨みを利かせていただきたいと思います。また、明日の試合には、ぜひ助っ人として、ゲストの栗山様にもご参加をお願いいたします。

9月9日は、年度当初に陰陽五行のお話でも触れた「重陽の節句」です。菊の節句とも言い、今晚は、菊酒で一杯といきたいところです。

さて、なぜ、輪島塗りの話かということ、あの優美な光沢を放ち、しかも実用的な器は、基礎の下地からすべて意味のある「塗り」を何度も繰り返す、そのたびに不要な部分は削り、磨かれる。この過程が、人間形成、ロータリーに通じるものがあるのでは・・・と思ったからであります。

器になる木の切だし整形、漆の採取、加工、塗り、磨き、加飾など、その工程には、その道のプロである職人が経験・知識・技術、そして職能を駆使し、そして一つの見事な器が生まれるのです。それが鑑賞物としての飾りだけではなく、実用性も兼ね備え、実生活にも役に立つ・・・ということです。

輪島の語源は、大陸の人々が能登を「倭島（わのしま）」と呼んだこととされています。また、陶磁器はチャイナ、漆器はジバングということは、皆さんもご存知のことです。まさに日本を代表する器です。単なる飾りではない、実用的で、実践できる輝くロータリアンになりたいものです。

50周年記念誌、田中洋行先輩の追想『草創の頃を偲ぶ』という寄稿文の中に、50年前の熱心にロータリーを学ぶ先輩方の様子が書かれており、大変興味深く拝読させていただきました。ロータリーの真髄、ロータリーの理想について熱心に語られ、勉強されている創立時の先輩方のその姿は、「塗り、削り、磨き」を繰り返す真のロータリアンになるための大切な工程ではないかと思い、素晴らしさに感銘いたしました。これを範とし、その伝統を引き継ぎたいものです。

最後に、「ロータリーへの私の道」より、ポール・ハリスの言葉を紹介します。

『ロータリーの中にあるもの、それは善行 (good works) だけではありません。善行というのは、その下に隠された何ものかが外に姿を現したにすぎないのです。ロータリーの沢山の善行のかけには、目に見えない力が働いているのです。それは善意の力です。

この世界で最も強い力の中には、目に見えないものがあります。私たちの呼吸する空気にせよ、目には見えませんが、私たちの生命を支えてくれるのです。ロータリーの沢山の善行のかけにも、目に見えない力が働いているのです。それは善意の力であり、その善意の力によってロータリーは存在しているのです。』



Good works are not all there is in Rotary; good works are expressions only of something beneath. Beneath the good works of Rotary there is an invisible power; it is the power of goodwill. Some of the most powerful forces in the world are invisible...Even the air we breathe is invisible and yet it sustains life...Beneath the good works of Rotary there is an invisible power; it is the power of goodwill and by virtue of the power of goodwill Rotary exists. (My Road to Rotary)

輪島塗りの124工程ではありませんが、あの美しい器を裏打ちするすべての工程に匹敵するような、そして、なにより時間をかけ、手間をかけ、先輩方から受け継いできたこの柏原RCを、さらに素晴らしいものにしていくではありませんか。



2016年9月16日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 11

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**ル**ーズヴェルト・ゲーム。アメリカの第26代・セオドア・ルーズベルト大統領は、「終盤、7-4から逆転して決着がつくゲームが一番面白い」と言ったとか言わなかったとか。これが「ルーズヴェルト・ゲーム」の由来です。つまり「7-8」で逆転するスリリングな野球の試合のことです。

9月10日の土曜日、甲子園球場にて、第33回全国ロータリークラブ野球大会が、晴天の下、開催されました。吉住俊一監督、森田茂樹主将率いる、我が柏原ロータリー・ルーキーズは、名門にして古豪の奈良ロータリークラブ（創立64年目）と対戦し、見事「8対6」の勝利。甲子園2勝目、昨年に続き連勝しました！



前夜祭のジャンケンで廣瀬隆仁選手が勝ち、先攻を選択して、一塁側ベンチに陣取りました。先発の黒田好信投手の好投で終始リードを続けながら、相手キャッチャーの適宜なパスボールで得点を重ねるという地味な攻撃展開でしたが、制限時間内の最終5回裏、8対6でのリードもピンチ到来。もし、ここで逆転されれば逆ルーズヴェルト・ゲームとなり、奈良RCに至福の喜びを献上するところでしたが、2点差のまま、堅い守りで辛くも逃げ切りました。

改めまして、皆さん、こんにちは。阪神第3グループのガバナー補佐、宝塚中RCの坂上栄樹様、御随行の前田正明様、本日のガバナー補佐訪問例会に遠方よりお越しいただき、誠にありがとうございます。ガバナー補佐の前で、甲子園勝利をプチ自慢報告できたことを光栄に思います。本年度の委員会活動について、常任委員長より発表いたしますので、ご指導、ご教授のほど、よろしくお願いいたします。

全国ロータリークラブ野球大会は、昭和57年、当時の西宮甲子園RC（現、甲子園RC）の会員であった小津正次郎氏のロータリー精神、そして親睦と奉仕を实践すべしという大きな計らいにより、「野球を通じて、親睦の輪をひろげよう」を大会テーマとして、高校球児の「あこがれの甲子園」で始まりました。以来、参加登録されたクラブは日本全国で322クラブにも上り、今回は61クラブの出場となりました。

ゲームの詳しい報告は、監督か主将からあると思いますので、割愛させていただきます。次回の例会が観月例会ということもあり、このよい機会に「親睦」について、少しお話ししたいと思います。

### 「ロータリー精神は、親睦と奉仕の調和の中に宿る」

1907～1913年にわたって続けられた、親睦か奉仕かをめぐる激しい論争の中で語られた言葉の通り、奉仕の心を育くむ原動力として、会員相互の親睦は決して欠かすことのできない大きな要素であります。親睦と奉仕は相反関係にあるのではなく、相互に支えあいながら回転する「二枚の歯車」であると考えなければなりません。

従いまして、今年度の会長スローガン「奉仕するロータリー」においても、親睦は最も重要なポイントと思っています。観月例会、忘年例会、新年例会、親睦家族旅行や、他に各同好会の支援、今回の野球や計画中のゴルフ、実施延期になった釣りなどはもとより、山東会、山西会、柏山会などによる親睦活動は、クラブとしても大いに支援・推奨するものであり、多くの会員の参加の下で活発に行っていたきたいと思います。

しかし、これらの一般的には親睦を図るための親睦活動自体は、実はロータリーのいう真の「親睦」そのものではないということを、我々は心に留めておかなければなりません。ロータリーでは、「親睦活動」そのものは、「親睦の結果」であり、ある意味、「成果」であると考えておくべきです。

ロータリーは、親睦と奉仕の解釈を、敢えて世間一般の人たちが考える解釈と異なる次元に置いていると言ってもよいでしょう。そういう意味では、ロータリーが定義する親睦と奉仕はロータリー独自の概念であり、さらに、それを正しく理解しない限り、「ロータリー思想の原理を語ることは難しい」と言わざるを得ないのです。

fellowship を「親睦」と訳したことに、問題があるかも知れませんが、むしろ、「友情」とか「友愛」と訳す方が理解し易いでしょう。ちなみに、米山梅吉氏がポール・ハリス氏の「This Rotarian Age」を翻訳するに当たって、その書名を「ロータリーの理想と友愛」としたことは、「理想＝奉仕、友愛＝親睦」を意味するものであったと思われます。調べてみますと、戦前のクラブ組織表では、親睦活動委員会の代わりに友愛委員会の名称が使われています。

では、ロータリーが定義する「親睦」とは、一体、どんなことなのでしょう？ 結論を申しますと、[親睦]とはロータリークラブが、クラブとして存続していく上で欠かすことの出来ない「必要条件」であり、ロータリアン個人個人の心が結合した状態を表す概念なのです。

ロータリー運動の実体を見事に表した言葉として、「入りて学び、出でて奉仕せよ（Enter to learn, Go forth to serve）」という言葉があります。世の中のあらゆる有用な職業から選ばれた裁量権を持った職業人が、一週一回の例会に集い、その例会の場で、職業上の発想の交換を通じて分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として奉仕の心が育まれていきます。

そして、この例会における一連の活動のことを、ロータリーでは「親睦」と呼ぶのです。例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践します。これが「十分条件」であり、理想とされるロータリー・ライフです。要するに、例会での「学び」そのものが、実はロータリーの真の「親睦」なのです。

1923～24年度RI会長ガイ・ガンディカーは、著書「A Talking Knowledge of Rotary」（ロータリー通解）の中で、「良き親睦は、決してロータリーのすべてではない。良き親睦は、ロータリーという苗木が根をおろし、成長するための土壌をなしているのである」と言っておられます。

その大切な親睦という土壌を、柏原RCはより肥えた土壌として、常に分厚く保てるように、例会を人生の道場としましょう。そして、その成果としての親睦活動にもより積極的に参加して頂き、ロータリーを大いに楽しみましょう！



2016年9月23日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ（観月移動例会）

## 会長の時間 12

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**を**ぐら（小倉）百人一首に、

月みれば ちぢにもものこそ 悲しけれ わが身一つの 秋にはあらねど

大江千里（23番） 『古今集』 秋上・193

と、大江千里（おおえのちさと）が詠んだ歌があります。

秋の名月を見ていると、いろいろな想いが去来し、心がさまざまに揺れ、悲しみがあふれてくる。秋が私一人だけに訪れたわけではないのだけれど・・・という感じでしょうか？



小倉百人一首の中に、月を詠んだ歌は12首あり、そのうちの一つです。日本では、万葉の昔から日（太陽）を詠んだ歌は少なく、月の歌は数え切れないほど詠まれてきました。星については、七夕のとき詠まれる程度です。わたしたちは昔から、月に特別な親しみを感じてきたようです。

改めまして、皆さん、こんばんは。本日は「観月例会」で、会場を大和様に移しての移動例会です。親睦・家族委員会の山中委員長をはじめ委員会の皆様には、準備から設営まで大変お世話になり、ありがとうございます。今年の中秋の名月は、先週の9月15日でした。ガバナー補佐の訪問さえなければ、中秋の名月の翌日に「お月見」を楽しめたはずでした。本当に、惜しいことをしました。

それにしても、今年度、観月例会で雅楽を楽しめるとは、委員長の教養の深さ、そして柏原RCの文化レベルの高さを感じます。1923～24年度のRI会長ガイ・ガンデイカーも、ロータリーの良き親睦の表現形態は、娯楽的行事よりも、できるだけ教育的、企業経営的であれと言っています。

また、ゲストとして、柏原ローターアクトクラブの田代春佳さんにもお越しいただき、優美な雅楽のあとで我がクラブの誇るコミックバンドにご参加いただけるとのこと、雅楽に勝るとも劣らない美声を期待しております。楽しみにしております。

月を観てなのか、秋は物悲しさを感じるようです。そんな月を詠んだ歌です。「哀愁」「旅愁」などに使われる「愁（しゅう）」の文字は、「秋の心」と書きますよね。「もの悲しい」というような意味ですが、平安の昔から、秋は思索にふける季節であり、悲哀の時季であることが感覚としてとらえられてきました。

大江千里は漢詩人としても有名で、この歌自体、白楽天の「燕子楼（えんしろう）」という詩

『燕子楼中霜月夜 秋来只為一人長』

（えんしろうちゅうそうげつによる、あききたってただひとりのためにながし

＝燕子楼で長年の一人暮らしの末に死亡した国司の愛妓が、月の美しい秋寒の夜

「残されたわたし一人のため、こうも秋の夜は長いのか」

を踏まえたものとして知られています。名高い漢詩の設定を和歌に移し替えて詠むのは、得意中の得意であったと思われます。白楽天の詩を名歌に変えて見せた大江千里、文章博士（もんじょうはかせ）らしい、当代きっての知識人たる教養を見せた歌だったので。

三日月や満月といった、今でも使う呼び名のほかに、昔の人は月にさまざまな名をつけていました。例えば、十六夜（いざよい）の月。十六夜は、十五夜に比べて30分ほど月の出が遅くなるので、それを月がいざよう（ためらう）と表現したのです。さらに17日の月は立待（たちまち）月、18日は居待（いまち）月、19日は寝待（ねまち）月と呼びます。月の出を待つ人の姿勢を名前にしているのが、面白いですね。

月の出が遅いということは月の入りも遅いわけですから、明け方の空に残る有明（ありあけ）の月は概ね16日か17日以降の月ということになります。もし、有明の月を三日月の形に描いた絵師がいたら、知識を疑って見ないといけません。逆に月の出の早い間は夕方から空に月があるので、夕月夜（ゆうづくよ）と呼んでいました。これも風情のある呼び方ですね。

最後に、なぜロータリーの例会で毎回、歌を合唱するのか、みなさんご存知でしょうか？ ロータリーの生みの親ポール・ハリスは、最初の例会を満足げに回想して、「部屋の入口で、もったいぶった威厳をかなぐり捨てて、我々メンバーは少年の頃に戻った」と言っております。すなわち、童心の交流。童心に戻って還って心おきなく話し合う雰囲気をつくるのが大切だからこそ、和気藹々の雰囲気の出発点として、歌を合唱する慣例が生まれたとされています。

本日の観月例会は、『月』だ『秋』だと物悲しむことなく、愉しくそして普段あまりしゃべる機会のない方と腹を割って大いに話をさせていただき、秋の夜長を十分に堪能してください。

~~~~~

### 秋風に たなびく雲の 絶え間より もれ出づる月の 影のさやけさ

左京大夫顕輔（79番） 『新古今集』秋・413

秋風に吹かれて横に長くひき流れる雲の切れ目から洩れてくる月の光の、澄みきった美しさといったらどうだろう！

作者 左京大夫顕輔（さきょうのだいふあきすけ。1090～1155）

本名・藤原顕輔（ふじわらのあきすけ）で、正三位左京太夫にまで昇進。勅撰和歌集の「詞華集」の撰者。父は藤原顕季（あきすえ）で撰家並みの勢いがあり、「六条藤家」として知られている。

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ（ガバナー公式訪問例会）

## 会長の時間 13

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**和**を以って貴しとなす。

聖徳太子（西暦574年生）が発布したといわれる、憲法十七条の第一条の条文です。あまりにも有名な一文ですが、この解釈を「和」を「同」ととらえ、「皆で同じ方に向いている事が大事なんのだ」という「同調圧力」の肯定に間違っただけで使っている人や、「和」を「輪」または「環」のイメージでとらえ、「とにかくカドを立てないで、仲良くするのが一番大切」といった日本人が最も好みそうな意味で理解している方も多いようです。

しかし、憲法十七条すべてを読みますと、決してそうではないことが分かります。この十七条より遥か前の孔子（紀元前551年生）の論語にも「君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず」とあり、これからも明らかに違いが判ります。

結論を先に申しますと、完全無欠にほど遠い人間が公共の利益を実現するためには、派閥的なこだわりを捨てた公正な議論が欠かせず、そのためには、各自が私心を去らねばならない。とてもロータリーチックですが、これこそ憲法十七条が唱えた「和を以て貴しとなす」の真意であります。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、2016-17年度のガバナー公式訪問として、室津義定ガバナー、尼崎中クラブより御随行の谷竹治様にお越しいただき、午前中に貴重なご指導をいただきました。この後、今年度RI会長ジョンF・ジャーム氏のテーマ『人類に奉仕するロータリー』について、津ガバナーから会員の皆様にご解説いただき、ガバナーの熱き思いもたっぷりとお話させていただきます。

一万円札 → 聖徳太子と思ひ浮かぶのは、アラフォー以上。福沢諭吉なら、アラサー以下でしょう。近年、「聖徳太子は、実は存在しなかった」という学説が唱えられ、従来の教科書表記にも変化があります。これまでは「聖徳太子」と書かれていたのが、最近の教科書では「厩戸王（うまやとのおう）（聖徳太子）」（山川出版社の『詳説日本史B』）とカッコつきの表記に変わってきています。その真偽は別の機会として、「和を以て貴しとなす」という憲法十七条は明らかな史実であります。その一条は、こう続きます。

### 忤(さから)うこと無きを宗(むね)とせよ

やはり、逆らうな、従えという「同調圧力」の意味ではないかと思われるかもしれませんが、「忤」は、立心偏（りっしんべん）に「午」（午前午後）という字を書きます。「忤」とは「みだれる」、つまり、バランスを崩すという意味です。「逆」のさからうではありません。ですから、これは有無も言わずに従えという意味ではありません。乱すな、調和を旨とせよ・・・という意味です。



第1条全体の主旨は、多くの日本人が抱いているイメージとはやや違います。読み下し文は、  
「人みな党あり、また達(さと)れるもの少なし。ここをもって、あるいは君父(くんぶ)に順(した)がわず、また隣里(りんり)に違(た)がう。しかれども、上(かみ)和(やわら)ぎ下(しも)睦(むつ)びて、事を論(あげつら)うに諧(かな)うときは、すなわち事理おのずから通ず。何事か成らざらん。」

意味は、

「人はえてして派閥や党派などを作りやすい。そうなると偏った、かたくなな見方にこだわって、他と対立を深める結果になる。そのことを戒めているのだ。それを避けて、人々が互いに和らぎ睦まじく話し合いができれば、そこで得た合意は、おのずから道理にかない、何でも成しとげられる。」

和らぎ、睦ぎという「われらの生業」の歌詞が、ここに出てきました。ただ「仲良く」ということではなく、道理を正しく見出すために党派、派閥的なこだわりを捨てよ・・・と教えています。これは、ロータリーで云うところの「親睦」にも通じます。

これは、最後の条文である第十七条と対応しています。第十七条の内容は、

「重大なことがらは一人で決定してはならない。必ず多くの人々とともに議論すべきである。  
・・・(重大なことがらは)多くの人々と共に論じ、是非を検討してゆくならば、その結論は道理にかなうものになろう」

このように、重大事の決定には独断を避け、人々と議論するにしても、各人が党派や派閥的な見方にこだわっていても、対立が深まるばかりで道理は到達できません。したがって、重大事の決定にあたり、公正な議論で道理にかなった結論を導く前提として第一条があります。

ここで注目すべきは、第一条も第十七条も、討論や議論の効用を最大限に高く評価しているということです。これは逆に言えば、議論をウヤムヤにして表面上の一致のみを求めるいわゆる「空気の支配」や同調圧力に対しては、最も批判的な立場が示されているということです。

「和を以て尊しとなす」という言葉は、自由闊達な議論を封じ、長いものに巻かれろ式の「空気の支配」を強化する脅し文句に使われる傾向がありました。しかし、それは憲法十七條の真意とは全く逆のもので、道理にかなった結論を得るためには、公正な議論が不可欠です。それは、「どんな卓れた人物であっても、完全無欠ということはあり得ない」と洞察していたからに違いありません。

そのことは、下記の第十條を見ても明らかです。

「他人が自分の意見と違うからといって、怒ってはならない。人にはみな心があり、心があればそれぞれ正しいと思う考えがある。・・・自分は聖人ではなく、相手が愚人でもない。共に凡人なのである。それゆえ相手が怒ったら、省みて自分の過失を恐れよ。・・・」

意味は、

「人は他人と意見がくい違ふと、えてして自分は「聖人」で相手は「愚人」のように思いがちです。しかし、「共に凡人にすぎない」と喝破されています。この世に完全無欠な人間などどこにもいません。それなのに、自分だけが完全無欠であると思い込んでいるとしたら、それはよほどの思い上がった錯覚と言うべきでしょう。」

このような透徹した人間観を基礎として、公正な議論が不可欠であり、公正な議論のために党派、派閥的なこだわりやかたくなさを排すべし・・・とされたのです。

では、そうした派閥的なこだわりを捨てるにはどうすればよいのか。また、公正な議論によって道理にかなう結論を得るのは何のためか。これに対する回答が、第十五条にあります。

**「私（わたくし）の利益に背いて公（公共利益）のために尽くすのが臣下たる者の勤めだ。およそ人に私心あれば必ず自他に恨みの感情が生まれる。恨みがあれば心からの協調ができない。協調ができなければ結局、私的な事情で公務の遂行を妨げることになる。・・・」**

つまり、公共の利益こそが目的であるということです。そして、派閥的なこだわりを捨てるためには、まず私心を捨て去る必要があるということです。ますます、ロータリーチックになってきました。

話を転じますが、柏原 RC 創立 50 周年記念誌の中に田中洋行先輩の追想『草創の頃を偲ぶ』という寄稿文がありますが、RC 設立間もない頃、柏原高校インターアクトクラブ（IAC）の設立に向けて、初代会長・竹下一雄氏や会員の岸本秀雄氏のご尽力された様子が書かれています。学校側の反対を説得し、設立にこぎつけられた熱意は、IAC が全く認知されていない当時の状況で（おそらく、ロータリークラブでさえ十分に IAC を認知できていなかった当時）、並大抵のものではなかったと思います。粘り強い話し合いの中、また、稲本和夫氏ではないですが、「動機善なりや、私心なかりしか」一。まさに、私心がなかったからこそ、真意が相手に伝わり、創部が成就したのだと思います。我々、柏原 RC の伝統として、これを引き継ぎ、大切に守り育てていきたいものです。

その、柏原高校 IAC も、2018 年 8 月に創部 50 周年を迎えます。RC の 50 周年とは一味違い、IAC の場合、繋がりバトンリレーの 50 年の歴史であり、これも大変意義深いものです。これまで、部員 1 名という RedDataBook 的危機もあり、手をかけなければ枯れてしまう、いわば 3 年草です。決して委員会任せ、個人任せではなく、皆様の、そしてクラブを挙げての一層のご理解とご支援をお願いいたします。

柏原高校 IAC は、地区内でも今や滝川高校 IAC に次ぎ 2 番目の伝統あるクラブとなっています。ロータリーは単年度制ですが、2018 年の 50 周年に向けての準備を今から始める必要があるかと思えます。その 2018 年は、我々、柏原 RC の 55 周年にあたる年でもあります。我々の 55 周年事業の一つとして計画することも含み、記念事業や祝賀会など、資金面や実行委員会等の準備も必要ではないかと思えます。皆様のご意見を伺いながら、「和」を以って進めていきたいと思えます。

また、その翌年には、インターアクト地区年次大会のホストクラブとして、氷上高校 IAC、氷上西高校 IAC の当番年度（近年は、新設順です）となっており、その準備、予算計画も併せて考えていく必要もあります。

これまで、第 2 回 IAC 地区年次大会（1984-85 年の三浦会長年度、円応教）、第 8 回年次大会（1990-91 年の梅澤会長年度、氷上郡丹波少年自然の家）、第 17 回（1999-2000 年の田村会長年度、氷上郡丹波少年自然の家）と、過去 3 回の地区年次大会を主幹サポートしてきた経験と実績があります。このまま予定通りに第 37 回を主幹サポートいたしますと、20 年ぶりの 4 回目、最多開催となります。

私も、ロータリーに入会以来、第 24 回地区年次大会から今年度の第 34 回大会までの 11 年間、病欠の昨年を除いて 10 回の地区年次大会に参加してきました。これまでの素晴らしい大会には、素晴らしい準備がなされています。いまから議論を始め、十分に時間をかけ手間をかけ、氷上高校 IAC、氷上西高校 IAC と共に、そして柏原高校 IAC にも手伝ってもらいながら、主幹スポンサークラブとして柏原 RC らしい素晴らしい大会を「和を以って貴しとなす」総動員で、演出・準備しようではありませんか。

2016年10月7日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 14

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**勝**海舟は、おそらくその時、アメリカの現状を土産話として聞きながら、立派に成長して帰国した青年が差し出す著書の題字を求められるままに「提督彼理(ペルリ)」と筆で書いたのであろう。黒船浦和来航から始まる激動の明治維新を思い出したに違いない。黒船のペリー提督への憧れ、アメリカ留学時代に生地ニューポートをわざわざ訪ねてまで書き上げた処女作「提督彼理」。私淑する勝海舟に8年間の留学の成果の一つとして、題字の書をお願いした28歳の青年は、米山梅吉、その人でした。(非売品も含めて16の著書・出版物を遺している)



改めまして、皆さん、こんにちは。篠山 RC から満中諦雅様、堀口純男様、ようこそお越しくださいました。ごゆっくりしてください。

10月は「経済と地域社会の発展月間」、そして米山月間でもあります。本日は、2013-14年度米山奨学生で、現在は米山学友会のゴンボジャブ・ナンディンツェツェグさんにゲストスピーカーとして卓話をお願いしています。彼女はモンゴルから留学し、現在、神戸大学大学院理学研究科に所属し、物理学を専攻されています。昨年度のソウル国際大会にも参加され、ヤングリーダーシップセミナー以来、柏原 RAC の田代春佳さんとも交流があります。

日本のロータリークラブの生みの親、米山梅吉の生涯は、大変ドラマチックでありました。NHKの朝ドラ的な波乱万丈の人生で、彼とかかわった登場人物も豪華キャストであります。



米山梅吉は、1868年慶応4年(明治元年)2月4日 江戸城無血開城の年に、大和国高取藩の江戸詰めの藩士・和田竹造の三男として東京芝田村町で生まれました。母は、三島大社の神官の娘で、当時としては最も教養のある家庭に生まれたこととなります。5歳の時、父の死去に伴い、家族は母の実家である伊豆の三島に移り、母の手一つで育てられました。

梅吉は、幼児期から神童の誉れ高い英才でした。長泉村の尋常高等小学校の課程にあたる映雪舎(普向寺)に学んでいた頃には、その成績のよさが瞩目(しょくもく)されています。この頃、隣村の大名主だった米山藤三郎の目に留まり、梅吉を養子にと望まれました。明治7年に生まれたばかりの「はる」と娶らせる気持ちもあったと思われます。1879年(明治12年)のことで、以来、米山梅吉と名乗ることになりました。

維新の波はとても奇妙な形で、静かな三島の田舎に暮らす梅吉の周りに押し寄せ影響します。1881年(明治14年)、梅吉は沼津中学校に進みました。約8キロの道を毎日歩いて通ったと言います。



沼津中学校は前身を沼津兵学校といい、徳川慶喜が大政奉還して駿府に隠棲した際、多くの旧幕臣がこの地に移り住み、その子弟の教育のために作られた学校です。それは、勝海舟らの肝いりで、西洋文化を取り入れた教育を目指して作られた私学でした。梅吉は、ここに関わりを持った誇りを込めて「幕末西洋文化と沼津兵学校」（1934年）の著書を遺しています。

そこの初代校長は、オランダ帰りの西周。儒学、蘭学に秀でて、後に山県有朋らと日本陸軍の基礎を作りました。他には、明治六大教育家の一人、中村正直や山岡鉄舟が教授陣に名を連ねています。明治3年に西周が東京に移り、この「危険」な兵学校は閉校となり、そのあとが沼津中学校となり、梅吉は13歳で入学しました。維新の影響で沼津に参集していた旧幕臣は、当代きっての知識人でした。この時、梅吉にとって、日本最高の知性を学ぶ奇跡的な機会が生まれたのです。

梅吉の入学当時の校長は江原素六。クリスチャン教育者で、英和学園、麻布中学（麻布学園）の創設者でもあります。梅吉は、それまでの漢学に加え、蘭学、西洋文化などの新しい学問にも触れ、知識欲はさらに膨らんでいきます。彼は弁論を好み、また自分で文学誌などを作っては閲覧し、東京で発行されていた「穎才新誌(えいさいしんし)」にもしばしば投稿し、夏目金之助（漱石）と並んで梅吉の作品も多く取り上げられたと云います。

成績優秀、友達も多く順風満帆な学生生活でしたが、「このままでは旧家を継ぎ、地主として一生を過ごさねばならない」一、こうした前途に対する煩悶から、向学心に燃える梅吉は家出を考えるようになります。「沼津では、もう学ぶものは学んだ。この上は上京し、どんな苦学をしても、それ以上の勉強をしたい」という願望から、ついに16歳の時、家出を決行。3日かかりで東京に着いたそうです。

最初は、先輩をたよって銀座の学校に入学しました。ところが、そこでは満足できず、間もなく土居光華先生の塾に移りましたが、そこでも梅吉は満足しませんでした。しかし、この塾で藤田四郎という親友を得て、後年、梅吉が三井銀行に入社するきっかけになります。

アメリカへ行けば、お金がなくてもスクールボーイをしながら学校へ通えることを知った梅吉は、渡米留学することを考えはじめます。そこで、梅吉はしばらく学問をおいて、東京府の吏員（公務員）試験を受け合格、働いて渡米資金を貯めることにしました。その一方で、福音英語学校の夜学や東京英和学校に通って、英語を習い始めます。

2年ほどたち、梅吉は、だまって米山家を出てきていたことを悔い、米山家を訪ねて謝罪し、すべてを許してもらい、アメリカに留学することも了解してもらいました。そして1887年（明治20年）10月、梅吉は晴れて米山家の養子となって入籍し、その翌年、親兄弟に見送られて渡米しました。

当時、学費をもって留学する青年は殆んどおりませんでした。しかし、アメリカには貧しい青年のために学問の道が開かれていました。彼らはスクールボーイと呼ばれ、住む部屋を与えられ、仕事の合間に学校へ行くことが許されていたのです。この頃の経験・苦労が、のちに梅吉自身が生前に行った留学生支援に対する基となったと思われます。梅吉は、ベルモント・アカデミー（カリフォルニア州）、ウエスレアン大学（オハイオ州）、シラキュース大学（ニューヨーク州）で、8年間の苦学の留学生活を送ります。

1895年（明治28年）、梅吉はアメリカから帰国しました。新聞記者を目指していた梅吉は、アメリカで書いた原稿「提督彼理」（提督ペリー）を出版しました。この本の題字は、先に述べたように勝海舟が書いたものです。このころ、梅吉は勝海舟と親しく、また榎本武揚（えのもとたけあき）、福沢諭吉とも交友がありました。

1896年（明治29年）10月、梅吉は“米山はる”と結婚しました。新聞記者になることをあきらめた梅吉は、英語のできる人を求めている日本鉄道会社に入社しましたが、生活は決して楽ではありませんでした。

梅吉は、長女が生まれたのを機に、旧友の藤田四郎の義父・井上馨の推薦で三井銀行へ入行することになりました。1897年（明治30年）30歳の時でした。当時は、政界では伊藤博文、陸軍では山形有朋、財界では井上馨と言われていた時代です。おかげで、生活は安定しました。梅吉は頭角を現し、2年目には上司から認められ、優秀な3人に選ばれ、2年かけて欧米の銀行を見て学んでくる役を命じられました。

同行の3人でまとめた報告書は、三井銀行ばかりでなく、日本の銀行を改めるものとなりました。いつしか梅吉は、三井の米山ではなく、日本経済界の代表者の一人と見なされるようになりました。

1914年（大正3年）、47歳の時、「新隠居論」という考えを発表しました。これは、年寄りは後進に仕事を譲り、これまでの経験を生かして社会に尽くすことをすすめるものでした。

1920年（大正9年）、53歳の梅吉は、日本初のロータリークラブ「東京ロータリークラブ」を設立し、会長になりました。そして創成期の中心となって力をそそぎました。（戦時中は「水曜クラブ」と名を変え、ロータリーの精神は絶えることなく受け継がれます。）

大正13年、56歳の時、三井信託株式会社を創立。初代社長に就任しています。信託業法が制定されると逸早く、新分野を開拓し、その目的を“社会への貢献”とするなど、今日でいうフィランソロピー（Philanthropy）の基盤を作りました。

晩年は、財団法人「三井報恩会」の理事長となり、ハンセン病・結核・癌研究の助成など、多くの社会事業・医療事業に奉仕しました。また、子どもの教育のために、はる夫人と共に私財を投じ、小学校（青山学院初等科の前身）を創立しました。

“何事も人々からしてほしいと望むことは、人々にもその通りせよ”一、これは米山梅吉の願いでもあり、ご自身の生涯そのものだったようです。“他人への思いやりと助け合い”の奉仕の精神を身をもって行いつつ、そのことについて多くを語らない陰徳の人であったといわれています。1946年（昭和21年）4月28日、長泉村の別荘で永遠の眠りにつかれます。78歳でした。

ロータリー米山奨学事業は、1952年に東京ロータリークラブで始められ、1967年財団法人ロータリー米山奨学会として認められ、2012年に公益法人に移行しました。

既に故人だった米山の名を冠したのは、生前、アジア人留学生の面倒をみていた米山の遺志を継ぐには最もふさわしい事業であり、日本のロータリーに偉大な足跡を残した米山を永遠に偲ぶことのできる「無形の金字塔」にしたいと考えられたためです。何よりその背景には、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために、“国際親善と世界平和に寄与したい。自分たちが、世界の人々と友情を結ぶことができると証明したい”という当時のロータリアンたちの強い願いがありました。

私たちも、今一度、米山梅吉の志を想い、ロータリー活動を自分にとっての「奉仕するロータリー」を考え、目指し、行動しましょう。

\*私淑：尊敬する人に直接には教えが受けられないが、その人を模範として慕い、学ぶこと

2016年10月14日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 15

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**四**つのテスト（Four-way test）は、ロータリーの哲学を端的に表現し、職業奉仕の理念の実行に役立つものとして、現在、例会場に掲示され、入会時にも手渡され、職場のどこかには飾られているはずのものです。

このテストは、シカゴのロータリアンで、後にロータリー創始 50 周年（1954-55）に国際ロータリー会長を務めたハーバート J. テーラーが、1932 年の世界大恐慌のときに考えたもので、商取引の公正さを測る尺度として、以後、多くのロータリアンに活用されてきました。



改めまして、皆さん、こんにちは。前々回はガバナー公式訪問で、ちょっと物申しておきたいことがあり、また前は米山梅吉氏の生涯がとても面白く、ぜひお伝えしたいと、どちらも力みすぎて会長報告が長くなりました。会員の皆様に、いらぬ試練と苦痛を与えてしまいましたこととお詫び申し上げます。今回は、若干短く心がけますので、よろしくお願いいたします。

Four-way test の訳ですが、「事業を繁栄に導くための四通りの基準」ならば、当然 Four-way tests と複数形になるはずですが。これが単数形であるのは、事業を繁栄に導くためには、四通りの基準を一つずつクリアすればいいのではなく、四つ纏めたものを一つの基準として、そのすべてをクリアしなければならないことを意味します。ロータリーの目的が Object of Rotary と単数形であり、四つの項目が渾然一体となって、一つの目的を形作っているのと同様です。

また、テストは、実際に検証されてしかるべきです。実践不可能では意味がありません。実社会で上手くいくだろうか？ 我々が、その指針に従って仕事をこなしていけるだろうか？ 皆さんの中にも、「四つのテストは机上の空論であり、ロータリーの理想に過ぎず、もし、これを厳密に会社で実行したら、実際はうまく行かないだろうし、ビジネスに関して言えば、絶対に実行不可能だろう。」と思われるのではないでしょうか？ 本日は、その部分に触れたいと思います。

四つのテストの創案者であるハーバート J. テーラーは、かなり優秀なセールスマンであったようです。また、行動家で、信仰心が厚く、道義を重んじる人物と評されています。1893 年に米国ミシガン州に生まれ、イリノイ州のノースウエスタン大学を卒業後、彼は第 1 次世界大戦に従軍し、その後オクラホマ州で石油会社に勤務。1 年後に同社を退社して、保険・不動産・石油リース仲介業を始めます。数年に及ぶこの事業で成功を収め、1925 年にシカゴのジュエル・ティー社に入社。とんとん拍子に昇進し、その頃、シカゴ・ロータリークラブの会員となります。

1932 年、シカゴのクラブ・アルミニウム社の再建を依頼されます。調理器具メーカーで、総資産額を上回る多額の負債を抱え、まさに倒産の瀬戸際でした。彼は次期社長候補であったジュエル・ティー社を辞め、この難事業を引き受け、危機に瀕した同社に自らの運命を託し、これまでの給与の 8 割減という収入で社長に就任。運営資金に充てるため、自己資金まで同社に投資したのです。

大恐慌下の真っ只中、会社を建て直し、沈滞ムードを払拭するための手段として、社員に倫理的価値観の目安となる簡潔な指針を提供すべく、社の倫理訓について構想をめぐらせました。およそ 100 語からなる文章を作成しましたが、さらに推敲を重ね、それを 7 つの項目にまとめ、さらに自問形式の 4 項目に修正。それが、今日の四つのテストとなります。

できあがった 4 項目を、会社の 4 部門の部長に見せました。4 人はそれぞれ信仰が違いましたが、自分たちの宗教上の教義に反しないばかりでなく、私生活ならびに職業人としての生活の模範的指針になるということで、賛成意見の一致を見ました。

以後、クラブ・アルミニウム社では、あらゆることが四つのテストに照らして判断されるようになり、まず広告からは、「より良い」とか「最上の」とか、あるいは「最高の」や「最高級の」といった表現が削られ、製品に関する事実に基づいた説明文が載せられました。また、競合他社の欠点を論ずる文面も、広告や企業案内から取り除かれました。

こうして四つのテストは、徐々に同社のあらゆる面における指針となり、同社に対する信頼と好意がディーラーや顧客、そして従業員の間にも生まれ、社風の一部となったのです。やがて、同社に対する信望は高まり、財政の改善に寄与することとなります。

ある日、調理器具 5 万点の注文が入ります。売り上げは、まだ低迷状態。会社は依然として倒産の危機から脱していない時であり、喉から手が出るくらいの美味しい話でした。しかし、問題がありました。注文主である業者は、商品を値引き販売したいというのです。これは、「これまで我が社の製品を地道に宣伝し、販促してきてくれたディーラーに対して不公平となる」という点で、4 つのテストに抵触する問題です。結局、この注文は断ります。別件でも幾つか厳しい決断が下されましたが、その中でも最も苦渋に満ちた決断の一つでした。もしこの取引を行ってれば、営業活動のよりどころとする四つのテストを自ら侵すことになり、嘲笑される結果となり、信頼も失ったでしょう。

5 年後の 1937 年には同社の負債は完済され、その後の 15 年間では、株主に対して 100 万ドル以上もの配当が支払われました。また、同社の純資産は 200 万ドル以上に達しました。

いかがでしょうか？ 4 つのテストは、あまりに理想的すぎて実社会には向かないでしょうか？ 四つのテストは、ビジネスという厳しく変転きわまりない世界で生まれ、経済界が経験した最も過酷な世界恐慌の時代の中で、厳密な試験を経てきたのです。しかも、実業界という激しい競争の場で生き残ってきたものなのです。

1932 年の誕生以来、84 年の歳月が過ぎ去った現代社会では、一部で批判があるように、四つのテストは有効性を喪失してしまっているのでしょうか？ それとも、変化の速いこの時代においても、事業や専門職に携わる人たちの指針として、機能するに足る洗練さを保持しているのでしょうか？ 皆さんは、どうお考えですか？

四つのテストは、国家という枠を超えたものであり、国境や言葉の障壁を超越するものです。そこには、政治や独断や特定の信条は介在しません。一つの倫理規範としての存在以上である四つのテストは、いかなる形であれ、人生を成功に導くための要素を持っています。それは、今日の社会でも有効性を保持し、かつ実効性のあるものだと思います。

四つのテスト——、ロータリアンに対して示唆するところを、今一度、考えてみてください。

2016年10月28日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 16

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**多**様性（DIVERSITY）——、小池都知事の十八番の言葉です。

ロータリーに多様性は必要だと思えますか？ こう質問されると、ほとんどのロータリアンは「必要だ」とお答えでしょう。さらに、「ロータリーこそ、多様性という価値観を持つ、誇るべき組織だ」と胸を張って言われる方もいると思います。

にも関わらず、なぜ多様性を受け入れる考え方が広がらないのでしょうか？日本人が実は苦手意識の高い「多様性」について考えてみましょう

改めまして、皆さん、こんにちは。先週は例会を欠席しまして、申し訳ありませんでした。第5回全国インターアクト研究会で、名古屋（第2760地区）へ2日間、パネラーと分科会の講演者として行ってまいりました。2760地区の青少年奉仕委員長・奥田大会運営委員長からの招聘でしたが、会長年度の例会日なのでとお断りしたのですが、金の鯨ほど頭を下げられました。味噌カツが頭をよぎり、ウナギのひつまぶしに後押しされ、ない後ろ髪を引かれる思いで例会を欠席いたしました。

先週の会長の時間は、柳川副会長にお世話になり、ありがとうございました。私のように長くなく、皆さん、ほっとされたのではと思い、週報を見ましたら、あれれ・・・、皆様、お疲れさまでございました。

また、23日の日曜は、西脇 CC にて親睦家族委員会のお世話により、45周年以来(?)の柏原 RC 親睦ゴルフ大会が開催され、予選を勝ち抜いたベスト 16 名の熾烈な争いの中、見事、森田茂樹選手が優勝されました。そして、同日に行われた西脇 CC グランドシニアクラブ選手権では、高橋会員が見事優勝されました。おめでとうございます。私、後半は調子よく、西コースを 8 番までパープレーで回っておりました。最終ホール、セカンド地点の 9 番グリーンから聞き覚えのある声が・・・。なんと高橋グランドシニアチャンピオンです。緊張しました。結果、ダボでした。隠しホール、おかげでダブルペリア準優勝をいただきました。ありがとうございます。



さて、多様性とは、「幅広く性質の異なるものが存在すること」、「相違点」という意味です。さまざまな違いを尊重して受け入れ、「違い」を積極的に活かすことにより、変化し続ける社会環境や地域ニーズに最も効果的に対応することができます。クラブで言うなら、「多様な人材を活かし、組織のパフォーマンスを活かす」ということになると思います。

「多様性（ダイバーシティ）」のコンセプトや取り組みは、米国が発祥です。当初は、女性や有色人種など、マイノリティの機会均等として進められ、差別是正や人権尊重が主な目的でしたが、本格的に取り組まれるようになった最大の要因は、実は「人口構造の変化」です。

米国労働省の「ワークフォース 2000」レポートが、2000年の米国の労働人口構成が大きく変化すると予測しました。具体的には、労働市場への白人男性の新規参加が大きく減少する反面、女性、移民や有色人種が増え、また労働者は高齢化していくというものでした。今では当たり前ですが、当時はとても衝撃的な内容でした。それが消費者の変化にも現れたため、「市場」と「雇用」の双方から、多様性の重要度が大きく増したのです。

日本は、すでに真っ只中です。高齢者が増え、若者が減り、一人暮らし世帯が増えるなど、人口構造が大きく変化しています。さらに、人口減少によって市場が縮小する中、IT化とグローバル化が劇的に進み、環境は複雑さが増すばかり。このような状況の中で、組織が持続的に成長するためには「変化への対応」としての多様性が求められます。従来の画一的な制度や運営が、激変する環境にそぐわなくなるからです。「生き残りをかけた変化への対応」が必要になります。

つまり、好むと好まざるとにかかわらず、多様性は必須だということをご理解ください。ではなぜ、こんな状況下においても、日本では多様性を受け入れる考えが広がらないのでしょうか？ あの活躍したラグビー日本代表に違和感を覚えた方はいないのでしょうか？ 単一民族だからでしょうか？ 島国だからでしょうか？ それとも国粋主義？

いやいや、日本人は本来、多様性に富んだ民族です。漢字やひらがな、外来語を表すカタカナ、祭りにおいてはハロウィンからクリスマス、お寺の除夜の鐘に神社への初詣、日本人のアイデンティティはどこにある！？ というほどの多様性の容認。文化や習慣の多様性には問題がないのが、むしろ問題なのかも知れません。

しかし、対人関係となると、ちと話は変わります。なぜでしょう？ 原因の一つは、日本の教育制度にあるのではないかと思います。制服、丸坊主などの外見的規制や単一化に始まり、「答えは一つ」的な教育方法。例えば、日本では「 $4+5 = \square$ 」、「 $4+\square = 9$ 」という「**正解を求める教育**」。欧米では、「 $\square + \square = 9$ 」のような「**正解を創る教育**」です。すなわち、大学をはじめとした日本の教育機関は、まさに「答えは一つ」、「答えのある世界」でのみ通用する人材の育成に特化し、「答えを創る」「答えのない世界」を生き抜く術を、いまだに教えようとはしていません。つまり、画一化・同質化であります。

同質化した人間を大量生産するのは、高度成長期のように、効率性をひたすら求めていけばよかった時代、すなわち「答えのある時代」では社会の要請にマッチしていたかもしれませんが、しかし、すでに時代は、「答えのない世界」へと突入しています。この世界では、人間の同質化は何のアドバンテージも生まないのです。

海外の日本人学校では、入学条件に日本国籍を有するもの、かつ、日本語が話せることがあります。一方、多様性の進むフランス人学校は、すべてフリーです。規制条件などありません。フランス語のできない人にも、ゼロスタート用カリキュラムが用意してあります。日本国籍と日本語という二つのハードルをあげ、いまだに多様性に対応しようとしていない、これが現状です。

本質的な原因の一つは、「多様性を受け入れる・受け入れない」は理屈ではなく、人の感性の部分、すなわち「嫌だなあ」といった感情の部分ではないでしょうか？ 組織をおもんばかってではなく、個人の感情が優先してはいないでしょうか？ 要するに、現状からの変化を嫌う感覚が、実は最大の原因ではないかと思います。

こころの壁やそのハードルを取り除き、積極的に変化に対応することこそ、未来につながる選択ではないかと思います。ゴルフ場で披露された、実に多様性に富んだ shot。だから多様性、そしてゴルフは面白いのです。

## ※参考：ダイバーシティの基本概念

ダイバーシティの基本概念は、以下の4つです。

- ・個々人の「違い」を尊重し、受け入れる
- ・「違い」に価値を見つける
- ・職務に関係ない性別、年齢、国籍等の属性を考慮せず、個人の成果、能力、貢献だけを評価する
- ・「違い」に係わらず、全社員が組織に平等に参画し、能力を最大限発揮できるようにする

これらを実行することにより、「組織のパフォーマンスを向上させること」がダイバーシティの目的です。ダイバーシティを成功させている企業は、多様な人材の採用や定着ではなく、その先の「活用」にフォーカスして取り組んでおり、企業内の人材を誰一人として無駄にしないことへつなげています。

ダイバーシティの属性は2タイプから成ります。

- ・内側の輪：年齢、性別、国籍、人種、障がい、LGBT（性的マイノリティ）
  - ・外側の輪：雇用形態、婚姻状況、嗜好、収入、親の職業、出身地、価値観など、無限大
- \*LGBT=レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー

一般的にダイバーシティの属性は性別、年齢、国籍など、外見でわかるもので捉えられますが、表面的には見えない要素（家族構成、趣味や価値観など）をも含めて無限大にあり、すべての人々を示すのです。また、地域や状況などによって「違い」は異なります。例えば、同じ男性でも、米国では「白人男性」が主流（マジョリティ）で、「日本人男性」は少数派（マイノリティ）として扱われます。ですから、何の基準で違うのかを見極め、性別や国籍という狭い見方からではなく、幅広い視点でダイバーシティを捉える必要があるのです。

2016年11月4日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 17

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**零**、ゼロの話です。と言っても、百田尚樹の

「永遠の0」の話ではありません。ちなみに「零戦」という戦闘機の正式名称は、零式艦上戦闘機です。当時の日本の軍用機は、採用年次の皇紀下2桁を名称に冠する規定になっていて、零戦の「零式」との名称は、制式採用された1940年（昭和15年）が皇紀2600年にあたり、その下2桁が「00」であるために命名されました。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日は篠山RCから井上隆雄様、ようこそおいで下さいました。ごゆっくりしてください。

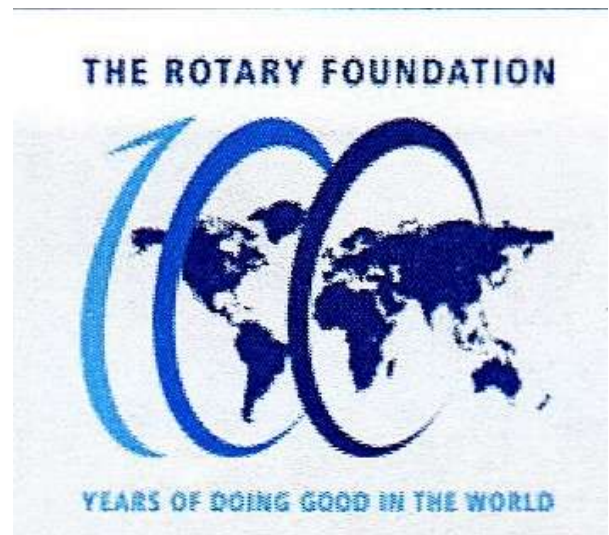
11月は、ロータリー財団月間です。1917年、アトランタのロータリー年次大会において、当時のR1会長・アーチ C クランフが、「世界でよいことをするための基金をつくるのが、極めて適切であると思われる」と発言し、論争を巻き起こしながら、カンザスシティRCのわずか26ドル50セントという寄付から始まり、今年度でロータリー財団創立100周年を迎えています。本年度の世界大会がアトランタになったのも、その関係です。なお、ジョンF.シャームR1会長は、3億ドルの寄付目標を掲げておられます。目標って、・・・何でしょうね？

零・ゼロの発見はインドだといわれています。その概念のルーツは、ヒマラヤ山脈の麓に生まれた釈迦が広めた仏教の教えの中にあります。

数学的なゼロの概念の歴史は、①しるし（ものさしの端、スタートの基準点を表す）、②数字（この位には何も無いという空位を表す数字としてのゼロ記号）、③数（ $N-N=0$ のように数から数を引いて何も残らないとしたような場合の数としてのゼロ記号）の3つの段階があり、それらの全てを完成したのはインドといわれています。

※ドゥニ・ゲージ著：数の歴史より（ゼロについてはバビロニア文明やマヤ文明にも使用されていた事実はある。しかし、しるし・数字・数としての三つの役割をすべて備えたゼロを発見したのはインド人だった）

さて、皆さんよくご存知の「般若心経」——。孫悟空が大活躍する「西遊記」では、三蔵法師がインドに仏教経典を求めて旅をし、元のサンスクリット語の経典を漢語に翻訳して出来たものです。





釈迦の死後約 500 年を経て、同じインドに龍樹（ナーガール・ジュナ）という僧侶が現れます。彼は、釈迦の教えを深めて大乘仏教を唱えました。小乗は有か無かの二元論であるのに対して、大乘は有に非ず、しかも無に非ずの存在として、「空」の哲学を提示しました。ゼロの概念も、実は二重の否定で成り立っています。プラス（正数）に非ずしてマイナス（負数）に非ずの存在は、ゼロに行き着きます。

「日本はよく無思想、無宗教の国だ」と言われますし、日本人自身がそれを自負しているところもあるようです。「バカの壁」の著者、東大名誉教授で解剖学者の養老孟司氏は、それに疑問を呈します。著書「無思想の発見」でこう言われています。「日本は“無思想”という“思想”を持っている」と。

日本人は、無思想・無宗教・無哲学だという。さて無思想とは、どのような事態か。もしかするとそれは、「ゼロ」のようなものではないのか。つまりゼロとは、「なにもない」状態をあらわしつつ、同時に数字の起点でもある。ならば、「思想がない」というのも、ひとつの「思想」のあり方ではないかと……。

無思想であるから形から入り、形にこだわると……。また、彼は著書の中で「日本の無思想とは般若心経みたいなものだ」とも言われています。全文二百六十六字のなかに、「無」という字が二十一あった。これこそ、無思想の思想そのものである——とも言われています。

有名な「色即是空」の「空」は、ゼロでいうなら「数はないが、数字の一つ」と同じ意味であろう。「無」はゼロの「数がない」というほうの意味である。「0」（OFF）としての「無」、「1つ」（ON）としての「空」。これは、コンピューターの 2 進法の世界と同じなのかもしれないなんて考えながら、概念世界は、要するに「無」と「空」で作れてしまう。それだけのことでよ、とお釈迦様は言った……かどうか、私は知りません。

また、養老氏は著書の中で、「私は自然科学を根拠にして『唯脳論』を書いているうちに、いつの間にか。お釈迦様の手のひらに乗ってしまったのである」と書かれ、ここまで明瞭な例があるのに、日本の思想は、すべてとは言わないが、仏教思想だとなぜ言わないのだろうか……とも言われていますが、私もそうだと思います。

日本人が「形を重んじる」のは、思想を持たない思想であるからで、形には思想はいりません。しかし、形は動かしがたく、同時に形は目に見えるから、それは現実だと思われ、理解しやすいのです。

茶道なり武道なり、あるいは神道・仏道・修験道なり、日本の伝統的な「道」を思想として説明するのは非常に困難で、それをよく「理屈ではない」と言われ、そうなのだと言われます。基本的にはそれらは「所作」、すなわち「身体技法」であることが多いと思います。禅なんかも、そうだと思います。

東京オリンピックの正式種目に新しく選ばれた「空手」。語源はたぶん「唐手」でしょうが、格闘技でありながら、他と違い、「型」の競技種目があるのが面白く思えます。そういえば、私の大好きなブルース・リーが映画「燃えよドラゴン」の中で、弟子に稽古をつけるとき、「考えるな、感じろ。あの月のごとく」と言って虚空を指さしました。まさに「空」です。話が脱線してきました。

ロータリー財団創立 100 周年——、零が二つも並びました。皆さんは、何を思い、どうされるのか……。ロータリアンなら、全財産を寄付して預金が「零」=「空」ってことはないですが、財団 100 周年にポリオ ⇒「零」をと、とりあえず私はポリオのポロシャツを買って、日本人の得意な形から入ります。

2016年11月11日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 18

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**素問**（そもん）という、漢方の古典医学書があります。

正式には、「黄帝内経素問」（こうていだいけいそもん）と言い、3世紀の後半に編纂されたといわれています。著者は、中国を最初に統治した帝（みかど）の黄帝（紀元前2510年～紀元前2448年）であるとされています。



改めまして、皆さん、こんにちは。11月11日はポッキーの日らしいですが、関係ありませんね。先日は、30名もの方に、炉辺会合にご参加いただき、大変有意義な時間が持てたと思います。保尾研修リーダーを始め、設営いただいたロータリー情報委員会、そして、ファシリテーターをしていただいた会員増強拡大委員会の皆様に感謝申し上げます。

また、先週2日から今週8日までは世界インターアクト週間でした。皆さん、ご存知でしたでしょうか？ 真夏、氷上特別支援学校での本年度の補助金事業では、炎天下、メンバーやインター・ローターアクトに大変お世話になりました。やっと、事業報告書が出来上がります。ご協力、ありがとうございました。

あの猛暑の夏から一転、この寒さ、一気に冬となりました。こういう時は、風邪をひきやすく何かと体調を崩しやすくなります。本日は私の専門分野である漢方、それも養生法の話をしたいと思います。

さて、漢方を学ぶとき、多くは「傷寒論」（張仲景著・後漢西暦200年）から入りますが、「素問」はその序文に記されているほどの基本古典医学書であります。

昔、黄帝あり、生まれながらにして神靈云々・・・と、こんな書き出しで素問は始まります。内容は、黄帝が、臣下であり医師である岐伯（ぎはく）などとの問答形式で書かれています。

その黄帝が、岐伯先生に問います。

「昔の人は、百歳になっても元気だった。今時の人は50歳になるともうよぼよぼだ。その理由を聞かせてくれ」

紀元前の平均寿命から行くと信じがたい話ですが、そう記述してあります。すると岐伯先生は次の4項目を答えています。

### ① 飲食に過不足がないようにすること。

これは、現代にも通じますね

## ②心身共の過労を戒める。

俗にいうストレスでしょう。漢方医学の基本に「**内傷の七情なくして、六淫の外邪犯さず**」という言葉があり、病因を内なるところに求めています。

## ③酒に酔っての房事はよくない。

酒に酔っての房事は、陽気を出しすぎ、風邪や下痢になる。

## ④春夏秋冬の自然の状態に調和した生活をするのが良い。

自然に調和するとは、素問に一貫して述べられている「**天人合一**」、「**天人相應**」の考え方です。

# 「四気調神大論」四気（季）に心身（神）を調和させる方法。

## ①春の養生法

春の三ヶ月（2月～4月）を発陳（はっちん）といいます。冬の間かくれていたすべてのものが、芽を出し活動的になる時期です。陽気の多くなる時期です。人体も陽気が多くなる時期です。**日の入りと共に寝て、日の出と共に起きます**。心身ともにのびのびと、活動的な気持ち、あるいは活動するのがいい時期です。これが春気に応じる方法です。この春の陽気に逆らって、静かに沈んだ状態していると病気になります。

## ②夏の養生法

夏の三ヶ月（5月～7月）を蕃秀（ばんしゅう）といいます。草木が成長し、万物が茂り花咲き乱れ、陽気が最高潮に達する時期です。この時期は、**太陽が沈むと寝て、日の出と共に起きます**。日中が長いですが怠けてはいけません。適当に運動して一日一回は発汗するように心がけます。気分的にも発散するような気分であるのがいいです。もし陽気を発散しないと、身体内に熱がこもって病気になります。

## ③秋の養生法

秋の三ヶ月（8月～10月）を容平（ようへい）といいます。万物が実を結ぶ時です。すべてが引き締まり収納される時期です。当然陽気も体内深く収納されます。この時期は**早く寝て、鶏とともに起きます**。あれもこれもしたい、などとイライラして、活動的になってはいけません。この時期に活動しすぎて、陽気を発散すると肺が弱り、冬になって下痢になります。

## ④冬の養生法

冬の三ヶ月（11月～1月）を閉蔵（へいそう）といいます。万物が静かに沈み消極的になる時です。全てが収納され、貯蔵されておく時期で、決して発散してはいけません。この時期は、**早く寝て、遅く起きます**。陽気も深く貯蔵されているから、心身ともに活動的になってはいけません。運動などして発汗するなど絶対だめです。もし、この時期に発汗したり、酒を飲んで一時的に陽気を多くし、その反動で冷えたりすると腎が悪くなります。

冬中風邪気味という人がいます。このような人は、養生法が間違っています。病気になってから治療するのではなく、「いまだ、病まざるを治す」といって養生をまもり、まず病気にならないように努力したいものです。そして、体調不良による例会欠席は無いようにお願いします。

最後に、今年の天候とかけて、日本シリーズの広島球場と説く。その心は、「赤く染まったが、あき（秋・空き）がない」一。田中先生、広島は残念でしたね、でも、準優勝です。

2016年11月18日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

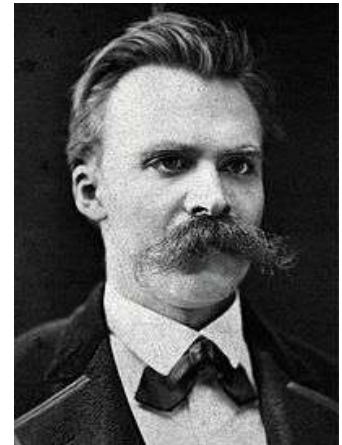
## 会長の時間 19

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**ツ**ァラトゥストラはかく語りき。ドイツの哲学者、ニーチェの著作の中で、最もよく知られている題名でしょう。また、映画「2001年宇宙の旅」の主題曲になったリヒャルト・シュトラウスの同名曲の旋律を思い出す方もいるかと思います。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、RID2680 ガバナーノミネーであり、東播第2グループのガバナー補佐、そして本年度の財団副委員長をされている矢野宗司様にお忙しい中、お越しいただきました。ロータリー財団100周年の本年度、財団についてのお話をいただきます。

また、阪神第3グループのガバナー補佐・阪上栄樹様にもお越しいただき、今年度のIMについてご案内いただきます。よろしくお願いたします。また、篠山RCより今井保晴様、ようこそおいでくださいました。ごゆっくりしてください。



私がニーチェの名前を初めて知ったのは、小学生の頃です。もちろん哲学書を読んだわけではなく、ウイスキーのTVコマーシャルのおかげです。野坂昭如氏が、「ソ、ソ、ソクラテスカ、プラトンか。二、二、ニーチェか、サルトルか」と歌い、「み～んな悩んで大きくなった。オレもお前も大物だあ～！」という歌詞は、当時の流行語になったような記憶があります。

『ツァラトゥストラはかく語りき』は4部からなり、物語は、叡知を身につけたツァラトゥストラが下山してくるところから始まります。「神の死」に気づかない人間に呆れながら、ツァラトゥストラは最初に着いた町で群衆に説法を始めます。まず「超人」について、ついで「おしまいの人間」について語りますが、群衆は大笑いするばかりでした。無意味な話に聞こえたのです。

私、こう見えなくても哲学は苦手ですので、これを読んでも、さっぱりで、「神は死んだ」といわれても・・・。「超人」って??? この作品の意味するところは「永劫回帰」? なんのこっちゃ? これは、睡眠薬としてはもってこいの本でした。3ページで眠れます。

懲りずに、「超訳 ニーチェの言葉」という本を買いました。一昨年でしたか、にわかにベストセラーとなったニーチェの名言集です。読みやすい1節=1ページ形式の本です。3ページで眠っても、3つは読めてしまいます。以下、少し紹介いたします。

「**約束の本当の姿**」として、ニーチェは次のように説いています。

約束は、個人間の契約というだけではない。約束として要求される言葉の裏側にあるものが、約束の本当の中身になるのだ。

例えば、「明日、5時に会いましょう」という日常的な約束の場合でも、それは5時のビジネスライクな待ち合わせだけを意味していない。二人の親密な関係、いたわりあい、信頼、これからも続く絆の確認、相手への気遣いなど、たくさんのものが約束されている。それは人間的な誓いとも言えるものだ。

（『曙光』より）

私は常々、ロータリーの3つの義務の一つである例会出席について、これは義務というより、むしろ入会時に既存メンバーと交わした「約束」であると思っていますし、そうお話しもしています。

毎週金曜日の午後1時、例会場で会いましょう。そして一緒に食事をして卓話を聞き、例会で共に学びましょう。そう、約束したのです。ですから、やむなく約束をたがえれば、当然、ソーリーということになります。お互いの信頼、これからも続く絆、気遣いなどの人としての誓いであると思います。義務感だけの例会出席では、遅刻や早退が目立って増え、自クラブへの出席が減り、メイクアップに頼りがちとなります。それでは、本来のロータリーの例会の意味を成しえません。

### 「友人と話そう」

友人とたくさん話そう。いろんなことを話そう。それは単なるお喋りではない。自分の話したことは、自分が信じたいと思っている具体的な事柄なのだ。腹を割って友人と話すことで、自分が何をどう考えているかが、はっきりと見えてくる。

また、その人を自分の友人とすることは、自分がその友人の中に尊敬すべきもの、人間として何らかの憧れを抱いているということだ。それゆえ、友人を持ち、互いに話し合い、互いに尊敬していくのは、人間が高まるうえでとても大切なことだといえる。

（『ツアラトゥストラはかく語り』より）

ロータリーにおける例会、親睦も、本来そうであると思います。

### 「喜び方がまだ足りない」

もっと喜ぼう。ちょっとよいことがあっただけでも、うんと喜ぼう。喜ぶことは気持ちいいし、体の免疫力だって上がる。恥ずかしがらず、我慢せず、遠慮せず、喜ぼう。笑おう。にこにこしよう。素直な気持ちになって、子供のように喜ぼう。喜べば、くだらないことを忘れることができる。他人への嫌悪や憎しみも薄くなっていく。周囲の人々も、嬉しくなるほどに喜ぼう。喜ぼう、この人生、もっと喜ぼう。喜び嬉しがって生きよう。

（『ツアラトゥストラはかく語り』より）

ニコニコが増えることを期待して、会長スピーチを終わります。

2016年11月25日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 20

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**ネ**ルソン・マンデラ氏は、1996-97年のルイス・ジアイRI会長年度に「キックアウト・ポリオ」キャンペーンの立ち上げを支援したり、サッカーの試合でポリオ撲滅のアピールを行ったり、有名人に撲滅の公共広告に登場してもらったりすることで、アフリカの人々のポリオ予防接種に認識を高め、その結果、30を超えるアフリカ諸国で、初の全国予防接種日を実現しました。



改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、篠山RCから満仲諦雅様、ようこそお越しいただきました。ごゆっくりしてください。

本日は、ブラック・フライデーというそうです。クリスマス商戦までの期間、このサンクスギビングデーを利用して、何やら新たなマーケティング戦略を大手は企んでいるようです。

20日の日曜日、明石で地区奉仕合同セミナーがあり、足立成人幹事と出席し、8月の補助金事業の『知的障害者への理解と支援のためのスポーツ研修合宿』の事業事例発表をしてみました。

また、23日、勤労感謝の日に地区インターアクト次期リーダー講習会が豊岡で開催され、柏原高校インターアクトクラブの参加者5名が、8月に実施した『前島 国際青少年リーダー養成セミナー』について素晴らしい報告をしてくれました。詳しくは、広瀬インターアクト委員から報告があると思います。

さて、皆さんもご存じのように、ネルソン・マンデラ氏は、南アフリカ共和国の第8代、初の黒人大統領であり、人権運動指導者、弁護士でもあります。

2013年12月5日、享年95歳でお亡くなりになりました。同国で3世紀にわたった白人による黒人支配を、1994年の大統領就任により廃止した人物として有名です。若くして反アパルトヘイト運動に身を投じ、1964年に国家反逆罪で終身刑の判決を受け、27年間に及ぶ獄中生活の後、1990年に釈放され、翌1991年にアフリカ民族会議(ANC)の議長に就任。アパルトヘイト撤廃に尽力し、1993年にノーベル平和賞を受賞し、1994年には大統領に就任。民族和解・協調政策を進めました。そして、1999年2月に国会で最後の演説をして、惜しまれつつ政治の世界から引退しました。

1996年、ナイジェリアをはじめとするアフリカ諸国では、ポリオの予防接種は重要視されていませんでした。他の多くの保健問題、資金不足から、ポリオ撲滅は国家的な課題としてとらえられておらず、アフリカでのポリオ撲滅活動には、強力な推進者が必要されていました。

そこで、1995-96年度のハーブ・ブラウンRI会長が、アフリカでのポリオ予防接種復活を応援するようマンデラ氏にお願いしたのです。

マンデラ氏は熱心に耳を傾け、「投獄中にも、私はロータリーが行っていた活動について知っていました」と答えられたそうです。そして、全国予防接種日の実施に協力するよう、アフリカ諸国の元首に呼びかけました。それが、冒頭の話につながります。

ロータリーは 1997 年、マンデラ氏の大きな貢献に感謝し、当時ロータリーからの荣誉としては最高のものであった「ロータリー国際理解と平和賞」と賞金 10 万ドルを贈りました。

ジアイ元会長は、当時を振り返って「マンデラ大統領を受賞者に選んだのは、世界平和、人権擁護、民衆の自由への貢献が理由でした。世界のロータリー会員は、特にアフリカ全土でのポリオ撲滅を協力・応援してくださったことに感謝していました」と回想されています。

受賞に際してマンデラ氏は、「この賞を南アフリカの人々に捧げます。ロータリーのポリオ撲滅の取り組みは、世界の人々が子供たちを救うために知恵と力を結集すれば、どんなに大きなことが達成できるかを示しています」と述べ、賞金 10 万ドルも「ネルソン・マンデラ児童基金」の設立に投じられたということです。

南アフリカのロータリー会員は、亡きネルソン・マンデラ氏を「20 世紀最大の自由・平等の支援者の一人」に数えるとともに、「南アフリカの父」、「奉仕のリーダー」と称えておられます。

また、ロン・バートン元ロータリーRI 会長は、次のように述べています。

**「マンデラ氏は、想像を絶する苦難を乗り越え、現代最高のリーダー、そして最高の人道主義者の一人となりました。マンデラ氏の勇気と確固たる決意、そして情熱は、私たちが平和でより良い世界を目指して活動する上で、今後も大きな励ましとなることでしょう。」**

ロータリー財団月間の最後の締めくくりとして ネルソン・マンデラ氏をご紹介いたしました。

## ※参考までに

歴代RI 会長の話にも、時折ネルソン・マンデラ氏の話が出てきます。以下、紹介いたします。

\*2011-12 年カルヤン・バネルジーRI 会長のブリーフケースには、ネルソン・マンデラの伝記が入っていたと記載されています。

\*2009-10 年ジョン・ケニーRI 会長は、ネルソン・マンデラ氏の「将来、指導的立場に立つ者に教育がなされていない国が成功することはありえない」との言葉を受けて、識字率向上を強調されています。

\*2003-04 年マジアベRI 会長は、「貧困は災害です。この災害を南アフリカの元指導者ネルソン・マンデラ氏は『人間の尊厳に対する最大の襲撃の一つ』と呼びました」と述べています。

2016年12月2日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 21

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**内**憂外患、まさに日本の現状を示す言葉だと思えます。

「国内の心配事と、外国との間に生じるやっかいな事態」という意味ですが、外患として日本を取り巻く隣国の状態と国際事情、内憂としては、特に日本の社会保障費、特に医療費の高騰は、抜本的な改革が迫られています。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日、大変うれしいことに、新会員の竹内理弘（ただひろ）さんがご入会となりました。これから一緒にロータリーを楽しみましょう。会員の皆様方にも、竹内さんに愛情あふれるフォロー、ご指導をお願いします。



扁鹊画像（中国宫廷医学所収附）

12月になりました。今月は、「疾病予防と治療月間」です。本日は、特別月間にちなんだ卓話を、片山会員からさせていただきます。よろしく願いいたします。

ロータリーは、6つの重点分野の一つとして『疾病予防と治療』をあげ、国際的な活動としてポリオ撲滅や疾病予防に関して活動をしてきました。しかし、内憂として、国内では国の存続を脅かすような事態になっています。

今年の9月14日の新聞の一面で、2015年度の医療費が41.5兆円になったと報じた記事をご覧になった方もいるかと思いますが。私が薬学部時代、今から30数年前、ある教授が、「国の医療費が20兆円を超えた。えらいことだ。まだ、どんどん増えるであろう。このままいくと国がつぶれる。国家の危機だ。君達は医療者になる前に、この国のことを国民として考えてほしい」と言われたことを思い出します。このままだと、若い人、子や孫の世代が将来大変な負担を背負うのは勿論、社会保障費で国が破綻します。

2055年、日本は人口逆ピラミッドの社会になります。その頃（2050年に）、兵庫県で一番人口の多い世代は75-79歳の男性・女性です。このような高齢化の中で、メディアが変わってきたのは2年前です。NHKスペシャル「2025年問題」（2014年5月31日に放映）では、2011年の医療費39兆円に対し、2025年には54兆円になると予想しております。2025年というのは、団塊の世代が75歳の後期高齢者になる年です。75歳以上の医療費は、それ以下の人に比べて断然高いという現実があります。

古来中国には、「上医は国を医し、中医は人を医し、下医は病を医す」という言葉があります。国を治すという志を抱いた医師といえば、幕末の久坂玄瑞（くさかげんすい）を思い出します。海外でもマレーシアのマハティール首相など、医師で国をリードした政治家が多々あります。生意気を言わせていただきますと、この国をどうにか漢方で治せないかというのが今の私の願いです。



紀元前、中国の戦国時代、扁鵲（へんじゃく）という漢方医がいました。（個人であったのか、それとも一代なのか、襲名して何代にも亘ってその名を使ったのか、または医療団的なグループなのか、詳細は定かではありませんが、年譜を見ると異常な長生きなのですが、実在した人物ではあります。）扁鵲には、こんなエピソードがあります。

その当時、名医の誉れ高き扁鵲が皇帝に呼ばれ、尋ねられます。

「あなたは3人の兄弟で、それぞれ医者業としておるが、その中で一番腕のいい医者は誰か？」

扁鵲はこう答えます。

「一番腕の良いのは、一番上の兄でございます。次は2番目の兄でございます。」

すると、皇帝は怪訝な顔をし、尋ね返します。

「いやいや、謙遜しなくてもよい。あなたが幾多の難病を治し、当代一の名医だという話は巷では大変な噂。私にまで聞き及ぶが、他の兄たちについては一向にそのような話は聞かぬ、兄を立てているのであろう。でなければ、あなたをわざわざここへは呼ばん。正直に言えばよい。」

扁鵲は、答えます。

「確かに、私はもう助からぬという難病や重病の患者を治療いたすことが多いですが、二番目の兄は、そのような重病になる前に治してしまいます。そして、一番目の兄は、未病すなわち病になる前に治めてしまいます。ですから、長兄は上医、次兄は中医で私は下医でございます。」

「未だ、病まず」一、すなわち未病、これが漢方・東洋医学の真髄であります。罹ってからの養生も大切ですが、罹る前の養生、未病はもっと重要です。

現在、医療現場ではポリファーマシーと言って、必要以上に多くの薬を飲んでいる患者のことが問題になっています。薬剤師としても頭の痛い問題です。医療側だけでなく、病を治すのに養生もせずに薬に頼る患者さんの価値観、そして薬好きな国民性にも問題があると思います。

では、本当に漢方で社会保障費を減らせるのか？ 例えば、年間で1200万人がインフルエンザに罹患します。その4分の1の300万人が漢方薬（麻黄湯など）という薬を使えば90億円、100万人が使うと30億円の医療費が削減できる試算です。ほんの一例です。

今こそ、欧米の後追いを止めて、日本古来の価値観を復活させ、今の医療に漢方や鍼灸等を統合する日本型の医療・ヘルスを追求していくべきです。そうでなければ、この国は持続できないのではないかと思います。

また、休田や耕作放棄地、山林などで、生薬栽培を国家的事業で行い漢方医療を活用していけば、国民の健康への意識も高まると同時に、農林業の再生にも繋がるのではないかと思います。山南町の丹波黄連は、世界一の品質です。活かさないのはもったいないです。

まだまだ、色々とお話したいのですが、これ以上しゃべりますと、「お前の話を治療せよ」と言われそうですので、この辺にしておきます。

皆さん、未病のための予防をしましょう。

2016年12月9日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 22

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**鸞**翔鳳集（らんしょうほうしゅう）はご存知でしょうか？

優れた才能を持った人が集まり来る例えに使われる言葉ですが、鸞や鳳（おおとり）が飛んで集まってくる意から、そう表現されています。

「鸞」は鳳凰に似た鳥、「鳳」は鳳凰のことで、いずれも伝説上の霊鳥です。この二種類の霊鳥を、優れた人物に例えた言葉です。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日のゲストスピーカーは、柏原プロバスクラブ会長、青木潤様です。よろしくお願いいたします。

柏原プロバスクラブは、坂谷高義会長の2006-07年度に提唱、設立に向けての研究がなされ、高橋利明会長の2007-08年度、4月20日に設立記念例会が開催されました。

柏原ロータリークラブからは、元会員であった山名康之氏、中辻剛氏、進藤凱紀氏が、さらに当時の会員であった佐竹茂康氏、梅澤正義氏、坂谷高義氏、そして今は亡き河上輝彦氏など、歴代の会長や幹事を務められた方が入会されるとともに、丹波市内外の名士の皆様が入会・参加してくださいました。まさに「鸞翔鳳集」の新たな会が、ロータリーファミリーとして柏原に誕生したのです。

柏原ロータリークラブにも新入会の方が増え、柏原プロバスクラブについてあまりご存じでない方もおられますので、プロバスクラブについて少しお話しします。

プロバスクラブは、RIの公式プログラムではありませんが、RI理事会が地域社会の高齢者に対する活動として推奨しているもので、ロータリークラブがスポンサーとなります。ロータリーの分類でいえば、社会奉仕活動の一翼を担うものとなります。

プロバスクラブの発祥は諸説あって、1920年代にカナダ・サスカチュワンおよび米国コネチカット州ニューヘブンで創立されたとも、また1966年に英国イングランドのケイターハム・ロータリークラブがスポンサーとなって創ったとも伝えられています。

なお、ロータリー情報マニュアルには、1965年、グレート・ブリテンのロータリアンがプロバスクラブを設立したと記されています。

プロバスクラブは、ロータリークラブが提唱し、専門職務（Professional）と事業（Business）に携わってきた引退者の関心に沿った組織で、毎月会合を開いて引退者が活動的であり続けることができるよう、講演や討論、見学会などを行っています。



鸞

鳳凰

プロバスクラブの目的は、月一回以上の会合を行い、ゲストや会員の卓話を聞いたり、同じような環境や興味を持つ会員との交流・親睦によって共感や価値ある活動の機会を提供したりなど、意義ある生活を推進するということです。

ロータリークラブ会員をロータリアンと呼ぶように、プロバスクラブ会員のことを「プロピアン」と呼ばれます。そのプロピアンのうち、元または現ロータリアンの割合は10～20%程度で、それ以外はロータリーに関係なかった人々です。

全世界に於けるプロピアンの総数は35万人程度、クラブ数は4000以上と推定されていますが、世界的な連絡場所が無いため、正確な数字は不明です。

日本のプロバスクラブは、2008年5月現在の資料しかありませんが、98プロバスクラブ、2千数百人の会員（プロピアン）が存在し、今後ますます増えるものと思われます。

ちなみに、日本で最初のプロバスクラブは、当地区の上郡清流会PC（1988.01）です。本年10月31日、第25回兵庫県プロバス大会が開催されたそうです。また、柏原プロバスクラブ設立後では、宝塚中プロバスクラブが2008年4月に設立されています。

今年の7月21日、柏原プロバスクラブは100回記念例会を迎えられました。足立幹事と私とで、出席させていただきました。大阪プロバスクラブからも3名のビジターを迎えられ、会員4名の次から次への卓話、持ち時間15分を余裕を超えるあの迫力、そしてその内容の深さには恐れ入りました。

来年、柏原プロバスクラブは創立10周年を迎えます。我々、柏原ロータリークラブも提唱クラブとして、またロータリーファミリーとして、そして、いつもプロバスクラブを気遣っておられた故・河上輝彦会員の愛情深い想いに報いるためにも、10周年では何らかのお手伝いができないかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

これを機会に、設立時の「超我の純粋な心」を思い起こし、改めてお互いの理解を深め、お互いに敬愛する心を育む、そんな機会になればと思います。

来週、プロバスクラブ、ローターアクトクラブと合同で、親睦例会を開くことになっています。60名を超える親睦会になりそうです。数多くのご参加をお待ちしております。そして交流し、親睦を図りましょう！ 奥様方のご参加も、歓迎いたします。

柏原プロバスクラブの先輩方の年齢を感じさせぬ熱意、衰えを知らない気概を見習い、我々柏原ロータリークラブも「鸞翔鳳集」と称されるようなクラブになればと思います。

最後に報告を一つ。廣瀬インターアクト委員がお休みですので、代わりに報告します。12月3日、神戸学院大学附属高等学校インターアクトクラブの認証状伝達式に、廣瀬委員、古川委員、私の3名で行ってまいりました。当地区26番目のインターアクトクラブが誕生いたしました。

2016年12月16日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ（ロータリーファミリー合同例会）

## 会長の時間 23

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**睦**（むつむ）、目に順うなり。敬（つつし）みて、和するなり。

睦という字は、「むつむ、したしむ、やわらぐ」の意味です。  
親睦のことです。

『親睦から奉仕へ』は、ロータリーの基本であります。  
ロータリーは「親睦」により会員相互の信頼関係を築き、  
毎週の「例会」によって自己研鑽、高潔なる人間形成に  
努め、それぞれの職能を活かし地域の信頼を得て、社会  
貢献という「奉仕」を実践する「集いし友」がロータリー  
です。

改めまして、皆さん、こんばんは。今日は、柏原  
プロバスクラブ、柏原ローターアクトクラブ、そして  
柏原ロータリークラブ、3クラブによるロータリー  
ファミリー親睦例会です。たくさんの皆様にご出席  
賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

私は、2016-17年度、柏原ロータリークラブの会長をさせていただいております、坂東隆弘と申します。よろしくお願いいたします。

ロータリーファミリー例会は、初めての試みです。今回、初めて出会ったという方もおられますので、若干の説明をしておきます。

プロバスクラブは、ロータリークラブが提唱し、専門職務（Professional）と事業（Business）に携わってきた引退者の関心に沿った組織で、毎月会合を開いて引退者が活動的であり続けることができるように、講演や討論、見学会などを行っている組織です。

柏原プロバスクラブは、2008年4月20日に設立され、もうすぐ創立10周年を迎えられます。現在会員数、22名とお聞きしております。

ローターアクトクラブは、ロータリークラブが提唱し、18歳から30歳までの青年のクラブで、月に2回の例会を開催し、能力の開発や会員相互の親睦、社会への奉仕活動を行っている組織です。なお、ローターアクトの名称はロータリーとアクションから成っています。

柏原ローターアクトクラブは、2014年6月1日に国際ロータリーから認証され、まだ3年目のクラブですが、活発に活動しています。現在9名から成る少数精鋭の会員で頑張っています。



我々ロータリーファミリーには、この他にインターアクトクラブがあります。12歳から18歳までの中高生から成る組織で、社会奉仕、国際理解、リーダーシップ養成を目的に活動しています。県立柏原高校、氷上高校、氷上西高校の市内3校のすべての高校にインターアクトクラブがあり、当クラブが提唱クラブになっています。今回は、お酒の席でもありますので、残念ながら参加してはおりません。

来年のことを言うと何かが笑うそうですが、来年の2月17日（金）、柏原の厄除け大祭では、3校のインターアクトクラブ、柏原ローターアクトクラブ、そして柏原ロータリークラブとで、ロータリー財団創立100周年事業の一つとして「ポリオ撲滅のための街頭募金活動」を行います。とっても寒い時期ではありますが、よろしければ、柏原プロバスクラブの方々にもご参加いただければと思います。

本日は、「親睦」が目的です。お互いをよく理解するために、胸襟を開いて大いに語り合い、大いに楽しんで下さい。また、何かと行き届かぬ点でございますが、温かい目、寛容の精神でお許しいただきますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、開催にあたりご協力いただきました柏原プロバスクラブの皆様、色々な企画をしてくださった柏原ローターアクトクラブの皆様、そして当クラブ親睦・家族委員会の委員の皆様に感謝申し上げます。特に、無理難題を色々とお聞きいただきました、喜作様に厚く御礼申し上げます。

2017年1月6日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 24(新年例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**烏**兎匆匆(うとそうそう)とは、月日の経つのが慌ただしく、早いさまを言います。

太陽には三本足の鳥「金烏(きんう)」が、月には兎「玉兎(ぎょくと)」が住んでいるという中国の神話(※1)や仏教説話(※2)から転じて「烏兎」は歳月の意味、そして「匆匆」はあわただしい様子を表します。

日本の八咫鳥(やたがらす)も足は三本です。おそらく、中国神話からでしょう。

\* 咫(あた)は長さの単位で、親指と中指を広げた長さ(約18センチメートル)のこと、八咫は144cm。但し、ここでいう八咫は、単に「大きい」という意味。

皆様、新年、あけましておめでとうございます。2017年、新春を迎えるにあたり、柏原ロータリークラブの新年例会を「松の内」に開催できますことを大変うれしく思います。

烏兎匆匆、本当に早いもので、私が会長を昨年7月に拝命しましてから、あっという間の6か月。もう、半年が過ぎました。昨年は8月の大きな二つの事業、12月のローターアクト・プロバス合同懇親例会、そして毎週の例会も会員の皆様やゲストスピーカーから貴重な卓話をいただきました。例年より事業が多かった昨年ですが、会員の皆様には多大なるご協力、ご支援をいただきました。ありがとうございました。貴重なお時間を割いてご奉仕いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

本年は酉年です。酉年は、経済や諸々が飛躍する年、そして変革する年だそうです。良い期待をしたいものです。また、それを活かすためにも「鶺鴒の目、鷹(たか)の目」一、鳥の目で鳥瞰図のように将来を俯瞰し、見通しをつける年でなくてはなりません。ちなみに、俯瞰は英訳しますと、birds eye viewと言います。

昨年度のラビンドランRI会長は、会長所信でこう述べられました。

「私たちの人生には、いつか終わりが訪れます。しかも、終わりは思ったより早く来るものです。この限られた人生をどのように過ごしたらいいのでしょうか？」

と問いかけられ、

「私たちは往々にして、あまり意味のないことに捕らわれて毎日を過ごし、物を手に入れるために身をやつします。しかし、私たちがこの世を去った後、人が思い起こすのは、私たちが生前乗っていた車でも、着ていた服でも、肩書きでも、役職でもありません。より大きな資産や、より高い地位を得るために払った努力でもありません。結局のところ、私たちの人生の価値は、どれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって判断されるのです。」 (※3 会長テーマ全文を参考)



昨年の第38回RYLAセミナーで、姫路RCの安平和彦パストガバナーから教えていただいたお話、二宮尊徳の「報徳」の教えについてご紹介します。二宮尊徳は、道徳経済一元論を主張し、「経済を忘れた道徳は寝言である。道徳を忘れた経済は罪悪である。私利私欲に走るのではなく、社会に貢献すれば、いずれ自らに還元される」と述べた方です。

「二宮翁夜話」の中にある、彼が箱根湯本の温泉場で弟子たちに説いた「湯舟の話」。

「湯舟の一方から温かい湯が流れ込んできたら、誰だって自分のほうに掻き寄せざるであらう。だけど、いくら掻き寄せたって、そのお湯は傍らを通って向こうのほうに去って行ってしまわないか。そうではなしに、温かい湯が流れ込んできたら、その湯を人のほうへ押しあげなさい。そうすればその湯は相手を温めていずれお前のほうに巡り帰ってくるではないか」

すなわち、

「たとうれば、この湯舟の湯の如し。これを手にて己が方に掻けば、湯わが方に来るがごとくなれど、みな向こうの方に流れ帰るなり。これを向こうの方へ押す時は、湯向こうの方へ行くがごとくなれども、またわが方へ流れ帰る。少しく押せば少なく帰り、強く押せば強く帰る。これ天理なり。それ仁と言ひ、義と言うは向こうへ押す時の名なり。わが方へ掻く時は、不仁となり、不義となる。」

「人体の組み立てを見るがよい。人の手は自分の方へ向いて自分に便利にできているが、また、向こうに押すことも出来る。これが人道のもとだ。鳥や獣の手は、人と違って、ただ自分の方に向かいて、自分に便利にできているだけだ。人たるものは、他人のために押す道がある。それなのに自分の方に手を向けて、他人のために押すことを忘れるのは、人にして人ではない。すなわち、禽獣である。恥ずかしいことではないか。ただ恥ずかしいばかりではなく、天理に反するから、遂には滅亡する。譲ることに益があり、奪うことに益は無い、これ天理である。」

最後に、ラビンドラン前RI会長の言葉で締めくくります。

「人は手を閉じて生まれ、手を開いて世を去る、また、己の才能は天から授かったものとも言われます。ですから私たちは、その授かりものをお返しするのです。私たちに与えられた時間は今です。この機会は二度と訪れるものではありません。」

一月行き、二月逃げ、三月去る。まさに烏兔忽忽、光陰矢の如し。

本年度の会長方針「奉仕するロータリー」を、新年初頭にあたり、再び申し添えます。新たな年を迎え、昨年に引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますとともに、会員の皆様、会員家族の皆様のご健勝並びに事業の弥栄をご祈念申し上げ、新年例会の会長スピーチといたします。

※1 堯（ぎょう）帝の時代、太陽は十個ありました。ある時、一斉に出てきたため、大旱魃（ダイカンバツ）になりました。そこで、帝は弓の名人羿（ゲイ）に太陽を射落とすように命じました。羿は九個の太陽を射ぬき、太陽の落ちた地点を調べると、そこには射抜かれた三本足のカラスが9羽、横たわっていました・・・という伝説があります。

カラスの足を三本とするのは、陰陽五行思想によるものです。陰陽五行思想では、二は陰数で陰。太陽にふさわしくなく、陽数である三こそが陽、太陽にふさわしいからとされています。日本の八咫鳥（やたがらす）も足は三本となっています。太陽がらみのようです。



※2. 月に兎がいるという伝説は、仏教説話として伝わりました。

昔、「兎」と「狐」と「猿」の三匹が仲良く暮らしていました。三匹は前世の行いが悪かったため、今は動物の姿になっています。人のためになるような良いことをしようといつも話し合っていました。これを聞いた帝釈天は、何か良いことをさせてあげようと、老人の姿になって三匹の前に現れました。三匹は老人のために色々世話をしてあげました。

兎は老人にたき火をしてもらい、「私には何の特技もありません。せめて私の身を焼いて、その肉を召し上がってください」と言うや、火の中に飛び込んで黒こげになってしまいました。

「兎の心がけは立派だ。黒こげになった姿は永遠に月の中に置いてあげることしよう」  
こうして、月には黒こげになった兎の姿が見えているんだそうです。

※3 2015-16 年度国際ロータリー会長 K. R “ラビ” ラビンドラン 会長テーマ全文

私たちの人生には、いつか終わりが訪れます。しかも、終わりは思ったより早く来るものです。この限られた人生を、どのように過ごしたらいいのでしょうか？

世界が良い場所となるよう、人のために何かしますか。それとも、インドの著名な詩人、ラビンドラナート・タゴールの言葉のように、「楽器の弦の張替えばかりしていて、肝心な歌を歌わずに」毎日を過ごしますか。

ロータリーの栄光は、まさにその「歌を歌う」道を見つける手助けをしてくれることにあります。人生で本当に大切なことに目を向け、私たち自身が世界への贈り物となる方法を見つけることで、より充実した意義ある人生を送れるよう、私たちを導いてくれるのです。

友人に何を求めるかを考えると、ほとんどの人は、高潔性、信頼性、思いやり、相性を挙げるでしょう。私たちが求める友人とは、必ずしも自分と似通った人ではなく、自分にはないものを持っている人、自分のいいところを引き出してくれる人です。私は、ロータリーがその特徴を備えていると思います。ロータリーは、私たちの資質を引き出し、それを人生で生かす道を見つけてくれます。

私たちは往々にして、あまり意味のないことに捕らわれて毎日を過ごし、物を手に入れるために身をやつします。しかし、私たちがこの世を去った後、人が思い起こすのは、私たちが生前乗っていた車でも、着ていた服でも、肩書きでも、役職でもありません。より大きな資産や、より高い地位を得るために払った努力でもありません。



結局のところ、私たちの人生の価値は、どれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって判断されるのです。

ですから、苦しんでいる人から目を背けずに、その苦しみを和らげてあげましょう。同情の言葉をかけるだけでなく、実際に何かをしてあげましょう。社会から享受するだけでなく、社会に貢献しましょう。



2015-16年度の私たちのテーマは「世界へのプレゼントになろう」です。

地位や身の上にかかわらず、才能、知識、能力、努力、そして献身と熱意など、誰でも与えることのできる何かを持っているはずです。私たちは、ロータリーを通じて、これらを世界にプレゼントすることで、誰かの人生に、そして世界に、真の変化を起こすことができるはずです。

「人は手を閉じて生まれ、手を開いて世を去る」、また「己の才能は、天から授かったもの」と言われます。ですから私たちは、その授かりものをお返しするのです。

私たちは皆、この世に生まれ、何でもつかみ取ろうとしますが、この世を去る時にはすべてを残していきます。ロータリーを通じて私たちは、いつまでも続く、本物の何かを残すことができるでしょう。

私たちに与えられた時間は今です。この機会は二度と訪れるものではありません。

「世界へのプレゼントになろう」

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 25

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**井** (み) の中の蛙 大海を知らず——、『莊子・秋水篇』から発したことわざです。

### 井鼃不可以語於海者 拘於虛也

井の蛙は以て海を語るべからずは、虚に拘（かかわ）ればなり

井戸の中の蛙に海を語っても無駄なのは、空虚な狭い枠に囚われているからという原文から、見識が狭いのに得意になっている人間を揶揄する言葉として知られています。田舎者扱いされる時にも、しばしば使用されるので、あまり好きなことわざではありませんが、この続きが最近話題になりました。ご存知でしょうか？

改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、阪神第3グループのガバナ一補佐で宝塚中 RC の阪上栄樹様、ようこそおいでくださいました。ごゆっくりしてください。

本日の例会は、半期毎のクラブアッセンブリーです。各大委員長から、年度当初に計画した事業の進捗状況について報告していただきます。よろしくお願いいたします。

井の中の蛙 大海を知らず——の続きは、皆さんはどれだと思われますか？ 次の3つのうちからお選びください。

- a. 井の中の蛙 大海を知らず されど 井の深さを知る (一つの分野を深く究めた)
- b. 井の中の蛙 大海を知らず されど 空の青さを知る (空の美しさを認識できた)
- c. 井の中の蛙 大海を知らず されど 天の深さを知る (瞑想して深い洞察を得た)

いかがでしょうか？ 実は、この後の文章は、のちに日本人がつけたものだと言われています。恐らく、言われて悔しい思いをした人が、されど・・・と詠んだのでしょう。どれも日本人が好む発想になっています。実は、本物一と申しますか、本来の莊子の原文の続きはこうなっています。

**井鼃不可以語於海者、拘於虛也。夏蟲不可以語於冰者、篤於時也。曲士不可以語於道者、束於教也。**

井鼃は以って海を語るべからざるは、虚に拘ればなり。

夏虫（かちゅう）は以って冰を語るべからざるは、時に篤（あつ）ければなり。

曲士は以って道を語るべからざるは、教へに束（つか）ねればなり。



井の中の蛙とは海のことを語るができないのは、虚（くぼみ）のことしか知らないからである。夏の虫とは氷のことを語るができないのは、もっぱら夏の時季のものだからである。曲士（心のよしまな人、あることに秀でる人とも）とは「道」のことを語るができないのは、ある教条にとらわれているからである。

もう少し分かり易く言うと、

井戸の中の蛙には、大海は語れない。自分の居場所にこだわっているから。夏の虫に氷は語れない。夏の季節しか考えないから。大局を見ないものは真理を語れない。卑俗な教理に捉われているから。

荘子の思想は無為自然を基本とし、人為を忌み嫌います。軸となる傾向は、徹底的に価値や尺度の相対性を説き、逆説を用い、日常生活における有用性などの意味や意義に対して批判的であること一とされています。

「井の中の蛙」の井は、井戸と解釈されていますが、はたして本当に井戸なのでしょうか？ 私も、深く暗い井戸の底に、そこそこの大きさのカエルが空を見上げているイメージでした。

しかし、無為自然を基本とする荘子が、当時ならば人工物の最たる井戸など詠うだろうかという疑問、また荘子の時代、井戸がそんなにあっただろうか？ 蛙がアマガエルと知って、なおのこと疑問となりました。

この「井」は閉鎖的、閉塞的な井戸でなく、大海に対する小さな範囲を示す井であり、しいて言えば井型に組み込まれたところ、もしくは単に自然に囲われたところではないかと思われまふ。井戸の中にアマガエルがいても別に不思議はないのですが、いるとしても小さいし暗くてみえないだろう、そんな見えにくい風景を諭すのにわざわざ例にあげ書かざらうか—という疑問も生まれます。すなわち、いつでも見かける一般的な光景を例に挙げて言うのではないかと。

泉や川の水を利用するため、水を汲みやすいように井型になった水汲み場。皆がよく集まって共同利用していた水辺の井。そこに龜がいる。「井の中の蛙」とは、それを描写したのではないかと想像します。

ふと目を移すと、アマガエルが囲いから一向に外に出ようとせず、たたずんでいる。ひと飛びすれば、すぐ井の外に出られるのに、そこから出ようとしない。その様子を観て荘子は、「あの蛙はきっとあのようにして、この場所で一生を終え、この水がやがて大海に注ぎ込むことなど知る由もなく、大海を語れないだろう」と詠んだのではないのでしょうか。

そのように解釈すると、「井の中の蛙」の意味合い、ニュアンスが少し違ってきます。先の三文の意味と併せて考え、思い切った意識すれば、こういうことではないのでしょうか？

小事にこだわれば、大事は見えない。一時だけでは、変化は読めない。偏向は大局をつかめない。

私なりのかなりの意識の解釈ですが、いかがでしょうか。普段の生活では、自ずと活動できる範囲が決まり、自分の「井」は誰にでも大なり小なり存在します。しかし、その井は、自分の意志で広げること出来るのです。

ロータリーの井は、大海をはるかに超えて、世界の井であります。ロータリーを知り、大いに見識を広げましょう。本日のクラブアッセンブリー、よろしくお願いいたします。期待しています。

2017年1月20日

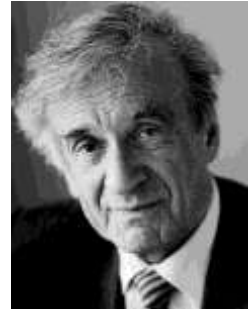
RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 26

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

ノーベル平和賞を1986年に受賞されたユダヤ人作家、ボストン大学教授のエリ・ヴィーゼル（Elie Wiesel）の言葉で、皆さんがよくご存じの有名なものは、『愛の反対語は憎しみではない。無関心です』でしょう。



The opposite of love is not hate, it's indifference.

公共広告機構（現 AC ジャパン）の広告キャンペーンで、マザー・テレサの言葉として間違えて伝えたので、そう記憶している方もあるかもしれません。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、ビジターとして、東播第3グループのガバナー補佐で西脇 RC の高瀬英夫様、ようこそお越しいただきました。ごゆっくりしてください。ゲストスピーカーは、元会員の佐竹茂康様にお越しいただき、職業奉仕月間にちなんでお話をいただきます。佐竹先輩、よろしくお願いたします。

『愛の反対語は憎しみではない。無関心です』

この言葉については、昨年度に荻野会長が、お話になったかと思います。この文章はまだ続きがあり、原文は次のようになっています。

The opposite of love is not hate, it's indifference.

（愛の反対語は憎しみではない、それは Indifference である）

The opposite of beauty is not ugliness, it's indifference.

（美の反対語は醜さではない、それは Indifference である）

The opposite of faith is not heresy, it's indifference.

（信仰の反対語は異端ではない、それは Indifference である）

And the opposite of life is not death, but indifference between life and death.

（そして、生の反対は死ではない、生と死のはざまの Indifference である）

かなり哲学的な文章ですが、全文をみますと、この文章は「愛」について語った文章ではなく、**Indifference** という単語について語っているのだということが分かります。

Indifference を「無関心」と訳してしまうと、あとの文章の意味が通じなくなってしまいます。愛の反対であり、美の反対であり、信仰（信じる心）の反対であり、生の反対でもある。それは何？ という意味から考えると、「無関心」ではなく、「無感情」と訳するのが正しいのではないかと思います。

ヴィーゼルはナチスの強制収容所の生存者で、家族を全員収容所で亡くしているそうです。それを考えると indifference の意味がじわじわと伝わってきます。そして、最後の文章の意味がより深くなります。

今月は職業奉仕月間。皆さんは、ロータリーの友 1 月号の記事をお読みになったでしょうか？

「職業奉仕」はロータリーの根幹か？ という日本のロータリー100周年委員会・ビジョン策定委員会委員長の本田博己氏の書かれた文章です。私は通読ではよく理解できず、何度も読み返しましたが、もはや無感情ではいられなくなりました。

要約しますと、日本のロータリーが根幹として、また金看板として特別な思いを持つ「職業奉仕」は、今や日本だけの位置づけであり、RIは五大奉仕部門に並列する一つという認識である。この差は、日本のロータリーとRIとの間の不幸な現状であると述べられ、日本が世界の潮流に取り残され、「ガラパゴス化」しているとさえも指摘されています。そして、「職業奉仕」という言葉で「奉仕の理念」や自分の職業倫理感を語るのをやめて、「職業奉仕部門」の活動だけを「職業奉仕」という言葉を使うべきである。そういう意味では、今まで日本の伝統的「職業奉仕」論で培った「職業倫理」や「高潔性」に関する日本のロータリーの知恵を、共通言語の「奉仕の理念」で世界に発信してはどうかという内容であったと思います。記事の要約として間違っていますか？

私は、まったくもって納得できません。ガラパゴス化、結構です。

この考えは、少々乱暴な言い方をすれば、右の図の「ロータリーの奉仕の樹」を根こそぎ抜いて、その樹を5つに製材して、各部門を分かり易く並列に並べたということです。

本来、ロータリーはクラブ奉仕という基礎の土壌に、しっかりした根幹、つまり「職業奉仕」という「根」と「幹」があるからこそ、ここまで成長し、「社会奉仕」「国際奉仕」そして「青少年奉仕」という枝を伸び広げ、葉を茂らし、「奉仕の実践」という花粉と働き蜂によって成果という実がなるのです。100歩譲って歩み寄り、無理やり善意に解釈し、奉仕の理念を根幹に代えて5つの枝を・・・という発想と考えると、理念では飯は食えません。木を切って製材すれば見栄えもよく、管理しやすく、利用しやすいかもしれませんが、もちろん成長は止まり、やがて朽ちていくでしょう。

「職業奉仕」を根幹に据えてしまうと、職業を持たない人がロータリアンになることができなくなります。だから、RIは転換期という名のもとに、職業奉仕を一部門に収めたいのでしょう。まるで、5本の柱を立てて、その上にロータリー財団という屋根をかぶせようとしているかのようです。ロータリーの目的と手段を取り違え、いつの間にかロータリー財団に従うロータリーとなるのでしょうか。

本日は、折しもアメリカ大統領の就任式、この先、そのゆく末に対しても、同じような不安を覚えています。

ガラパゴスだからこそ、淘汰されずに生き残った生物もいるのです。自分の職業をしっかり持っているからこそ、家族や社員を養っていけるその気概が、その迫力が、ロータリアンとしての誇りであり、原動力となります。「職業奉仕」は、ロータリーの「金看板」であり、やはり一丁目一番地であると私は思います。

ロータリーの愛、ロータリーの美、ロータリーの信仰、ロータリーの命・・・、私は無感情ではられません。どなたか、坂東のガラパゴス化を止められる方、おられましたらご教示ください。

2017年1月27日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 27

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**王**陽明は、<sup>ぼっほんそくげん</sup>拔本塞源ということが明白にならないと、天下は到底救われ  
ないと言っています。

「拔本塞源」とは、本を抜き、源を塞ぐと書き、原因になる最も根本にあるものを徹底的に取り除くという意味です。本は木の根、源は水源のことで、木の根を抜き、水源をふさぎ止めるということから、問題があったなら表面で片付けるのではなく、根っこから絶つほど真理を徹底することであると言っています。



日本のロータリーも、会員減少等の行き詰まり感についてはRIに振り回されず、「拔本塞源」、すなわちロータリーの原点を根っこから考えるべきだと思えます。

改めまして、皆さん、こんにちは。今年は、本当によく雪が積もります。足立幹事も、なんとか豪雪地帯からようやく復帰いただきました。そのまま冬眠されないか、心配しておりました。

今日は、楽しみにしておりました竹内理弘(ただひろ)会員のイニシエーション・スピーチとなっております。よろしくお願いいたします。

さて、王陽明(1472-1529)は、中国の明代の儒学者・思想家です。学問のみによって理に到達することはできないとして、仕事や日常生活の中での実践を通して心に理を求める実践儒学の「陽明学」を起こした人物です。この陽明学は、江戸時代の日本にも伝えられており、「大塩の乱」を起こした大塩平八郎や、倒幕運動した幕末維新の志士らに影響を与え、特に「吉田松陰」が陽明学の実践者として知られています。宋代の朱子と並び称される明代の大儒であり、詩人・文人でありながら、中国各地で賊を討伐して大功を建てた武人でもありました。人は王陽明を「左手に書物を執(と)り、右手に剣を撫(ぶ)した儒者であり、豪傑であった」と伝えています。

陽明学のお話しを漫然と述べていても、眠気を誘うだけでしょう。それより、王陽明の波乱万丈の人生が大変面白いので、超ダイジェスト版でご紹介いたします。

王陽明は、中国の浙江省の余姚(よよう)に生まれ、父の王華(1446-1522)は、科挙を首席の状元で合格した秀才で、その息子、王陽明も神童と呼ばれるほど優秀であったようです。

10代前半から、中国北部における他国からの侵略を憂い、自国の未来のために働きたいと切望していました。16歳で朱子学に目覚め、朱子の「一木一草にも理がある」という教えに対して、庭に生えていた竹を見て「草木にも理があるならば、この竹にも理があるはず。それを見極めるのだ」と決心し、一週間、不眠不休で竹を見続けました。

どうやら、アスペルガーっぽいんですね。その結果、体調を崩して病に伏す身となり、その上、「竹の理の究明に失敗した自分は、とても聖人や賢人になれる資格はない」と自暴自棄になり、儒教の学習を放棄してしまいました。

陽明は17才で結婚します、体が弱かったために「聖人」になることを諦めた陽明は、道家思想とも言うべき「養生の説」に傾倒します。

ところが翌年、儒家に出会って「聖人は、学べば必ずなれる」と教えられると、再び儒教を学び、官吏（国家の役人）になることを志すようになります。そして22才と25才の時、科挙の試験に挑戦しますが、2度とも落第。失意の中、再び辞章の学や兵法についても学ぶようになります。

27才になった時、またしても朱子の教えに基づき、物の「理＝本質」を追求しようと試みたものの失敗。陽明の中では、どうしても「心」と「理」は融合せず、失意の中、再び持病が発病。またもや「聖人」になる夢を諦め、道士の養生の説を慕うようになります。

ところが翌年、28才の時、遂に念願の科挙の試験に合格し、晴れて出仕します。「聖人」として燃え、これからという時、今度は病弱だったことに加え、肺病にも冒され、休職して帰郷するという事態になってしまいます。世を捨て、俗世間の諸念を一切絶とうと思い立ち、洞に閉じこもったその時、陽明は忽然と悟ります。「肉親への想いまでも捨てるという道教の教えは間違っている」と。

「聖人」に復帰後、中国の歴史上、最も無能な皇帝と言われている武宗の時、その取り巻き官僚の汚職や賄賂政治に物申し、今度は遠方の土地「竜場」に流されてしまいます。正義感？ アスペルガー？

陽明、37歳。当時、この地方の住民は漢民族ではありません。住民は洞窟に住み、陽明も周りと同様に洞窟で暮らしました。しかし、体の弱い陽明はここで生死をさまよう想いをします。洞窟でひたすら静坐を続け、「物の理」について考え続ける陽明でしたが、或る夜、忽然と光が差し込みます。

「物の理は心の外にあるのではない！ 『理』は我が心の中にあるのだ！」一。この時、遂に朱子学と袂をわかち、「陽明学」が産声を上げたのです。

翌年、陽明38歳。彼は、陽明学の基本的な思想である「知行合一説」の論を唱えます。「知行合一説」とは、「心の中で自分がすべきことを知っているならば、それは必ずと行動に表れる」というもので、徹底した経験主義者だった陽明だからこそ行き着いた神髄といえます。

年末、陽明は江西省の県知事に任命されます。この頃になると、陽明は数名の門人を抱え、陽明学を説き始めていました

陽明、45才。江西省の南、福建省や広東省の治安維持を命ぜられ、約一年半の間にこれらの地方の険難なところに要塞を造り、賊の討伐にあたります。この地方には、過去にも多くの武将が賊討伐を命ぜられ遠征してきましたが、ことごとく敗退。そこは、いまだ平定されていない危険な土地として知られた場所だったのです。

この地方の賊の平定に当たった陽明は、戦を仕掛けるのではなく、まず賊に対して仁義王道を説き、説得することから取りかかりました。その際、賊に宛てた文章は「一読すれば、感涙にむせばざるを得ないような、情愛の溢れたもの」であったといわれ、それを読んだ賊の頭の中には降伏して陽明に忠誠を誓った者もいたそうです。

説得に応じない賊に対しては兵を以て討伐にあたりましたが、あらゆる兵法に通じて向かうところ敵なしの圧倒的な強さをみせたそうです。しかし、注目すべき点は、戦よりもむしろ戦後処理です。戦いが終わると、陽明は再び治安が乱れないように良民の生活の安定を図り、その教化に力を尽くすといった政策を実施し、学校を作ったりもしました。

賊の討伐中に陽明が門人に与えた手紙を紹介します。

「山中の賊を破るのは易い。しかし、心中の賊を破るのは難しいものです。あなたが心の中に巣くう仇を一掃し、晴れ晴れとした気分を得ることができるようになれば、それこそが偉大な業績となるのです」

王陽明の戦いは、まさに自分自身との戦いで、「いかにして私利私欲を捨て、人のため生きることができるのか？」一、それを陽明はひたすら追い求めました。

王陽明49才。ついに「良知＝良心」が学問の大本領であることを悟り、「致良知説」を唱えるに至ります。

陽明は、「良知とは、古来の聖人たちが相伝えたものを血脈とし、かつ何人にも生まれつき備わっている普遍的なものである」と述べています。さらに、「この良知に従えば、物の真偽・是非・善悪は即座に判別せられ、私利私欲の一念も、焼けた炉の中に雪を投じたときのように一瞬に解消し、善を好み、悪を憎んで、すべて天理に基づく行いをするができるようになる」と門人達に語りました。「良知」こそ、陽明が朱子学について抱いていた疑問を解決する決定的な物でした。

さらに陽明は、「人は誰でも生まれつき、聖人と同じ良知を備えている」と唱えました。当時、陽明の演説に接した者は感奮興起、聖人の学に志す者は強い自信を得たといえます。

50才の時、陽明は「寧王の乱」の平定の功によって、新建伯に封ぜられます。その後は、門人達の教化に務める日々を過ごしました。

56才の時、またもや広西省の賊の討伐を命ぜられます。陽明の体は既にボロボロで、「その任務にはとても堪えられない」と辞退したものの許されず、その年の9月、やむなく遠征に出発しました。ここでも同じく説得から入り、それでも聞かぬ賊に対しては実力で討伐、翌年7月には任務を完了しました。

しかし、遠征地での激務は、陽明の身体を確実にむしばんでいきました。朝廷に病氣療養のため帰郷許可をもらうよう奏請するも、8月には病状はますます悪化。しかたなく、朝廷の許可がないまま帰郷の途に着きました。

故郷への帰郷中の船上、門人の周積に、「此の心光明、亦復（また）何をか言わん」という言葉を残し、永遠の眠りについたらと伝えられています。

王陽明の陽明学は、ロータリーの精神に通じるものがあります。なぜ、中国は先駆者から素晴らしい思想を学ばないのでしょうか。彼らこそ、歴史を学んでほしいものです。



2017年2月3日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 28

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**黒**船見物禁止令が、安政元年（1854年）の今日、2月3日に発布されました。

禁止令を出すくらいだから、やっぱり見物人の数はすごかったのでしょうか？



太平の 眠りをさます 正喜撰（じょうきせん）  
たった四はいで 夜も眠れず♪

この有名な狂歌でもわかる通り、その当時、日本列島は上を下への大騒ぎだったのでしょか？

改めまして、皆さん、こんにちは。2月になりました。本日は、2月3日で節分。今日から、春が始まります。

今月は、平和と紛争予防/紛争解決月間です。本日は、紛争解決の研究者、歯科医師もしておられます荻野泰男先生から、平和と紛争予防についての卓話をいただきます。よろしくお願いいたします。

さて、黒船来航に右往左往していたのは幕府の方で、一般庶民は意外と冷静だったようです。調べてみれば、日本近海に外国船が登場するのは、何もペリーさんご一行が最初ではありません。

寛政四年（1792年）ペリー来航の62年前、ロシアのラックスマンが根室に。

文化元年（1804年）には、同じくロシアのレザノフが長崎に。

文化五年（1808年）にはイギリスのフェトン号が同じく長崎に侵入し、オランダ人を人質に3日間に亘って湾内をウロウロと航行し続けます。この時は、その責任をとって長崎奉行・松平康英が自刃という悲惨な結果に。

さらに文化八年（1811年）、これまたロシアのゴローウニンが無断で国後島に上陸し、逮捕されるという事件まで発生しています。

その後も、文政元年（1818年）にはイギリスのゴルドンが浦賀に。

文政七年（1824年）には、やはりイギリス船が常陸（茨城県）大津浜に。

そうこうしているうちに天保十三年（1842年）、アヘン戦争で、清（中国）はイギリスの半植民地状態になってしまいます。

この間、幕府の態度は、漂流船に燃料や水を補給して穏便に返す『撫恤令（ぶじゅつれい）』を出したり、逆に『異国船打ち払い令』を出したり、またまた燃料補給OKという『薪水給与令（しんすいきゅうよれい）』を出してみたりと、二転三転の対応策を講じています。

やはり、右往左往していたのは幕府のようですね。

アメリカも弘化三年（1846年）、ピットル率いる軍艦が、場所も同じく浦賀に来航します。この時のピットルの開国要求を幕府が拒絶したため、歴史では大きく扱われていません。しかし、次にペリーがやって来た時には、幕府が右往左往して条約を結んでしまったものだから歴史として残り、一般庶民も驚いたことになってしまっているのでしょう。

吉田松陰は黒船来航のニュース知らせを聞いて、そのわずか25時間後に見物に行った時のことを日記に記しています。

『土人（浦賀の地元の人）、甚だ憂ふるの色あり、然れども絶えて騒擾（そうじょう）の態なし』

つまり、「地元の人には、心配はしているけれど騒いではない」と書いています。それどころか、小舟を漕ぎ出して黒船のそばへ行き、乗員と物々交換で珍品を手に入れようとしてみたり、外国人相手に商売を始める者もいたようで、庶民は幕府よりはるかに冷静で、したたかだったようです。

やはり、「たった四はいで夜も眠れなかった」のは幕府のほうで、その敏感さゆえに『黒船見物禁止令』なんてことになったのでしょうか。

3年に一度の規定審議会に基づくロータリーの新しい標準クラブ定款ですが、大きく変わっています。既にお読みになったでしょうか？ 決定した定款については変えられませんので、必要に応じてクラブ細則で補正します。その後、不服事項はRIへ異議申し立てをしなくてはなりません。

次年度のRI会長、イアンH.S.ライズリー氏のテーマは、「ロータリー 変化をもたらす」です。ロータリーにも、黒船が来ています。

折しも、本日、アメリカ合衆国のマティス国防長官が来日されます。彼は、日本にとって鬼なのでしょうか？ 福なのでしょうか？

「トランプ黒船」の一挙手一投足に 日本政府は右往左往したりせず、外交を誤らないように願いたいものです。

2017年2月10日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ（篠山ロータリークラブ合同例会）

## 会長の時間 29

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**薬**食同源、薬と食の源は同じである。医食同源でなじみがあるかも

しれませんが、(実は、医食同源は中国に古くからある薬食同源思想を紹介するときの造語です) 医食であるなら同療で、医食同療、薬食同源です。いずれにしても、食の重要性を説いたものです。

**“食は生命なり、食誤るとき病発す。食正しければ病自ずと癒える”**  
というもので、薬を飲むことと食べることは同じというものです。

改めまして、皆さん、こんばんは。今日は、篠山ロータリークラブとの合同例会です。足元の悪い中、柏原までお越しいただき、誠にありがとうございます。何かと至らぬ点もあるかと思いますが、ご容赦いただき、またご指導をお願いいたします。



そして、本日のゲストスピーカーとして、RID2680 ガバナーエレクトで神戸西 RC の瀧川好庸様にお越しいただきました。「2017年の国際協議会から帰国して・第一報」として、来期に向けての構想など、色々とお聞かせいただけるかと思えます。よろしくお願いいたします。

ビジターとしては、東播第3G ガバナー補佐で西脇 RC の高瀬英夫様、そして細田俊之様、阪神第3G ガバナー補佐で宝塚中 RC の阪上栄樹様、そして、古川彰治様、田辺朱希美様。ようこそお越しいただきました。ぜひ、合同例会を一緒に楽しんでください。また、本日の例会の受付等、柏原 RAC のメンバーにもお手伝いいただきましたことを、ご紹介申し上げます。

薬食同源の話は、こんな機会に敢えてしておきませんと、私の職業分類を間違われそうですよね。ご存知の方もいるかもしれませんが、一応、念のため申し添えます。私は、薬局で薬剤師をしております。よろしくお願いいたします。実は最近、自分の職業欄にロータリーと書きそうになってしまいました。

さて、篠山の特産品であるヤマノイモのお話をします。ヤマノイモの生薬名は、山の薬とかいて山薬（サンヤク）といいます。ご存知でしたか？ 山の薬ですよ。実際、漢方薬の八味地黄丸や六味丸、薯蕷丸などに使用されています。主成分はジオスゲニン。薬効は滋養強壮、止瀉（下痢止め）、鎮咳（咳止め）、止渴（渴止め）となっていますが、それだけでは説明がつかない、もっともっと違ったパワーがありそうですね。もしかしたら、篠山 RC 様の例会出席率 100%達成の秘薬だったりして。

実際、私の父が生前、突発性の麻痺性外斜視を患った時、ヤマノイモを使用した薯蕷丸という漢方薬で治療し、完治した経験があります。興味深いことに、その漢方処方には、黒豆の発芽したもやし（の豆黄巻（すおうけん））という生薬を入れます。まさに身土不二、底知れぬヤマノイモ、黒豆、丹波のパワーを感じます。

また、ヤマノイモの学術名は *Dioscorea Japonica* です。Dioscorea は、「薬学の祖」とも呼ばれる西暦 1 世紀のギリシャ人の植物学者ディオスコリデスにちなんで命名されたものです。まさにヤマノイモは、名実ともに薬食同源を地でいっている代表的な食薬品だということになります。

ビジターで来られた皆さん、ぜひお土産には、ヤマノイモをどうぞ。よそで食べずに、自宅で食べてくださいね。

丹波地域の深い霧の中、豊かな土壌で育てられた農作物は、どれもが他の地域のものより大きく、そして栄養価も高く味も良い高品質の食物が取れます。

私たち柏原ロータリークラブも、丹波地域のロータリークラブとして、篠山 RC 様のように中身が濃く高品質であると認められるよう、努力していきたいと思います。

本日は、積雪などは気にせず、十分に楽しんで下さい。もし帰れない場合は、夜通し飲み明かしましょう。ご清聴、ありがとうございました。

#### 参考※

医食同源という言葉は、1972 年、NHK の料理番組『きょうの料理』の特集「40 歳からの食事」において、臨床医・新居裕久が発表。(NHK「きょうの料理」同年 9 月号)。これは健康長寿と食事についてのもので、中国に古くからある薬食同源思想を紹介するとき、薬では化学薬品と誤解されるので、薬を医に変え医食同源を造語し、拡大解釈したものであると新居裕久は述懐している。

2017年2月24日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

会長の時間 30(ロータリー創立例会・三木明氏)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**麻**姑搔痒(まこそうよう)という言葉をご存知でしょうか？

かゆいところに手が届くことから転じ、物事が思いどおりになることの意味ですが、ニュアンス的には適切、的確、どんぴしゃり「まさにその通り！ いい得て妙！」という感じでしょう。それを表現するのに「麻姑という者に痒い所を搔いてもらうかのようだ」と例えています。

痒い所を搔いてもらうと言えば「孫の手」ですが、実は「麻姑の手」が本当です。

麻姑(まこ)は、中国神話に登場する(下八洞神仙の一柱)仙女で(西晋・東晋時代の葛洪の書『神仙伝』などに記述あり)、その容姿は18~19歳の若く美しい娘。鳥のように長い爪をしていると言われ、また長寿の象徴ともされています。

中国、漢の桓帝(かんでい)の時代、蔡経(さいけい)という者が麻姑の長い爪を見て、「あの爪で背中をかかせたら、さぞかし気持ちがいだろう」と心の中で思ったという故事から来ています。



改めまして、皆様、こんにちは。昨日、2月23日はロータリー創立記念日でした。皆様、それぞれロータリアンとしての誇りに祝杯を挙げられたことと思います。

本日の例会をロータリー創立記念例会とし、「ロータリー創立記念日にちなんで」と題し、麻姑搔痒、どんぴしゃりのゲストスピーカーとして、次年度のRI理事で2007-08年度ガバナーの三木明様をお願いいたしました。本当にお忙しい中、ご無理を申しましたが、快くお引き受けいただきました。姫路よりお越しいただき、卓話をいただきます。感謝です。ありがとうございます。

また、本日は大変多くのビジターの皆様にお越しいただきました。西宮イブニングRCより黒田建一様、神戸垂水RCから岩崎淳様、宝塚中RCから前田正明様、西脇RCから高瀬英夫様、北川功様、三田RCから柴田茂徳様、今垣均様、篠山RCから満仲諦雅様、小田垣博三様、後藤幹史様、大見春樹様、太野垣勝弘様、ようこそお越しくございました。感謝です。ロータリー創立記念例会をお楽しみいただき、ごゆっくりしてください。

また、先週の17日は、地元柏原の厄除け大祭のために休会としましたが、その厄神さんにて、ポリオ撲滅のための募金活動を実施しました。ローターアクター2名、柏原高校、氷上高校、氷上西高校の3校のインターアクター28名、そしてなんと柏原RC会員22名、合計52名もの参加・協力をいただきました。募金金額は92,328円で、多くの市民の皆様にご協力いただきました。

土田博幸公共イメージ委員長を始め、篠倉ロータリー財団委員長、そして奉仕プロジェクト委員会の菊本青少年奉仕、岸田国際奉仕、余田社会奉仕の各委員長を中心に、委員会の皆様には大変お世話になりました。改めまして、ご参加いただきました皆様に、心からお礼を申し上げます。

なお、当日、どうしても都合がつかず、無念の涙でご参加できなかった方のために、只今よりポリオ募金箱を回しますので、そのお気持ちを形に変えて入れていただければ幸いです。

また、その翌日の18日、阪神第3グループのIMに多くのご出席をいただき、ありがとうございました。「21世紀型の国際協力とは？」という演題で、元国連アジア太平洋経済社会委員会事務局次長で関西学院大学総合政策部教授の村田俊一先生の大変有意義なご講演、そして懇親会ではさすがに宝塚という、迫力あるオスカルを拝見いたしました。ありがとうございました。

さて、本日のゲストスピーカー、次期RI理事の三木明P.G.のご紹介ですが、ご経歴等の詳細はお配りしたプロフィールにありますので、それをご覧いただくとして、私が三木明氏と初めて出会った時のお話を少しさせていただきます。

2007-08年度に初めて新世代の地区インターアクト委員として、会議に出席した時のことです。あれは、忘れもしません。でも、場所は忘れまして。「地区から案内状をもらった会議には、すべて出席しなくてはいけない」と思いこんでいた入会3年目のまだ初々しい私は、しょっぱなの会議に、有ろうことか遅刻してしまいました。

会議場に恐る恐る入りますと、30名ほどの地区委員がそろっておられ、三木ガバナーの挨拶の途中だったと記憶しています。三木ガバナーは私を見つけるなり、「坂東君か、君の席はそこだよ」と、ガバナー自らご案内してくださいました。初めてお会いするガバナーなのに、この新米の委員をいきなり名前で呼んでいただいて・・・、驚きでした。光栄でした。感動しました。ハートをキュッとつかまれました。「一生、この人について行こう」と思ったかどうかは忘れましたが、気がつけば、どういうわけか、常に青少年奉仕畑を歩んでいます。

第32回ですから、7年前、RYLAセミナーに初めて参加した時、三木P.G.に「これで君も、RYLA蟻地獄にはまったな」と不敵な微笑で言われた、あの余島RYLAの夜を忘れません。

「正師に見ゆ(まみゆ)ること難(かた)し」一。敬愛する三木明P.G.から、私の会長年度の卓話にきていただく。まさに「麻姑搔痒」一。私自身が、一番ワクワクしているかもしれません。

「ロータリー創立記念日にちなんで」のお話を少しでも長く拝聴させていただくため、会長の駄弁は、これで終わります。本当の意味でのプレミアムフライデーになりました。感謝いたします。ご清聴、ありがとうございました。

2017年3月3日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 31 (インターアクト卒業例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**敬**愛和協、質実剛健、進取創造は、県立柏原高等学校の校訓です。

そして県立氷上西高等学校の校訓は、自主、互譲、責任です。特に「敬愛和協」は、お互いに尊敬し合い、お互いに心を合わせること。また、自主、互譲、責任は、自分自身でお互いを慮り、譲り合い、そして責任を果たすと。それはまさに、ロータリーやインターアクトに共通の精神で、とても重要な親睦や高潔性につながるものです。その校訓を基礎に、インターアクトで培った「奉仕」の心を胸に卒業し、進学や社会へと羽ばたかれます。



改めまして、皆さん、こんにちは。本日は「インターアクター卒業例会」で、柏原高校インターアクターと顧問教諭の土井先生、そして氷上西高校インターアクターに来てもらいました。インターアクターの皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、皆さんの先輩にあたります柏原ロータリークラブ会長の小山雄平様、幹事の久保彰彦様、直前会長の宇崎聡太様も、インターアクターの卒業をお祝いに駆けつけてくださいました。もちろん、「卒業後は、ぜひロータリーへ」という下心見え見えですので、その辺も組んでやってください。

インターアクトクラブの皆さんには、昨年3月、豊岡総合高校 IAC や複数のクラブと合同で行いました「山陰ジオパーク漂流物回収ボランティア事業」、また4月3日には柏原 RAC と共催の「青少年交流会」、夏には氷上特別支援学校との「ユニファイドスポーツ 真夏のサッカー合宿」（その氷上特別支援学校には、昨日の失業式、柏原 RC 会長として参列してまいりました）、そして「前島 国際青少年リーダー養成セミナー」、豊岡で開催された「インターアクト地区年次大会」、「次期リーダー講習会」、さらに、この2月にはロータリー主催の「青少年交流会」、先日の厄神さんでのポリオ撲滅募金活動など、この一年間、本当に色々なたくさんの活動にご参加、ご協力をいただきました。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。恐らくクラブの会員も、「へー、そうだったのか」と全部は知らないくらいにたくさんの事業でした。

さて、3月のロータリー特別月間は「水と衛生月間」です。ロータリーの友3月号に特集記事が掲載されていますが、「猪苗代湖をきれいに」の記事を除き、発展途上国への水支援の話が2つでした。従来から国際ロータリー、ロータリー財団とも、そういう傾向があります。それも大事な国際支援事業だと思いますが、もっと大局に立って水資源のことを考えてみましょう。

日本は、水資源に恵まれた国です。そのためか、生命維持に欠くことのできない水に対して、割と無関心です。空気と水はタダだという認識が根強いのもかもしれません。先輩方にしても、よもやペットボトルで水を買う時代が来ようとは、30年前は思いもよらなかったのではないのでしょうか。

実は、水資源の問題は、発展途上国だけの問題ではなく、近い将来、世界的な水資源不足の問題となるはずで

す。過去一世紀の間に、世界の水使用量は9倍に増加。2025年には、世界の40%の人々が深刻な水不足に悩まされるという報告がされています。

日本にとっても、世界各地の水不足は対岸の火事ではありません。日本は世界有数の食糧輸入国で、この間のIMでも勉強しましたが、国際的な水不足が深刻化すれば、食糧などの輸入にも当然影響が及びます。それだけに、地球的な視点に立って、水が限られた資源であることを認識すべきであると思います。

地球上の水の量は約1.4Eton(10<sup>18</sup>トン)で、そのうち人類が利用できる水は約0.8%です。例えばお家の浴槽に200Lの水を張って、これが地球全体の水量とすると、利用できる淡水は500mlのペットボトル約3本分ということになります。そのうち2本分は南極、北極その他で凍っています。残りの1本も農業に使い、工業にも使いますから、質、量ともに人間が飲める水はごく僅かなのです。

我が国の水資源の源流を買いあさる隣国に対しての法的対策を急ぐとともに、雨水の利用、海水の利用、汚水の再利用などを低コストでできる技術が早急に必要でしょう。そうした技術開発は日本の得意とするところですし、日本にとっても多大な国際貢献になると思います。

さて、本日、3月3日は雛祭りです。例会場にも、かわいいお雛様がすらりとそろいました。その昔、日本では1月1日、3月3日、5月5日、7月7日、9月9日などの奇数が重なる節目の日に、人の形をした紙で身体を撫で、邪気をその紙に移した後、川や海に流すという習慣があったそうです。

3月は、農作業開始の直前という農耕民族にとって重要な節目であったことから、いつしか、この行事が3月にのみ行われるようになりました。またその日は、女性や子供たちが野山に出て、花見などを行って邪気を祓う「タマフリ」という儀式も行われておりました。

それとはまったく別に、平安時代、貴族階級の女性の間で『ひいな』という人形を使って人形遊びをするのが流行していたそうです。いつしかそれらが混ざり、その雛遊びに使用する人形が3月3日に飾られるようになったのは、江戸時代に入ってから。そして、「3月3日に雛人形を飾って女の子の成長を願う行事」としての雛祭りが一般庶民の間にも定着するのは、明治に入ってからだそうです。雛祭りは、意外に新しい行事だったのですね。

ちなみに、雛祭りを「桃の節句」と呼ぶのは、桃の季節だからではなく、古事記でイザナギノミコトのピンチを救ったという故事から、桃には邪気を祓う力があるとされていたことによるものだそうです。



2017年3月10日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 32

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**不**易流行一、松尾芭蕉が『奥の細道』の旅の間に体得した概念です。

「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」

すなわち、「不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない」一。

「不易」は変わらないこと、すなわち、どんなに世の中が変化し、状況が変わっても絶対に変わらないもの、変えてはいけないものということで、「不変の真理」を意味します。

一方、「流行」は変わるもの、社会や状況の変化に従って変わっていくもの、あるいは、変えていかなければならないものことです。

「不易流行」は俳諧に対して説かれた概念ですが、学問や文化や人間形成、そしてロータリーにもあてはまることだと思います。

「不易」は「流行」の中にあり、「流行」が「不易」を生み出します。この「不易流行」システムによって発展します、ですから、ロータリーも決して変化を拒むのではなく、じっくり見極め、常に自己研鑽を怠ってはいけません。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日のビジターは、西脇 RC 会長の前川秀一様です。ようこそお越しいただきました。ごゆっくりしてください。



先週末、3月4日～5日に、2016-17年度 RID2680 地区年次大会が開催されました。1900名の登録でしたが、実際の参加者も多かったように思います。柏原 RC は池田さんを含めて24名で、2階席からの大会参加でした。私と幹事、次期の会長・幹事は、大会1日目の会長・幹事会/地区立法案検討会、地区指導者育成セミナー、青少年の集いなどにも参加しました。

その地区指導者育成セミナーでは、「The Sprit of Rotary ロータリーの精神」と題し、2002-03年度 RI会長のビチャイ・ラタクル氏から、私にとって、いや日本のロータリアンにとっても、実に感動的な特別講演がありました。皆様に本日お配りしているのが、その講演内容です。皆さん是非、是非お読みください。



ビチャイ・ラタクル氏の経歴等は、大会冊子に記載されておりますので省略しますが、91歳になられるラタクル氏は、これが日本への最後の訪問になるであろうとされながらも、今日のロータリーの大きな変化を嘆かれ、特に昨年度のラビンドラン前RI会長時の大きな変化については、「良いことも、そして悪いこともある」と明言されました。そのお言葉は、大変重いものがありました。

「不易流行」一。ロータリーとして変えてはならない「ロータリー運動の基本的哲学、精神、中核的価値観」を完全に壊してしまった諸変化は、会員資格と会員の種類、毎週の例会、出席規定、職業分類原則、ロータリー情報の消滅、そして職業奉仕の強調・実践の欠如であると明言されています。

そして、分かり易いエピソードを交え、ロータリーの奉仕は資金寄付に限らず、奉仕の精神を通じた活動にも価値があり、「成功だけの人とならぬよう、むしろ“価値ある人”になるように心がけることこそ大切である」と教えていただきました。

また、お話の最後に1dollar 11centの感動的なエピソードで、「信念と忍耐は、奇跡を起こすことができますのです」と、日本のロータリアンに今こそ信念と忍耐を発揮する時であると言わんばかりに、「Back to the basic」一、ロータリーは「基本にもどる」べきであると諭されました。

ビチャイ・ラタクル氏は日本のロータリアンにファンが多く、ラタクル会なるものもあるそうで、4日の夜には、三木RI理事ノミニーに差し上げた銘酒「奥丹波」が持ち込まれて会が開催されたそうです。

ラタクル氏の「昨今のロータリーの変化に対する憂い」は、日本のロータリアンと同じ想いだと思いました。今こそ日本のロータリアンが頑張る、踏ん張る時だと、エールを送られたのだと思います。

先月2月24日のロータリー創立記念例会で三木RI理事ノミニーにお話をいただいた夜、黒田好信委員長を中心に、保尾研修リーダー、富田地区規定審議会副委員長、そして会長・幹事、次年度の会長・幹事で、ロータリークラブ定款の変更に伴う細則の見直しについて検討委員会を開催しました。

柏原RCとしては、従来の方向性を堅持し、細則で補完する方向で意見が一致しました。先週の理事会でその報告をいただき、承認されました。また、細則の変更については十分検討を加え、会員の皆様には総会にてお諮りいたします。「不易流行」を旨としながら、細則の変更をしていきたいと思えます。また、これもロータリーを考える絶好の機会であると前向きにとらえ、是非、例会時や炉辺会合の機会などで、会員の皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

※人類は、誕生以来「知」を獲得し続けてきました。「万物は流転する」(ヘラクレイトス)、「諸行無常」(仏教)、「逝く者はかくの如きか、昼夜を舍(お)かず」(論語)、「ゆく川の流は絶えずして、しかももとの水にあらず」(鴨長明)など、先哲の名言が示すように、森羅万象は時々刻々変化即ち「流行」しますから、「知」は絶えず更新されていきます。しかし、先人達はその中から「不易」即ち「不変の真理」を抽出してきました。その「不易」を基礎として、刻々と「流行」する森羅万象を捉えることにより、新たな「知」が獲得され、更にその中から「不易」が抽出されていきます。

「不易」は「流行」の中にあり、「流行」が「不易」を生み出す一。この「不易流行」システムによって学問や文化が発展してきました。一人ひとりの人間も、「不易」と「流行」の狭間で成長していくのです。

2017年3月17日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 33

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**古**教照心 心照古教「古教 心を照らし、心 古教を照らす」

鎌倉末期の禅僧（臨済宗）、虎関師錬（こかんしれん、弘安元年4月16日（1278年5月9日） - 興国7年/貞和2年7月24日（1346年8月11日））の教えです。

「古教照心」と「心照古教」、本の読み方にも二通りあって、一つは同じ読むと言っても、そうかそうかと本から始終受ける読み方。これが「古教照心」です。本をただ「そうかそうか」と読むのでは、読み進めていくうちに知識を得たような錯覚にとらわれます。

しかし、それではただの本読みで、まだ受け身で、積極的意味に於て自分というものの力がありません。自分で考え、自分が主になって、今まで読んだものを再び読んでみる。すると、今度は自分の方が本を読むのだということになり、これが「心照古教」ということであり、読み方は「心照古教」でなければならぬと説かれています。

まさに、安岡正篤氏の「活学」すなわち、生きた学問となります。

改めまして、皆さん、こんにちは。先週の土曜日、3月11日に ANNA クラウンプラザホテル神戸で開催されました、原田義之氏の「続・輝く瞳に会いに行こう」の出版記念祝賀会に行っていました。全国各地から、バストガバナーをはじめ、約70名のロータリアンがお祝いに駆けつけておられました。

原田氏は、当地区の高砂青松 RC からタイ国のチェンライロータリークラブに移られ、タイ初の日本人会長をされ、ダムロン高校の日本語教師をボランティアをしながら、9年間、タイのアカ族の支援を実践されてきました。

原田氏には、前島のセミナーでも、講師としてお世話になりました。その奉仕の実践の詳しい話は、この本に載っております。クラブに2冊おいておきますので、ぜひ読んでください。実は私も、ちょっと、この本に登場します。

また、明後日19日の日曜には、丹波の森公苑で、柏原 RAC との共催による「青少年交流会」を開催いたします。昨年度に卓話をいただいた、大類隼人 Dr.と看護師の長谷川祥子さんから、これまた、実践に基づいたお話をさせていただきます。インターアクター卒業生の進路決定のきっかけになったという講演でもあります。是非、会員の皆さんもお時間を作っていただき、ご参加ください。よろしくお願いいたします。



さて、「活学」とは何か？ 先にも申しました安岡正篤氏の教えによると、生きた学問であります。学問にも生きた学問と死んだ学問とがあると言われ、死んだ学問は「本を読み、頭で理解する学問である」とされ、生きた学問は、「知識を基本として行動する学問である」とされています。まさに「古教照心」と「心照古教」の実践的な考えであります。すなわち、「**知っていても行動がなければ、知らないことと同じ**」と言われ、「**知行合一**」が大切であると説かれています。「やりもしないで、分かったつもりになるな」ということでしょう。

この「知行合一」は、2 ヶ月前の1月27日の会長スピーチでお話をさせていただいた王陽明の、「陽明学」における基本的な思想です。覚えてらっしゃいますか？ 「活学」も、陽明学からのものでしょう。「**知行合一とは、心の中で自分がすべきことを知っているならば、それは自ずと行動に現れるということ**」で、徹底した経験主義者だった王陽明だからこそ行き着いた真髄といえます。

知識だけの学びではなく、「実践」を伴う学問が「活学」です。学はすべからく活学でなくてはならない——、これが安岡正篤氏の信念であり、真髄です。

安岡氏は、「学問・思想をもって自分の性格を作り、これを自分の環境に及ぼしていくという実践性がなければ、活学ではない。我々は今後、本当に自分を作り、家庭を作り、社会を作る上で役立つ生命のある思想・学問を興（おこ）し、これを政治、経済全般に適用してゆかねばならない」と活学について説かれました。

これは、ロータリーでも言えることだと思います。「ロータリーで学び、その哲学をもって自己研鑽し、これを自分の環境に及ぼしていくという実践性がなければ、生きたロータリーではない。ロータリアンは、今後、本当に自分を作り、地域社会を作る上で役立つ生命のある思想・考えを興し、これを日本や世界に適用してゆかなければならない」——となるのでしょうか。

ロータリーは活学でなければ、ロータリーである意味がありません。ロータリーは生きています。我々のクラブも生きています。皆さんの左手のロータリーの樹をご覧ください。幹を太くし、枝葉を伸ばし、成果を実のらすからこそ、常に成長・活力ある樹は魅力があるのです。そういうクラブに、人は集うのです。

もうこれくらいでよい、成長はやめよう、自らを枠に困ってしまう。そう、木を枠に困ってしまうとどうなりますか？ 「困る」という字になりますよ。成長をやめることは、ロータリーという運動体組織においては、衰退・死を意味します。会員減少、クラブ解散、神戸ハーバー、神戸有馬と続きます。クラブの状態の良い時に慢心し、会員拡大・増強を怠った結果ではないでしょうか？ 常にロータリーにふさわしい人材を発掘し、「集いし友」を求めなければなりません。それは、ロータリーの定款第4条目的にもはっきりと書かれています。すなわち、「第1項 知り合いを広めることによって奉仕の樹会とすること」——。

また、ロータリークラブに入会しているだけでは、ロータリーは何も与えてくれません。まさに、「**古教照心**」です。実践として、まずは例会への出席です。また、自ら各種の研修会に出向き、クラブで開催する事業や炉辺会議に積極的に参加して自己研鑽を積まなければ、つまり学び取らなければ、やがて根腐れを起こしてしまいます。まさに、「**心照古教**」の活学でなければならぬのです。

厳しい話をしましたが、柏原RCは成長の木を慢心・妥協という塀で困って、困ることなど無いようにと願って、本日の会長スピーチといたします。

2017年3月24日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 34

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**栄**西禅師 臨済宗の開祖・栄西（えいさい）禅師は、鎌倉時代、  
今から 826 年前、宋（中国）から大衆薬としてお茶を持ち帰りました。

当時の宋でも漢方薬は高価なもので、大衆は飲むことができません。  
そこで一般の民衆は、薬として桑かお茶を代用していたのです。桑は  
その時代、既に日本にもありましたので、栄西はお茶の種を持って  
帰って栽培し、日本に広めました。

「茶は養生の仙薬なり・・・」で始まる「喫茶養生記」は、鎌倉時代  
の代表的な医学書の1つで、鎌倉幕府に献上されました。その「喫茶養生  
記」の中で、栄西は「お茶は五臓の和合をはかり、心身の健康増進の役立  
つ妙薬である」と紹介しています。上下2巻には、お茶と桑について書か  
れており、陰陽五行の漢方理論にも触れています。2度の宋への渡航で、  
仏教だけでなく、漢方についても学ばれたことがわかります。



改めまして、皆さん、こんにちは。本日のビジターは、神戸 RC の尾野俊二様です。ようこそお越し  
くださいました。ごゆっくりしてください。

皆さん、この連休はどうお過ごしでしたでしょうか？ 私の連休はと申しますと、3月18日は次年度  
の青少年交換委員会が開催され、本年度、誰やらのせいで派遣がなかった委員会でしたので、次年度か  
ら次々年度に向けての会議をみっちりしてまいりました。

3月19日は、「青少年のための国際・社会奉仕研修と交流会」を、柏原 RAC と共に丹波の森公苑で  
開催しました。丹波市立看護学校の生徒さんや、神戸国際大学附属高校 IAC、柏原高校 IAC、氷上西 IAC、  
姫路 RAC、神戸 RAC、RYLA 学友会と柏原 RC メンバー、計 51 名が参加され、認定 NPO 法人 Future  
Code の大類隼人医師と長谷川祥子看護師さんの講演を聴き、皆さん、熱心に学ばれました。

その第2部では、姫路 RAC 会員で前 RA 地区代表、パティシエでもある花岡意佐夫氏の指導により、  
シュークリーム作りを楽しみました。とても充実した研修・交流会になったと思います。ご設営いた  
だいた柏原 RAC の皆さん、学友委員会の高見委員長、青少年奉仕委員会の皆様に感謝申し上げます。

3月20日は、豊岡の竹野海岸へ、豊岡総合高校 IAC 主催の「山陰ジオパーク 漂流物回収ボラン  
ティア」に行っていました。柏原高校 IAC 12名と顧問1名、氷上西高校 IAC 10名と顧問2名、柏  
原 RAC 小山会長、そして私の総勢 27名で参加し、他のインターアクトクラブも含めると総勢 90名に  
よる活動となりました。約2時間の作業で15立方メートル、トラック12台分の漂流物が回収され、  
海岸は見違えるようにきれいになりました。・・・ということで、私は、お疲れ様の連休でした。

さて、話を戻します。そもそも中国では、三国時代（220年～280年）からお茶を飲む習慣が生まれていて、唐の時代（618年～906年）には、広く庶民の間にも普及していました。

そんなお茶を日本にもたらした栄西・・・と言いたいところですが、実は平安時代には、既に貴族の間ではお茶が飲まれていたのです。

延暦二十四年（803年）、唐から帰国した永忠（えいちゆう）という僧が中国からお茶を持ち帰り、第52代・嵯峨天皇をお茶でもてなし、天皇はたいへん喜んだそうです。

ただ、これは、ほんの一部の高貴な人たちの間に広まっただけで、しかも団茶と呼ばれるお茶の新芽を火であぶり、粉にしてから団子状に固めた物でした。香料や甘味料がないと、とても飲めた物ではないシロモノで、当時は100%薬用として使用されていたようです。要するに、現在の、飲むことを楽しむ日本茶とは、ほど遠い物でした。

・・・ということで、やはり、現在の私たちがお茶と認識できる日本茶の元祖は、鎌倉時代の栄西禅師ということになっています。

そんな栄西は、永治元年（1141年）備中（岡山）の生まれ、14歳で出家し、比叡山で修行した後、27歳で宋に渡りました。一旦は帰国しますが、「まだまだ、勉強し足りない」と、46歳で再び海を渡り、宋に留学します。

そして、50歳の時の2度目の帰国でお茶を持ち帰り、『興禅護国論』や『喫茶養生記』など、お茶の効能や飲み方などを記した書物を著し、お茶を日本に広めたのです。

この時、栄西が持ち帰ったのは抹茶で、当時の中国の禅僧の間で眠気覚ましとして飲まれていたようです。お茶のカフェイン、今では常識ですね。あっ、皆さんも、眠気覚ましにお茶をどうぞ。

さて、皆さんご存知の「ずいずいずっころばし」——。

♪ずいずいずっころばし ごまみそずい  
ちやつぽに追われて ドッピンシャン  
抜けたら どんどこしょ  
俵のねずみが 米食ってチュウ  
チュウ チュウ チュウ  
おっ父さんが呼んでも おっ母さんが呼んでも  
行きっこな～し～よ  
井戸のまわりで お茶碗かいたのだ～れ♪

この歌は、江戸時代、京都から江戸へお茶を献上する御茶壺道中が村を通る時、「もしかして粗相があって斬り捨てられたら大変！」とばかりに、慌てて家の中に入り、戸をピシヤリと閉め、ねずみが米を食べても、お父さんが呼んでも、お母さんが呼んでも、お茶壺が通り抜けていくまで出てきちゃダメよと、子供に教え込んだ歌だと言われています。

3月26日は、会長エレクト研修セミナー（PETS）です。終わりますと、いよいよ柳川年度の本格準備が始まります。私は、この例会を終わりたい、第1回日本RYLAセミナーに愛知へ行ってきました。

会長スピーチは難しい話が続きましてので、お茶の話で一服——、いやいや、お茶を濁しました。

2017年3月31日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 35

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**手**に手つないで——。今は歌わないでください。例会が終わってしまいます。

「手に手つないで」は、皆さんよくご存じのロータリーソング。懇親会の閉会時、みんなで手をつなぎ、輪になって歌います。ロータリーの拡大と親睦を内容として歌われ、クラブの会員結束と世界平和に向かって努力しようという、歌いやすいソングです。

昭和26年（1951年）にロータリーソングが募集され、「手に手つないで」が作られました。これは、昭和27年（1952年）7月から日本のロータリーが2つの地区に分かれるという事態にあたり、今後も友情を確かめ合い、手に手つないでいこう——と誓い合った歌です。



改めまして、皆さん、こんにちは。3月24日、先週の例会後、その足で愛知県豊田市へ「第1回日本RYLAセミナー」に行っていました。次年度は、当地区で「第2回日本RYLAセミナー」が開催の予定です。そのための視察を兼ねての参加でした。

3月26日、地区研修・協議会リーダー会議が神戸ポートピアホテルにて開催されました。柏原RCからは、研修委員会委員として吉住俊一会員、規定審議委員会の副委員長として富田博重会員、そして青少年奉仕委員長、戦略計画委員会・副委員長、危機管理委員会委員、ロータリー財団委員会・補助金委員、奉仕プロジェクト特別会計委員会委員として私、合計3名が午前中より参加しました。

午後からは、会長エレクト研修セミナー（PETS）が開催され、柳川拓三会長エレクトが出席。昨年の栓抜きっぱなしのコーラのような気の抜けたPETSとは大違いの、緊張感のある充実した内容のPETSで、とても羨ましく思いました。このPETSをもって、会長となる資格を得られ、いよいよ次年度の始まりとなります。……足立幹事、うちらはもうすぐ終わりやで～。

さて、毎回の例会冒頭、メンバー全員でロータリーソングを歌います。これはなぜか、どういうことがきっかけだったか、皆さんご存知でしょうか？「歌を歌うこと」を始めた人は、最初の4人の会員に次いで、5番目にシカゴ・ロータリークラブに入った「ハリー・ラグルス（Harry Raggles）」です。

1907年、ロータリー誕生後2年目、ポール・ハリスがシカゴ・ロータリークラブ第3代目の会長になった頃、ささいな意見の相違が次第に大きくなり、シカゴクラブ内が割れ、出席率も低下するという事態が起こりました。親睦派と奉仕派との間に意見が対立し、その時の親睦委員長の医師ウィリアム・ネフは、「このままではクラブは崩壊する。君が毎週立ち上がり、楽しく歌って、この危機を救ってくれ」と、印刷屋のハリー・ラグルスに懇願します。ラグルスが当時流行っていた歌を何曲か音頭を取って歌って以来、クラブの団欒は甦り、これが何年も続いて、例会での合唱はロータリーの伝統となりました。

このとき歌われたのは、いわゆるロータリーソングではなく、当時の流行歌とのことです。20世紀初頭の欧米では、「歌を歌うこと」、「コーラスすること」は人々のごく一般的な風潮で、ハリー・ラグルスが特に変わった趣味を持っていたというわけではないようです。

日本最初のロータリークラブは、1920年創立の東京ロータリークラブですが、初めの頃は「ロータリーソング」として、英語のまま歌っていたそうです。やがて、日本語によるロータリーソングを求める声が高まり、昭和10年（1935年）の京都における地区年次大会において、「奉仕の理想」や「我等の生業」が日本語ロータリーソング入選作として発表されました。

「我等の生業」は、一業種一人制のロータリアンがクラブを結成し、平和と親睦の目的に向かって、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4大部門を通じて努力するという内容です。特に、職業奉仕の重要性が強く謳われています。

「奉仕の理想」は大体同じ内容ですが、自己の職業奉仕を通じて世のため、人のためになるように、最終的には世界平和が永遠に続くことを願望している歌詞です。

以上二つのソングはロータリーの代表的ソングで、リズムも多少スローテンポで厳肅さがにじみ、身の引き締まる感があるので、通常、大会や協議会の開会時やクラブ例会の開会時によく合唱されます。

戦争中、「君が代」の斉唱も始まりました。そして昭和24年（1949年）、日本は国際ロータリーに復帰しますが、昭和26年（1951年）にロータリーソングが募集され、「手に手つないで」が作られました。

柏原RCでは、現在、あまり歌われませんが、「それでこそロータリー」も古く、昭和28年（1953年）に誕生しています。「それでこそロータリー」は軽快なリズムにのったメロディーで、1番の歌詞で「会員同志の親睦」を、2番では「社会のため、平和のために努力する」という内容になっています。

また、他クラブにビジター訪問をしますと、「友が来た」や自クラブのロータリーソングなどをプラスして特別に歌ってくれて、歓迎の意を表すクラブがあります。特に、播磨地域に多くありますね。わがクラブも、出来ればそうしたものです。

親睦を意図して歌われるロータリーソング、これからは色々なロータリーソングに挑戦し、愉しく声高らかに歌いたいものですね。

※世界のロータリーでは、この習慣はアメリカの多くのクラブに波及し、今日ではオーストラリア、日本、ナイジェリア、ニュージーランド、カナダなど、様々な国のロータリー例会においてポピュラーな親睦行事となっています。国際協議会でも、毎朝、本会議が始まる前、各国で親しまれている歌を皆で歌います。歌い方も様々で、例会の始めに国歌を歌うクラブもあれば、童謡を必ず歌うクラブもあります。しかし、ヨーロッパ、南米、アジアのロータリークラブの例会では、ロータリーソングが歌われることはあまりないようです。



2017年4月7日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 36

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**ア**ーチ・クランフは、ロータリー財団の創始者です。

1916-17年度ロータリークラブ国際連合会（後のRI）の会長でもあります。米国のクリーブランドRCの会員で、入会時の職業分類は「材木-卸売ならびに小売」となっています。

1917年のアトランタ国際大会で、「世界中で善いことをする目的のために基金を設置することは、極めて妥当なように思われます」と述べ、この提案が「ロータリー基金」という名前でスタート。その後、1928年のミネアポリス国際大会で、「ロータリー財団」として認証されました。よって彼は、「ロータリー財団の父」とたたえられています。



改めまして、皆さん、こんにちは。4月になりました。母子の健康月間です。ロータリーの友4月号にも、関連記事が掲載されています。もうお読みになられたでしょうか？ 子供にとって母は愛、父は敬。これは、来週お話しいたします。

また、4月号には、「ロータリーと歌」という二神典子編集長の記事が載っていました。3月31日の会長スピーチと重なり、偶然とはいえ、驚きました。

今日は、アーチ・クランフについてお話しします。お手元の資料は、RI2700地区のロータリー財団100周年記念事業の青少年フェスタ開催時に制作されたものです。今年度の第一回例会にビジターとしてお見えになりました、福岡東RC・地区青少年奉仕委員長の田村志朗氏のご厚意でいただきました。

その漫画にもありますように、彼は貧しい少年時代を経て、米国オハイオ州クリーブランドで実業家として財をなした、立志伝中の人物です。また、彼は14年間、フルート奏者としてクリーブランド交響楽団の団員でしたし、スポーツマンとしても活躍するという一面も持ち合わせていました。

アーチ・クランフは、国際ロータリーの新定款を起草する委員会の委員長として地区を設け、地区ガバナー職をつくり、地区年次大会を確立した責任者でした。さらに、彼は全ロータリークラブのために標準ロータリークラブ定款と細則を書き上げ、それらは1915年に採択されました。ロータリーの初期において、アーチ・クランフの仕事はロータリーの発展に必要な結束を築くことだったように思います。

彼は、1912-13年度、クリーブランドRC会長を務めました。彼の人柄を表すのに、友人達は次のように評していました。「寝てもさめてもロータリーの人間である」と。彼は常に将来へ目を向け、ロータリーがよい活動が続ける方法を模索していたのです。その彼がロータリーにかける夢の一つを初めて吐露したのが、クリーブランドRCの会長の時でした。クラブ会長としての最後のスピーチで、今後、クラブが多くのことのできるように「非常時基金」を作ることを提案したのです。

この「非常時基金」の提案は、4年後の1917年、アトランタ国際大会で、「ロータリーが基金をつくり、何かよいことをしようではないか」という形で再登場します。ですから、ロータリー財団100周年の世界大会はアトランタなのです。

各地のロータリアンが目先の世界の出来事に目を奪われている第1次世界大戦の最中、アーチ・クラフの夢が提起されたということは、彼の理想の素晴らしさ、崇高さの証と言えるでしょう。

アーチ・クラフが思った財団の目的は何であったのか、今一度確認する必要があります。彼は目指していたものは、「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進するためのもの」でした。ロータリアン誌の1928年9月号の記事に、この目的の達成方法の見本例が挙げられています。学生の交換、グループの交換、国際事業関係を通じての友好。1928年にアーチ・クラフが思い描いたプログラムの多くは、現在、奨学金、研究グループ交換、グローバル補助金、VTTなどの形で達成されてきました。ロータリー財団はこれらの目的を実現するための手段であったはずなのですが、いまや、なぜかR財団が目的化しているよう思います。

アーチ・クラフは、ロータリーを不滅にする手段として基金を構想しました。彼の言葉に、

「ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。例え、大理石に碑名を刻んだとしても、やがては崩れてしまうだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。だが、心の中に碑銘を刻むならば、そしてロータリー精神、神をおそれ同胞を愛する気持を吹き込むならば、我々が刻んだものは永遠に輝き続け、文明の続く限り、ロータリーを不滅のものとするだろう。」

があります。地区補助金委員で龍野RCの本條氏は、補助金セミナーでこの言葉を何度も繰り返し、強調されていました。

1930年代には、大恐慌が世界中で影響を及ぼし始めました。誰もが生活に困っている一、そんな時、財団は最初の補助金を授与したのです。ロータリーの創始者ポール・ハリスが名前を秘して米貨500ドルを寄付し、その500ドルを身体障害児童保護国際協会に贈ることを要望したのです。この身体障害児童保護国際協会は、ロータリアンのエドガーF.ダディー・アレンの創立したものです。障害者援助というダディー・アレンの独創的な活動は、既に1919年に始まっていました。障害者のリハビリテーションを援助しようという使命感・活動は、多くのロータリアンの心をとらえ、一時はロータリーの綱領の一つに提案されたほどでした。その後、ポリオ・プラスによって、財団の熱意はリハビリテーションという枠を越え、一生の障害または死に至る小児病の予防にまで発展したのです。

私たちは、「丹波に住む外国人との交流を通して、青少年に国際性と多様性を学んでもらうこと」、「絶滅したミナミトミオを調査研究し、子供たちの環境教育にまで昇華させること」、「特別支援学校と一緒にあって、サッカーを通じ理解と知的障害者に自立支援をすること」などを、財団補助金事業として実施してきました。柏原RCは会員の皆様の協力によって、これらの補助金奉仕プロジェクトを実施し、立派な成果を上げてきたと思います。

次年度は、29クラブから、地区補助金申請がなされたようです。他団体にはできない、ロータリーならではの、そしてロータリーだからこそその奉仕プロジェクトが実施されることを期待します。

2017年4月14日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 37

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**サ**ムライジャパン一、少し古い話ですが、先月のWBCでは健闘及ばず、準決勝で惜しくもアメリカに敗れてしまいました。しかし、日本選手のサムライスピリットは、大いに発揮されたと思います。彼らの帰国を、我々は大きな拍手で迎えました。そもそも日本人は、サムライという言葉に特別な想いを抱いているように思います。



改めまして、皆様、こんにちは。本日のビジターは、篠山RCの小田垣博三様です。ようこそお越しいただきました、ごゆっくりしてください。

さて、「さむらい」に対する日本人の特別な感情。

安岡正篤氏は、さむらいとは「より偉大なるものへの**敬侍**（けいじ）である」と言われています。この「敬侍」一、敬う侍と書きますが、聞き慣れない言葉です。造語なのでしょうか、辞書を調べても載っていませんでした。この意味を考えるに、色々調べてみました。「さむらい」一、この言葉の語源に意味が隠されているようです。

人の人たる所以は、「**道德**」を持っていることです。それは「敬」する心と「恥」ずる心に現れます。

「敬する心」は、人が限りなく発達を望み、未完成なものに満足せず、より完全で偉大なものに憧れるところから生まれます。そして、「敬する心」が生まれると、必ず「恥ずる心」が必然と生まれてきます。つまり、恥を知るということは、敬うことを知らなければ生まれません。「敬する心」と「恥ずる心」は相対関係、つまり、相対し向かい合っている関係のものであります。

しかし、今日の教育は、その大切な「敬する心」を省みなくなっています。というのも、戦後の西洋化した教育が「愛する」ということのみを重んじる教育であったこと一、それが一番の原因であるように思います。また、敬すること、敬うことは、戦時中の天皇を連想させ、国粹主義や軍国主義に直結するようなイメージを抱かせるという、誤った考えも影響しているのでしょう。

愛というものは、どちらかというとな女性一、母の特性です。したがって、愛ばかりが強調された結果、大事なものは母だけというイメージが強まり、男性一、父の存在価値が次第に薄れてきたのではないのでしょうか。この影響は、給料が振り込みになったこと以上に大きいと思います。

教師一、学校の先生についても、「先生を敬う」ということを忘れた戦後教育のせいで、様々な校内問題を引き起こしているように思います。

家庭においては、子供は本能的に、母親には「愛」を、父親には「敬」を求めます。人間は敬する気持ちを持つと、自らその敬するものに少しでも近づこうとする気持ちが起こってきます。愛とはまた別の憧憬を、その敬の対象に持つようになるのです。安岡氏は、「これを『参』一、さんずる、まいると言う。それが更に進むと、側近く仕えたくなる」と言われています。

さて、「サムライ」は、16世紀になって登場した比較的新しい言葉です。

鎌倉時代から室町時代にかけては「サブライ」、平安時代には「サブラヒ」とそれぞれ発音されていました。「サモラフ」は動詞「モラフ（候）」に語調を整える接頭辞「サ」がついたもの一、その「モラフ（候）」は動詞「モル（窺・守）」に存在・継続の意の助動詞（動詞性接尾辞ともいう）「フ」が接続して生まれた語であると推定されています。こうしたことから窺えるように、元々は「相手の様子をじっと窺う」という意味ですが、奈良時代には既に「貴人の傍らに控えて様子を窺いつつ、その命令が下るのを待つ」という意味でも使用されていたようです。すなわち、「侍」一はべる、「候」一さぶらうということです。

日本語の「参った」というのは、今では単なる降参の意味で使われていますが、本来は相手を敬の対象として、己の理想像として礼讃する意味が含まれています。「参りました」という言い方で使われると、そのような意味が込められていることが解ります。

ここからは、安岡氏の格調高い文章をそのまま引用させていただきます。

この偉大なるものに「敬侍」し、没我になって生きるところに、功利の世界、物質の生活から、忽然（こつぜん）として道徳の世界、精神の生活に転生することが出来ます。

このゆえに、武士は常に如何（いか）に生くべきかと言わんより、如何に死すべきかの工夫に生きたと言えます。五十年の徒（いたずら）なる生活を犠牲にしても、尊い感激のある一瞬を欲したのです。

この身命を喜んで擲（なげう）ちたい事業、この人の為に死なんとする知己（ちき）の君、渾身（こんしん）の熱血を高鳴りせしむべき好敵手、此等（これら）を武士は欲しました。

この躍々（やくやく）たる理想精神は凝（こ）って、所謂（いわゆる）武士気質なるものとなり、頑固（がんこ）とまで考えられる信念、極端とまで驚かれる修練となったのです。

こうした精神が、日本人のDNAに流れていると思います。長々とややこしい話をしましたが、結論を申しますと、日本の創成期のロータリアンは、ロータリーにこのサムライ精神を見出していたのではないかと思うのです。

日本にロータリーが紹介された頃、二宮尊徳先生の教え、近江商人の三方よしの精神など、日本人のそれらのベースに加え、「ロータリーのサムライ的スピリッツ」が日本人の精神文化にとてもよく馴染み、共鳴でき、腑に落ちるものだったのではないのでしょうか？ つまり、ロータリーに対し「敬侍」し、没我になって生きるところに、功利の世界、物質の生活から忽然（こつぜん）として道徳の世界、精神の生活に転生し、「超我の奉仕」を粹に感じ、共鳴したのではないのでしょうか。

ロータリアンは、サムライである。その業界を代表するサムライであった。その誇りと気概が、胸のバッチにはあったのではないかと、私はそう思います。

多くの先輩ロータリアンがRIの現状に失望し、ロータリーの将来を憂うるのは、ロータリーからサムライ精神が消失しつつあるからではないかと考える、今日この頃です。

2017年4月21日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 38

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

### 危機管理をご存知ですか？

この質問に対して、会長エレクトの7割は「知っている」と答えられました。今回のPETSでのアンケートです。2年前のPETSでは、同じ質問に「知っている」と答えたのは41%ですから、かなり認知されてきたようです。ところが、「実際には何もしていない」という回答も63%で、どうやら、知行合一とはいかないようです。

危機管理は2つの概念に分けて考えます。

一つは、「Risk management」一、将来の危険に備え、予測される危険をどのように回避し、或いはそれによる損害を最少に食い止めるかです。

もう一つは、「Crisis management」一、天災のように発生した危難が発生したとき、どのように対処し、それを克服するかです。

改めまして、皆さん、こんにちは。昨日は、柏原プロバスクラブの例会に余田社会奉仕委員長と出席してまいりました。ゲストスピーカーとして、谷口丹波市長が来られていました。また、先週の16日、日曜日には、次年度の青少年交換委員会が開催され、第3回の交換派遣学生4名のオリエンテーションとして、世話クラブの委員やカウンセラー、保護者などを交えて、派遣の心得、準備、危機管理などについてレクチャーがありました。

さて、危機管理の歴史について、危機管理が議論されてきた背景をお話しします。あまり面白い内容ではありませんが、大切なことですので、お昼寝なきよう、向かい隣の方と危機管理をお願いいたします。

危機管理という言葉が登場するのは、1962年のキューバ危機が最初です。これは、核戦争、第3次世界大戦という、目の前の危機に対してでした。そういう意味では、現在の朝鮮半島についても、日本政府、日本国民は危機管理を最優先に考えなければいけないこととなりますが、果たして……。柏原RCとしても、幹事を中心に再度会員の連絡網の確認をお願いいたします。

日本において危機管理が本格的に議論されたのは、1995年の阪神淡路大震災、そして地下鉄サリン事件であったと言われます。危機は、いつの世にも多かれ少なかれあったことですが、危機管理という考え方は、比較的新しいものであるということです。



では、ロータリーにおける危機管理とは、どういう事でしょうか？ 主に対象となるのはロータリーの青少年奉仕のプログラムで、インターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換などですが、これらに限ったものでもありません。

ロータリーで危機管理が言われるようになった契機は、青少年交換学生のセクシュアルハラスメント事件が明るみに出たことによります。事の起こりは、1967年に実施された青少年交換において、オーストラリアから米国オクラホマに派遣された当時15歳の女子高校生が、なんと19年後の34歳の時、初めてセクシュアルハラスメントを受けていたことを明らかにしました。発覚時、派遣先地区のオクラホマは、さしたる反応はなしでした。国際ロータリーも、当初は反応なしでした。この対応のまずさがことを大きくしてしまいます。危機管理が全くなされなかったのです。結局、この事件で国際ロータリーは多額の損害賠償を命ぜられる結果となりました。この事件の影響は大きく、同種の訴えが相次ぐこととなります。紳士たるロータリアンがと思われるかもしれませんが、セクシャルハラスメントやパワハラ、そして文化や習慣の違いによる無理解から、色々な事例が上がりました。

問題は、ロータリアンの危機意識の共有が不足していたことです。例えば、子供を大事に思う中流家庭の両親は、隣町の全然知らない人のお家に、お泊まりには行かせません。しかし、ロータリーを信頼し、世界の向こう側へは自信をもって行かせてしまいます。ロータリーあるいは学校、スカウトの組織などを信頼しているということです。こうした状況に対して、ロータリアン側も「ロータリーに対する過信」がありました。それが、危機意識の欠如に繋がっていたのです。

つまり、「ロータリーでは、いや少なくとも我がクラブでは、危機は起こらない」というのは過信だったのです。その過信のままの状況では、危機やリスクは存在しないことが前提となっているのですから、マネジメント、つまり危機管理を検討することなどありません。要するに、「危機はある」という前提で物事を考えないと、危機管理はできないということです。起こってからの「泥縄」では遅いのです。

その後のRIの対応は、2006年に「青少年と接する際の行動規範に関する声明」という形で、『性的虐待及びハラスメントに関するRIの行動指針』を発表しました。結構、時間がかかっていますね。

ロータリーの奉仕活動と危機管理は、切っても切れない関係です。特に、ロータリーにおける青少年奉仕の位置づけは、青少年奉仕が2010年に奉仕の第5部門になり、より重要性を増しました。当然、危機管理の対象も拡大してきました。当初、青少年交換プログラムのみで検討されていた危機管理は、青少年奉仕部門のすべての活動へ適用されるようになったのです。日本独自のプログラムである米山記念奨学会にも、もちろん適用されます。以下、ロータリーと危機管理について、ロータリー章典を見ましょう。

## ロータリー章典 2.100. 青少年の保護 (Youth Protection)

### 2.100.1. 青少年と接する際の行動規範に関する声明 (2006年11月理事会決定72号)

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために安全な環境をつくり、これを維持するよう努める。ロータリアン、その配偶者、その他のボランティアは、接する児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的、あるいは精神的な虐待から彼らの身の安全を守るため、最善を尽くす責任がある。

しかもRIは、虐待およびハラスメントに対して、いかなる違反も法規適用する方針（ゼロ容認方針）を有するという、非常に厳しいルールを科しています。また、青少年事業における損害保険については、任意団体では加盟できませんので、日本全国で共通の特定非営利法人RIJYECを組織し、そこでまとめて一括で管理するようにしていますが、まだ動き出したところです。

各ロータリークラブにおいても危機管理の必要性があり、今年度から危機管理委員会を設けました。今年度中には、クラブの危機管理マニュアルを作成しなくてはなりません。会長として、クラブの危機管理をしっかりとしていきます。まず、委員会を開いて検討していきましょう。

※参考 ロータリー章典に見る危機管理：2.100. 青少年の保護（Youth Protection）

2.100.1. 青少年と接する際の行動規範に関する声明（上述参照）

2.100.2. 青少年保護法の順守を怠った場合（Failure to Comply with Youth Protection Laws）

ロータリー関係の青少年プログラムに参与し、青少年保護に関する法律に違反した会員に対する申し立てにクラブが対処しなかったという情報を得た場合、理事会は RI 細則 3.030.3.に従ってこのクラブの加盟を停止または終結させることができる。（2007 年 6 月理事会決定 226 号）

2.100.3. 性的虐待およびハラスメントの防止（Sexual Abuse and Harassment Prevention）

すべてのロータリアン、クラブ、地区は、「青少年と接する際の行動規範に関する声明」、および事務総長により作成された虐待およびハラスメント防止に関する RI の指針に従うべきものとされる。指針には、次の要件が含まれている。

1. RI は、虐待およびハラスメントに対して、いかなる違反も法規適用する方針（ゼロ容認方針）を有する。
2. 性的虐待あるいはハラスメントの申し立てがあった場合には、第三者による、徹底した調査が行われなければならない。
3. 性的虐待あるいはハラスメントの申し立ての被疑者となったロータリー青少年プログラムに参与するいかなる成人も、問題が解決するまでは、青少年との接触を一切断たなければならない。
4. 虐待のいかなる申し立ても、いかなる違反も法規適用する RI の方針（ゼロ容認方針）に則り、即刻、適切な法執行機関（警察等）に報告されなければならない。
5. 地区役員が事件を知った時点から 72 時間以内に、虐待またはハラスメントの申し立てを地区が RI に報告するものとする。地区は、RI に報告する責任を負う地区内の人物を指名しなければならない。
6. 性的虐待あるいはハラスメントを自ら認め、あるいは有罪であると宣告され、あるいはそれに関与したと認められたいかなるロータリアンについても、クラブは、その会員身分を終結しなければならない。性的虐待あるいはハラスメントを自ら認め、あるいは有罪を宣告され、あるいはそれに関与したと認められたロータリアン以外の人は、ロータリーが関係する青少年活動に携わることを禁じられる。クラブは、ある会員が性的虐待またはハラスメントを行ったと知った場合、その人の会員身分を認めることはできない（クラブが、事実を知りながらそのようなロータリアンの会員身分を終結しなかったという情報が得られた場合、RI 理事会はそのロータリアンの会員身分を終結する措置を講じるとともに、方針の順守を怠ったことを理由に、クラブの加盟を終結する措置を講じる）。
7. 性的虐待あるいはハラスメントの申し立ての調査で結論が導き出されなかった場合、青少年の参加者の安全および被告発者の保護のため、当人が将来関わる青少年を守るべく、さらなる保護措置が講じられなければならない。性的虐待あるいはハラスメントの申し立てが引き続き寄せられた場合、その成人は、ロータリーに関連して行われる青少年活動への参与を、永久的に禁じられるものとする。刑事上の罪あるいは民事上の罪にかかわらず、当該成人の存在は当組織の評判を損なうものとなり、青少年にとって有害となる可能性がある。これはまた、他の青少年からの他の告発から当該成人を守ることにもなる。罪を問われ、後に嫌疑が晴れた当人は、青少年プログラムへの参加への復帰を申請することができる。復帰は権利ではなく、元の活動に復帰できるという保証はない。（2016 年 9 月理事会決定 57 号）

#### 2.100.4. 青少年の旅行と宿泊 (Travel and Overnight Stays by Youth)

ロータリークラブと地区は青少年を育成する活動を実施するよう奨励されていることを踏まえ、クラブと地区のプログラムや活動で、未成年者が地元地域の外に旅行や宿泊するときは、青少年保護方針と書面による手続きを作成し、整備し、またこれを順守しなければならない。ホスト地区主催、あるいはホスト地区の代理として実施される旅行を除いて、青少年交換プログラムの旅行は、ロータリー章典 41.060.12. に明記されている方針に従うものとする。ガバナーは、未成年者が地元地域外へ旅行をしたり、宿泊することを伴うすべての地区内で計画されたプログラムや活動の監督・管理の責任を負う。

クラブと地区は以下を行う；

1. 地元地域の外に旅行する青少年参加者の両親または保護者から事前に書面で許可を得るものとする。
2. 両親や法的保護者に対して、旅行に出発する前に、プログラムの詳細、開催場所、旅行日程、宿泊設備、プログラム責任者への連絡先を知らせなければならない。；
3. 自宅から 150 マイル (241 キロ) 以上離れた場所、あるいは国外に旅行する場合は、旅行する未成年者の両親または保護者が旅行保険を掛けるよう義務づけるべきである。その補償内容には、医療 (派遣国を離れる旅行の場合)、緊急医療移送、遺体の本国送還、法的責任を含まれており、その補償額は、活動または行事を主催するクラブまたは地区にとって十分ものであり、その補償期間は、未成年者が自宅を出発し、自宅に帰るまでとする。 .

クラブと地区の方針および手続きには以下の事項を含めるべきである：

1. ボランティア申請書と審査手続；
2. ボランティアの任務内容と責務の概要；
3. 監督者としての成人の未成年に対する割合の基準；
4. 以下を含む危機管理計画:
  - a. 医療とそのほかの緊急事態への対応および大人の支援体制；
  - b. 両親および法的保護者との連絡の手続き；
5. RI の方針に従い、申し立てあるいは事故に対する報告および最終対応に関する指針  
(2016 年 9 月理事会決定 57 号)



2017年4月28日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

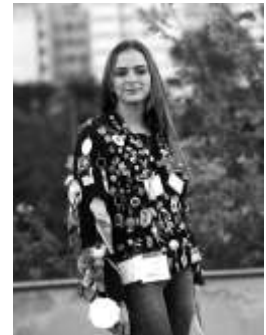
## 会長の時間 39

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**ユ**ース エクスチェンジ (Youth Exchange) 青少年交換のことです。

青少年奉仕部門には、皆さんよくご存知のインターアクト、ローターアクト、RYLA ともう一つ、柏原 RC ではあまり馴染みのない青少年交換プログラムがあります。

先週の会長報告で、危機管理についてお話をいたしました。青少年交換は、ロータリーが危機管理に取り組むきっかけになったプログラムですが、国際ロータリーの特徴を最も生かした素晴らしいプログラムでもあります。



改めまして、皆さん、こんにちは。先週、今週と大変忙しく、ロータリー漬けの毎日でした。金曜日の例会終了後は、神戸へ次年度秋に地区で計画されている「ロータリーフェスタひょうご」の打ち合わせ。土、日曜日は、第39回 RYLA セミナーのカウンセラーミーティングに小豆島の余島に講話者として一、26日の水曜日は宝塚中 RC に青少年奉仕について卓話者として一、そして昨日27日は第6回全国インターアクト研究会の打ち合わせに R I 2550 地区・栃木県宇都宮市に日帰りで行ってまいりました。おかげさまで、RID2550 地区の栃木ガバナー、太城（たしろ）エレクト、鈴木宏 P.G.他、多くのロータリアンにお会いすることができました。

ロータリー漬けもここまで来ますと、漬かりすぎで塩分過多といいますが、移動距離も半端ではなく、体力的にもかなりきついものがあります。その合間を縫って、本日のスピーチ原稿をはじめ、卓話の原稿1本、講話原稿2本、明日の地区研修・協議会部門別分科会の準備、それらのパワーポイント制作4本……。本当に、阿保です。

さて、先日、荻野泰男会員からお電話をいただきました。柏原高校の生徒さんからの問い合わせで、ケント市またはオーバン市の高校へ交換留学をしたいのですが、柏原 RC から資金的支援はしてもらえるのか、どんな手続きがいるのかというものでした。FB 関係だったのでしょうか？

青少年奉仕プログラムのうち、IAC、RAC、RYLA についてはこれまでの経験から認識はされているとは思いますが、しかし、こと青少年交換については、これまで関わったことがないので、未知のプログラムであるということに気がつきました。そこで、本日は、青少年交換について少しお話ししたいと思います。

青少年交換の歴史は、1920年代、ヨーロッパの少数のクラブの間で始まりました。ヨーロッパでのこれらの交換は第二次世界大戦まで続けられ、その後、1946年に再開されました。1950年代には、この相互交換型で長期的かつ学問的な交換は人気を博し、ロータリー青少年交換の原型へと発展していきました。1972年、国際ロータリーの理事会は、価値ある国際的な活動として、世界中のクラブに青少年交換を推奨することに同意しました。今日、毎年8,000人以上の青少年交換学生が海外に渡り、およそ80カ国で生活し、勉学に励んでいます。

異文化に接することは、国際理解と平和を推進する最も効果的な方法であると思います。ロータリーの青少年交換プログラムは、海外の人々と交流し、異文化を体験することによって、生涯にわたる国際理解の種を播く機会を多くの青少年に提供しています。

このプログラムは、参加する青少年はもちろんですが、青少年を受け入れるロータリアンや指導者のみならず、地域社会全体にも非常に多くの恩恵をもたらします。青少年交換を通じて、学生は他国での生活のあらゆる面をじかに学びます。世界に対する視野が広がるとともに、学生の自己に対する理解も深まっていきます。また、他国の教育制度を体験することによって、学業面でも人間的にも成長を遂げます。さらに、異文化出身の学生との親密な交流を通じて、受入れクラブ、ホストファミリー、そして地域社会全体も豊かになります。

では、高校が行っているような交換留学とはどう違うのか、という点についてお話しします。

最も大きく異なる点は、単なる語学留学ではなく、対象者は親善大使としての使命も担って留学する点です。ですから、多くの交流プログラムに参加します。また、定期的にロータリークラブを訪問し、交流や卓話をします。日本へも、毎月レポートを提出します。もちろん、同じプログラムで留学している他国の留学生とも交流、活動をします。例えば、留学先がアメリカだとしても、そこに来ているフランス、ブラジルなど何ヵ国もの留学生と友達になれるわけです。帰国時、彼らのプレーザーに輝くたくさんのバッジはその証です。

ホームスティ先はロータリー会員の家であることが多いので、その地域の有力な方々と面識ができます。費用面では、交換学生の負担は往復の交通費のみで、負担があるとしても奨学です。通常の語学留学費用 200 万～400 万円に比べれば、誰もが飛びつきたくなります。ホームスティ先のホストファミリーは、交代で 3 つのファミリーが担当します。その費用は、地区とホストクラブから支払われ、クラブの負担は諸費用を含め年間 30 万円くらいです。ちなみに、学生はお小遣いとして毎月 1 万円をもらえます。

しかし、交換学生にとって厳しい点は、行き先が本人の希望通りにはいかないということです。例えば、英語圏のアメリカを希望していても行き先はフランスということもあり、先の柏原高校生の希望に沿うことはできません。

このプログラムは、一人の交換生に対し 3 期のガバナーが関連します。例えば、次年度の瀧川年度の派遣学生の募集選考は本年度の室津年度に行われ、その帰国報告は、現在ガバナーノミニーの矢野年度に行われます。矢野ノミニーは、「10名の交換学生を、地区の各グループ内のクラブが協力して担当しよう」という提案をされています。都市部では問題ないかもしれませんが、地方では学校への通学の問題等、多くの課題があります。次年度から、青少年奉仕手委員会として準備にかかります。

本年度は、残念なことに、青少年交換が行われませんでした。あったはずのチャンスの芽を、奪ったこととなります。滝澤ガバナーは、代わりに青少年交換シンポジウムを開催し、問題点の洗い出しをされました。なにもされなかった責任は、問いようがありません。

2017年5月12日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 40 (柏原ロータリークラブ創立記念例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**メ**ビウスの帯 (Möbius strip, Möbius band) またはメビウスの輪 (Möbius loop) は、帯状の長方形の片方の端を  $180^\circ$  ひねり、他方の端に貼り合わせた形状の図形 (曲面) です。

メビウスの帯の名前は、1790年生まれのドイツの数学者アウグスト・フェルディナント・メビウスの名に由来します。多面体の幾何学という数学のややこしい話は、横に置き、メビウスの帯でたどったように、表から裏面に移りまた表に戻ってきてしまうことから、死を迎えてもそのエネルギーは再び何処かで生を受け、循環するという考えの生まれ変わり輪廻転生のような話の時に使われます。自然と人間の関係もメビウスの帯の関係は成り立ちます。人間は自然の中の一部であるという例えにも、よく使われます。



改めまして、皆さん、こんにちは。本日のゲストスピーカーは、大先輩の田中洋行様です。1964年5月15日が柏原ロータリークラブの創立記念日にあたりますが、その日に一番近い本日の例会日を創立記念例会として、田中先輩に卓話をいただきます。よろしくお願いいたします。



2週間ぶりの例会が、本当に久しぶりのように感じます。皆様、ゴールデンウィークは、いかがお過ごしでしたでしょうか？ 好天に恵まれ充実したゴールデンウィークを過ごされたことと思います。

5月は青少年奉仕月間です。私は先月の4月29日、2017年RID2680の地区研修・協議会に、次年度の理事・役員の方々と共に、青少年奉仕委員長として本会議、分科会と参加しました。翌30日は、RID2680のRYLA学友会理事会で、神戸の「すまうら文庫」に行きました。5月1日は、前島セミナーの打ち合わせに神戸へ。また、5月3日は山南ライオンズクラブのチャーターナイト50周年記念式典・祝賀会に柏原RC会長として出席。谷公一衆議院議員、谷口進一丹波市長をはじめ、180名を超える盛大な記念式典・祝賀会が山並みホールで開催され、記念事業として山南町内の各4小学校、2中学校、ちーたんの館にそれぞれ50万円ぐらいずつの金額で、各々の要望に応えられたので、吹奏楽器やカメラ、テント、放送器具等の備品、書籍など、総額400万円の寄付額に、谷口市長も驚かされていました。祝宴の乾杯の発声も「We Serve!!」で、全てがWe Serveでありました。

5月7日は、豊岡にて、合鴨インターアクト米の田植えに、柏原RACのメンバーと参加してまいりまた。滝川、滝二、神戸山手女子、神戸学院、豊岡総合など、総勢60名の活動でした。収穫したお米は、東北、熊本など災害地等への支援として、それぞれの参加クラブの判断で使われます。こうして私のゴールデンウィークは、黄砂と共に、あっという間に過ぎていきました。

さて、創立記念日例会にあたり、ライオンズクラブ（LC）との比較を通して、あらためてロータリークラブ（RC）を少し考えたいと思います。

RCは、I Serve（私は奉仕する）を理念としています。これに対してLCは、1917年、メルビン・ジョーンズの提唱により米国ダラスで誕生した組織で、社会奉仕を重点としたWe Serve（我々は奉仕する）を理念としています。

LC創立者のメルビン・ジョーンズは、元ロータリアンだったという説があります。シカゴのビジネス・クラブの一員だったのは確かですが、それがシカゴ・ロータリークラブなのかどうかは不明です。少なくとも現時点では、それを示す公式記録は見つかっていません。（記録はないのに、それが事実であるかのような語り伝えやエピソード話は、日本のロータリーではよくあることです）

いずれにしても、メルビン・ジョーンズはLCを設立し、以後、クラブとして寄付・寄贈を中心とした奉仕活動を展開しました。ちなみに、ライオンズとは、そのスローガンである「Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety（自由を守り、知性を重んじ、我々の国の安全を図る）」の頭文字をとったものです。

今回の山南LCCN50周年記念式典を拝見しますと、山南LC会員数32名、チャーターメンバー（CM）田中庸介終身会員をはじめ2名のCMがご健在で、活発に活動されています。しかし、RCと同様、近年の会員の高齢化・減少を受け、LCも何か組織としての変革を模索されているようでした。式典Opening時の会員による寸劇では、「アクティビティー（行動）」、すなわち、地域社会への奉仕が強調されていました。寄付・寄贈から変わりつつあるのでしょうか。また、他団体との協力も強調されていました。

今、帯の片面にI Serveと書き、もう片面にWe Serveと書いてみましょう。これをそのまま輪にすると、それらは別々の次元のものであるかのように表裏となり、永久に交わることはありません。しかし、その帯を180度ひねって、メビウスの帯にしてみてください。

RCのI Serveは個々の奉仕です。これを、個人同意のもとにクラブで結集すれば、We Serveの形になります。また、We Serveで経験した奉仕活動を、自ら個人の責任として継続実施すれば、それは立派なI Serveです。

例えば、昨年実施した「氷上特別支援学校のサッカー合宿のプロジェクト」は、クラブとしての継続は難しいですが、I Serveで声をかけ実施することは可能ではないでしょうか？ 要は、ひとひねり一、創意工夫が必要です。

もう一つ、帯の内側に親睦、裏面に奉仕と書いて、普通に輪を作ってみてください。内側に向かっての親睦、外に向かっての奉仕となります。これは、世間一般的な「親睦と奉仕の成り立ち」関係だと思えます。次に、帯を180度ひねって、メビウスの帯にしてみてください。親睦を通して奉仕、奉仕を通じて親睦となります。このようにロータリーでは、親睦と奉仕は繋がるのが理想だと思います。

創立記念日例会の時間、先人に思いをはせながら、クラブ奉仕あるいは職業奉仕が片面に、また自身自身の社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕がもう片面にあるメビウスの帯を、ロータリー・ライフの中で見つけてみてはいかがでしょうか。

2017年5月19日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 41 (原田義之氏 卓話例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**密**雲不雨、雨雲で覆われているにもかかわらず、まだ雨が降らない様子一、すなわち、兆候はあるのに、依然として事が起こらない不安な状態の例えです。

今後の朝鮮半島情勢はどうなるのか？ トランプ大統領の運命は？ 世界情勢を含め、この世の中の情勢、未来はどうなるのか不安なことだらけです。

億万長者にしてロータリアンでもあるビル・ゲイツは、ライフワークとして、コンピューター、公衆衛生、環境の各分野で未来を予測しています。過去には、スマートフォンやSNSが世界を席卷することを言い当てました。今日は、彼の7つの予言、私たちの世界の未来について紹介します。



改めまして、皆様、こんにちは。本日のビジターは、京都洛東RCの中村廣良様、篠山RCの満仲諦雅様です。ようこそお越しいただきました。ごゆっくりしてください。



また、本日のゲストスピーカーとして原田義之様をお迎えし、卓話として『輝く瞳に会いに行こう』と題し、素晴らしいお話をいただきます。

原田先生は、タイ王国RID3360 チェンライ RC、2013-14年度の会長で、現在も日本とタイを行き来しながら、無償（ボランティア）でタイ少数民族アカ族の識字率向上へ向けた就学支援も続けておられる、まさに、奉仕の実践者です。昨年夏の前島・国際青少年リーダー養成セミナーでは、第1講義を担当していただきました。次年度の前島セミナーでも講師をお願いしております。

原田先生、全国へ講演に飛び回っておられる大変お忙しい中、我がクラブの例会卓話に来ていただき、本当にありがとうございます。例会の時間内ということで、十分な時間をお取りすることはできませんが、会長報告を短くし、できるだけの時間を確保いたしますので、よろしく願いいたします。

さて、ロータリアンでもあるビル・ゲイツの予言ですが、皆さんはどう思われるでしょうか？

### 1、バイオテロによって1年足らずのうちに3300万人の命が奪われるだろう。

テロリストが、空気感染する病原体を散布する可能性がある—ということを、今年2月にドイツのミュンヘンで開催された会議で発言しました。それは、「人工合成ウイルスや高い致死性を持つ新型インフルエンザにより、(疫学者たちの間では)今後10~15年以内に世界が経験したことがないような疫病の流行が十分に起こりうると言われている」という内容でした。そのため、ビル&メリンダ・ゲイツ財団は、世界の最優先課題として、ワクチン開発の強化を挙げています。しかし、そうになると疑問符も浮かび、新たな金もうけの匂いもしてきますね。

## 2. アフリカでは、食料の完全な自給自足が可能になるだろう。

アフリカの農業生産性は 2030 年までに 50%上昇し、アフリカ大陸全体で自給自足が可能になるだろう ―。これは、2015 年の「ゲイツレター」と呼ばれる年次書簡の中の予言です。現在、サハラ砂漠以南は住民の 70%が農業に従事しており、アフリカ大陸は約 500 億ドル（約 5 兆 6600 億円）相当の食料を毎年輸入しています。この状況は、農業分野におけるイノベーションによって、今後 15 年間で解消される―という明るい未来でしょうか？ しかし、また別の問題が生じそうで素直に喜べません。

## 3. モバイルバンキングが、貧しい人々の生活を変えるのに役立つだろう。

「アフリカの貧困の原因は、銀行インフラの乏しさにある」というビル・ゲイツらしい考えで、2015 年の年次書簡に記しています。「現在、銀行口座を持たない 20 億人の人々に対して、2030 年までに、携帯電話を使って貯金や支払いを可能とする。その頃には、利息付きの預金口座から保険クレジットに至るまで、総合的な金融サービスが受けられる」と言われています。しかし、それではとても本質（アフリカの貧困）の解決になっていません。

## 4. 2035 年までに貧困国は、ほぼなくなるだろう。

国際社会が現在のレベルで援助を続けていけば、ほとんどの国は 2035 年までに貧困国ではなくなる。そんな大胆な予言を、ゲイツ氏は 2014 年の年次書簡の中に書いています。貧困と無縁の人が・・・。

世界銀行による「貧困」の定義は、1 日当たり 1.90 ドル（約 210 円）未満で生活する状態で、現在、約 35 カ国がこれに該当。「ほぼ全ての貧困国が、現在『低所得国』と呼ばれている国の水準に達するか、それを上回るだろう。どの国も、近隣の最も生産的な国から学び、新しいワクチンや品種改良された種子、IT 革命の恩恵を受けるだろう」とゲイツ氏は記していますが、どうも貧困の本質、ご存じないようです。

## 5. 2030 年までに、世界の電力事情を改善するクリーンエネルギー革命が起こるだろう。

ゲイツは 2016 年、希望に満ちた予言を述べました。しかし、核の廃棄はどうするのか

## 6. 自動化によって、大量の仕事が奪われるだろう。

今後 20 年で、仕事の分野によっては、人間からロボットへの置き換えが急激に進む。結果として、労働者が解雇される。ロボットに課税することも、政府に提案している。ということは、格差社会は加速します。

## 7. 2019 年までに、人類はポリオを撲滅できるだろう。

「現在、撲滅計画の総仕上げに取り組んでおり、わたしは 2019 年までにポリオの撲滅が実現すると信じている」と予言しています。達成すれば、ロータリー財団は、新たな目標を決めるでしょう

ビル・ゲイツの予言、密雲不雨の感は増すばかりです。晴れやかな未来はあるのでしょうか？

好むと好まざるとにかかわらず、現代は大きな渦のように激変していきます。物事を俯瞰し、流れを大きくとらえることも大切ですが、机上では決して分からないことも多々あります。本日のゲストスピーカーの原田先生は、自らロータリーの奉仕を実践し、貧困や差別と向き合いながら活動されています。皆様も、本日のこの機会を是非、良い機会にしてください。過去と他人は変えられませんが、未来と自分は変えられます。

### \*卓話者 原田義之（はらだ よしゆき）氏

1943 年、福島県生まれ。慶應義塾大学商学部卒業後、大阪銀行株式会社へ入行。その後、フジマサ機工株式会社、ゼオテック株式会社代表取締役役に就任。2006 年に同社代表取締役を退任後、2008 年、NPO 法人タイ国学生日本語教育環境支援プロジェクトを設立し、理事長就任。現在、タイ国の国立ダムロンラートソンクロ高校日本語教師、神戸市教育委員会生涯センター講師。タイ少数民族アカ族の識字率向上へ向けた就学支援も続けている。

2017年5月26日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 42

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**親**睦一、ロータリークラブの基本であります。ロータリーの目的の第1項に「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること」とあげられており、四つのテストの3番目に「好意と友情を深めるか」と謳われていますように、すべての奉仕活動の源は親睦に発するもので、**親睦こそ奉仕の心呼び起こす原器**とされています。本日の会長報告は、深川純一 P.G.にお聞きした講演から、親睦についてお話しさせていただきます。



改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、ビジターとして、篠山 RC から小田垣博三様、満仲諦雅様、吉田英昭様がお越しです。また、本日のゲストスピーカーは、丹波市教育委員会の教育長である岸田隆博様です。お忙しい中、お時間を割いていただき、ありがとうございます。よろしく願いいたします。

先日21日に開催しました「丹波に住む外国人との国際交流プロジェクト」は、柏原高校 IAC 23名、氷上高校 IAC 14名、氷上西高校 IAC 13名の計50名に加え、RAC 7名、RC 18名、丹波市国際交流協会 30名、そして外国人 63名という盛大な催しとなり、柏原 RAC の進行、IAC の活躍で楽しい交流会ができました。参加された外国人からは、「こういう機会を年に一度でなく、もっと増やしてほしい」との感想もありました。国際奉仕委員会の岸田委員長、打ち合わせから当日の段取り、総合プロデュース迄、本当にありがとうございました。

今月は、青少年奉仕月間です。国際交流での青少年の大活躍を報告しましたので、親睦についてお話しする前に、せっかく教育長がお見えですから、ロータリーの青少年奉仕について少しお話しさせていただきます。

**国際ロータリーの公認プログラム**として、青少年奉仕部門にはインターアクト (IA)、ローターアクト (RA)、RYLA、青少年交換と、四つの青少年育成プログラムがあります。すべて『人を育てる』プログラムです。ロータリーが、如何に青少年に対し強い思いを持っているかが分かります。

IA は 12~18 歳が対象で、柏原、氷上、氷上西の高校、すなわち市内すべての高校で提唱され、活動しています。RA は 18~30 歳が対象で、特に柏原 RAC は県下でもリーダーシップを発揮し、大変熱心に活動しています。RYLA はロータリー青少年リーダー養成プログラムの略称で、当地区では 20 歳以上の若者を対象とした 3泊4日の集中リーダー養成セミナーを実施しています。先週、第39回セミナーが修了したばかりで、当クラブからは山名君、阪上さんが受講してまいりました。青少年交換は、海外との留学生交換事業です。これは単なる語学留学ではなく、親善大使としての役割も併せ持つ、国際ロータリーならではの他に真似のできない事業です。なお、少年野球、サッカー、吹奏楽などの若者支援等は、それぞれ立派な事業ですが、あくまで社会奉仕事業であって、**国際ロータリーの青少年奉仕事業**ではありません。なぜなら、ロータリーの青少年奉仕事業には、ロータリーの理念が必ずあるからです。対象の青少年がロータリーを理解し、同じ方向性を持つこれが公認プログラムの所以です。

もう少し岸田教育長にお話ししたいところですが、今日はこれくらいにしておき、親睦についてお話しします。以前、柏原高校の某校長に、こんなことを言われました。「ロータリーは、所詮、金持ちの昼飯食い会やろ」一。教育者の言葉とは思えない、品格の微塵もない耳を疑う悲しい言葉です。

しかし、ここでは敢えて、ロータリアンとして襟を正しましょう。そして、ロータリーの基本「親睦」について考えてみましょう。「ロータリーの目的」(綱領)について、深川先生はこう説かれています。

「それは、ロータリーとは何かということを簡明直裁に書き上げたドキュメントです。般若心経が僅か 262 文字をもって仏道とは何かということを解き明かしているように、ロータリーの目的は英語で僅か 100 文字、日本語でも非常に簡潔な文章で、ロータリーの原理体系を集約しています。それは、ロータリーの思想、組織、そして実践の原理を集大成したもので、ロータリーにおける般若心経と言うべきものです。」

その目的の第一に、「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること」とあります。しかし、この翻訳は正鵠(せいこく)を射たものではなく、設立の背景を鑑み、突き詰めると「心の友を得て、もって奉仕の契機とすること」と訳す方が、ぴったりとくると思われます。これは、小堀憲助先生の翻訳だそうです。ロータリーの理論用語に直すと、Fellowship for Service一、「親睦なくして奉仕なし」と訳してもよいかと思えます。世のため人のために尽くすためには、先ず親睦が第一ですよ、Fellowship 一、友情が大事ですよということを、ロータリーは説いています。

その Fellowship とは何かというと、それは、**優れて精神的な親睦**のことです。皆がお互いに学び合う親睦、お互いがお互いに学び合う親睦、そういうものが“Fellowship”の内容です。親睦の中で仲良くなって、己の到らざるところを他のロータリアンに学ぶ、そのようにしてロータリアンが毎週の例会で学び合ったならば、例会が終わって一歩外へ出れば奉仕ということになります。奉仕はロータリアンが自ずと実践することであって、「奉仕、奉仕と言わずとも、肝心要の元は親睦だよ」と深川先生は言われています。

しかし、例会に出席しなければ親睦はありません。そして、その親睦というのは**優れて精神的な親睦**であって、親睦を感性的にとらえると、ロータリーの目的の意味が理解できません。酒を飲むとか、ゴルフで愉しむとかをロータリーの親睦と考えている人がいますが、そのような感性的な親睦は一般的なものであって、ロータリーの親睦の本質ではないのです。

もちろん、ロータリアンもお酒は飲みますし、ゴルフもします。では、一体何が違うのかというと、ロータリーの親睦というのは、そのような感性的な親睦だけではなくて、**心の友を得たことが奉仕の契機となるべし**、すなわち、心の友を得たことが媒体となって、奉仕というものが自ずと出てくるようなものでなければなりません。それだけに、例会に出席した会員同士、お互いに己の到らざるところを他の会員から学び合うという親睦でなければなりません。かりそめにもロータリアンと言われる人たちの集まりであります。たとえ一言も喋らなくても、その一挙手一投足が、何か人に教えるものを持っているのであります。

例会出席については、「単なる義務と捉えるのではなく、入会時に他の会員と交わした約束である」と、私は常々思っています。約束をたがえることは、友として最も大切な信頼をなくします。皆勤は、「あの人は、必ず出席する」という絶対の信頼になります。そういう意味でも、例会出席は心の友を得る必須条件です。そのような人たちの毎週一回の会合が、まさにロータリーの例会なのであります。「金持ちの昼飯会」などと揶揄されることは、決してないと思います。

月末の 28 日は、家族親睦旅行会です。この機会に、より精神的「親睦」を深めましょう。



2017年6月2日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

### 会長の時間 43 (次年度会長方針例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**えびす**は、日本の神です。現在では、七福神の一員として日本古来の唯一（その他はインドや中国由来）の福の神であるという説と、もともと「えびす」という名称自体が異国の人を意味する言葉で、本来は異国から降臨して幸をもたらす神様であったのが、後に記紀神話に登場する神様と同一視されるようになったという説とがあります。

豊漁の神様として崇められ、やがて豊作の神様、五穀豊穡へと繋がりました。こうして、えびす神社は商売繁盛の神社とされ、1月10日の「十日戎」が今では主ですが、10月20日の豊漁、豊作を祈念する「えびす講」こそが、そもそもの元です。



また、このえびす様、10月の「神無月（かなづき）」、八百万の神々が皆こぞって出雲大社に集まっている時に、唯一留守番をしている神様でもあります。それは、この10月20日の「えびす講」のためです。皆が出雲に向かう中、一人取り残されても「えびす顔」だったのでしょか？

改めまして、皆さん、こんにちは。6月は、ロータリー親睦活動月間です。先週の5月28日には、家族親睦旅行へ多くの皆様にご参加いただきまして、ありがとうございました。おかげをもちまして、良く歩き、良く歩き、良く歩き、万歩計も1万歩を軽く超える、万足の旅。よく食べ、よく飲み、よく話、それこそ満足の旅。まさに楽しい思い出に残る親睦旅行となりました。親睦委員会の皆さん、有難うございました。

本日の卓話は、次年度会長方針です。えびす顔の柳川次期会長にあやかり、えびすさんのお話と、次年度は足元を見つめ直すことが大切とされていますので、ロータリーの目的について、お話しします。

昔々、縄文時代は狩猟採取の暮らしで、共同体として自然の恵みを分け与え、とっても平和な時代が世界に類を見ない1万年以上も続きました。稲作が大陸から伝わり、弥生時代には蓄えをするものが現れ、貧富の差から争い事が始まります。その頃、業として漁業、農業を行い、豊漁や豊作を願うようになりました。そして、いつの頃からか、えびす様に祈念するようになったのでしょうか、自然相手に取ったものを、物々交換なり、商売として商うようになり、やっと等価値、平等などを考えるようになったのかもしれませんが、このあたりから、高潔性なるものが問われてくる時代なのでは・・・と思います。

ロータリーの目的には、「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には次の各項を奨励することにある」とあります。一読して、解りにくいことが判ります。この翻訳では解りにくいので、小堀憲助先生の翻訳によりますと「ロータリーとは、企業の根底に奉仕を置くべしとする理想を提唱すること、それを目的とするクラブ活動のことをいう」となります。

この中で、『企業の根底に奉仕を置く』というところが中心概念なのですが、資本主義経済社会においては、企業の目的は「利潤の追求」であります。企業の根底には「儲け」があるわけで、もちろんロータリーは「儲け」を否定するわけではなく、ここが肝心なところですよ。ロータリーは、企業の根底に「儲け」があることを認めたいので、それでは「儲け」とは一体何か・・・と考えるわけです。

深川純一 P.G.は次のように説かれています。

例えば、百円のを仕入れて、これを百万円で売ったとすれば、そのような利益をロータリーの意味での「儲け」、利益と言えるのか——という問題があります。これは、明らかに「暴利」であります。したがって、商売をする以上、商人もやはり儲けなければ幸せな人生を築くことはできませんが、それには限度がありまして、適正な利潤を超えて儲けてはならないのであります。したがって、商人は商人で儲かって幸せになるが、顧客もその商品を買って幸せになるという両者の調和点が、何処かになければなりません。これを抽象的な表現で表しますと、「利己と利他との調和」ということになるのであります。

このようにして、常にその調和を求めていきますと、一つの取引を通じて、目に見える『商品と金銭の交換』だけではなく、目に見えない『満足と感謝の交換』が行われます。つまり、お互いに小さな信頼関係を交換することができるようになるのであります。

そして、商人が長年に亘ってこの営みを続けていきますと、地域社会に信用というものを築くことができるのであります。そして、信用ある商人が栄えるということは、その反射的効果として、地域社会全体もまた栄えることを意味するのであります。この点を追求することが、まさにロータリーなのであります。

このようにして、ロータリーの奉仕とは、金持ちが思い上がって弱者に金を恵むというような次元の低い奉仕を意味するものではなく、ロータリアンが日常の企業経営の中に「利己と利他との調和」を本体とする奉仕の考えを植え付けるものでなければならないのであります。砕いて言えば、企業の中の根底にある儲けの中の「儲けてもよい儲け」を追求することが、ロータリーの目的なのであります。

ポール・ハリスは、この点をとらえて、「ロータリーは、儲けの金高を問題にするものではない」と言っています。すなわち、ロータリーは、儲けた金高ではなく、儲けた方法、儲け方を問題にします。これが、職業倫理に関わってくるのです。いわゆる、ロータリーの中核的価値観の「高潔性」です。

企業の根底に奉仕を置いて職業を営みますと、つまり、職業を倫理的に営みますと、奉仕を通じて厚い信用に支えられ、利潤、すなわち儲けが長期的に安定的に入ってくるのです。これは、かなり即物的な解釈ではありますが、*He profits most who serves best.*（奉仕に徹する者に最大の利益あり）という標語の意味するところなのです。

この標語は、現在ロータリーの第2の標語になっています。「利己と利他との調和」は、1923年のセントルイス国際大会における決議23-34号の第1項において、「ロータリーとは、利己と利他との調和を目的とする人生の哲学である」と定義されています。つまり、ロータリーの目的の本文と決議23-34第1項は、同じことをいっていることとなります。

我田引水——、利己のためだけに利潤を求め、他を利用するだけ利用しつくすような人、自己研鑽とマスターベーションを勘違いし、自分のことしかしない人はロータリアンではありません。企業の根底に奉仕を置くこと、そして「利己と利他との調和」を考えつつ、改めて柔びす神社にお参りしましょう。

2017年6月9日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 44 (RYLA 報告例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**人**こそ人の鏡——とは、他人の言動は鏡に自分を写す鏡のようなものであるから、他人を見て自分を改める参考にせよということで、鏡に自分の姿を写して正すように、他人の言動は自身を正すのに良い手本になるということです。

この出典は、『書経』の「人は水に鑑みること無く、当に民に監みるべし（水鏡に自分をうつして見ることをせず、人民の声によって我が身を反省するのがよい）」に基づいています。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日のビジターは柏原 RAC の幹事である大久保彰彦さんです。ごゆっくりお楽しみください。



また、ゲストスピーカーは、「第 39 回 RYLA セミナー」に参加された柏原ローターアクトクラブの阪上美咲さんと、山名会員のご子息でもあります山名洋一朗さんです。私は、柏原 RC 例会と「丹波に住む外国人との国際交流プロジェクト」事業とがあり、今回の RYLA にフル参加はできませんでした。本日は、RYLA に受講されたお 2 人から、セミナーでの経験や感想を聞かせていただきます。

また、昨日は近隣 4 クラブの親睦ゴルフ大会があり、19 名の参加でしたが、当クラブから 11 名もご参加いただきました。お世話をいただいた親睦家族委員会の皆様、ありがとうございました。私は、空気を讀まずにラインを讀んで、不覚にも優勝してしまい、用意した会長賞を自ら持って帰ってしまうという不祥事を犯しました。申し訳ありませんでした。

本日は、RYLA 報告会という折角の機会ですので、今回は RYLA セミナーについて、そしてロータリーの中核的価値観である「リーダーシップ」についてお話しします。

まず、RYLA というのは、Rotary Youth Leadership Awards の頭文字をとった略称であります。和訳すると、ロータリー青少年指導者養成計画となるのでしょうか。これは、国際ロータリーが提唱し、公認している青少年プログラムの一つです。

さて、ロータリーが青少年との関わりをもったのはかなり古く、それはロータリーができて間もない頃のことでした。ある冬の寒い朝、シカゴの街角で、新聞が一部も売れずに困っていた新聞売りの少年をロータリアンが見つけました。そのロータリアンは少年を例会場へ連れていき、会員皆で、すべての新聞を買ってあげたという、誠に素朴で善意の物語です。

このようにロータリーは、当初、世の中の困った人を助ける、弱者救済をもって奉仕と考えていました。しかし、やがて、困った人を助けるのが奉仕なのかという反省があり、ボーイスカウトを育てるとか、ユースホステルを支援するとか、職業訓練所や身障者の養護学校を設立するとか、人を育てる方向への奉仕をするようになっていきました。

この「人を育てる奉仕」の延長線上にあるのが、青少年奉仕関連では1962年からもインターアクトクラブであり、1968年からのローターアクトクラブであり、1974年からのRYLAですが、青少年の心を育てるという意味では、RYLAが最もロータリー的なプログラムと言えるでしょう。

RYLAがロータリーの世界に登場したのは、1959年、オーストラリアのクイーンズランド州創設100周年にあたり、来賓のイギリス王女と年代の青年男女をブリスベンRCが集め、社会教育プログラムを実施したのが最初です。しかし、その後、RYLAは鳴かず飛ばずの状態が続きましたが、1974年に米国ワシントン州のタコマで開催されて以降、草原の野火のように全世界に広まりました。

一口にRYLAと言っても、現在、各地で行われているものには、様々な形態があります。当地区のRYLAは、39年前に元RI理事の故・今井鎮雄先生が開発されたものです。その基本構想は、その後の国際RYLAの模範となったほど素晴らしいものでした。

今井先生の基本構想は、その核になるものが4つあります。

**第一の核**は、受講生に対するレベルの高い講義です。タレントや著名人による講義ではなく、問題意識をより深めていくような講義です。アメリカのオリジナルRYLAのように、18歳から24歳までというのでは講義を消化する能力がないだろうということで、参加資格を20歳以上ということにされたそうです。最低、大学の教養課程修了以上の学力が必要ということになります。

**第二の核**は、カウンセラーシステムです。リーダーのように指導するのではなく、寄り添うカウンセラーをつけるのがポイントです。カウンセラーは、男女二名のロータリアンもしくはロータリアン婦人で、受講生と常に寝食を共にしながら、彼らと向き合い、付き合います。

**第三の核**は、親睦です。お互いの信頼関係ができて、初めてこの組織キャンプが成り立ちます。ですから、初日のウエルカムパーティーやキャビンタイムでも飲酒はOKです。打ち解けあい、腹を割って話をする、突っ込んだ話ができる間柄になるように、レクリエーションなども工夫してあります。

**第四の核**は、延々7時間以上に及びディスカッションです。班毎の、それをまた細分化した小グループ毎のバズセッションで、徹底的に意見を交換し合い、知性を錬磨するのです。また、このディスカッションで、第三の核である親睦がさらに熟成されます。この親睦は、受講生同士がお互いに学び合う親睦であり、ロータリーで言うところの精神的親睦です。

不思議なことに、RYLAセミナーを終えて帰る頃には、誰かの指示による外発的なリーダーシップとは明らかに違う、内発的なリーダーシップが自然と養われています。これこそ、ロータリーの中核的価値観である**リーダーシップ**そのものであり、親睦が奉仕を生む原器である一つの証明です。



私は、RYLAカウンセラーを4年間に亘って4回務め、冒頭に話しました『人こそ人の鏡』という言葉を感じました。如何に真剣に受講生と向き合うか、勝負はそこにあります。

それにより、受講生の成長が全く違います。そう、変わってくるのです。RYLAは、不思議なセミナーです。受講生だけでなく、かかわるロータリアンも勉強し、成長し、変わります。多くのパストガバナーが未だに熱心にかかわっておられるRYLAの魅力、蟻地獄のごとくハマってしまう魔力。そこにRYLAの魅力があり、まさにロータリーのあるべき姿、ロータリーの真髄が鏡のように写って見えるかのような思いがします。

故・今井鎮雄先生の言葉「身を捧げなさい」一、この教えこそ私のロータリーの原点です。

2017年6月16日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 45 (ローターアクト活動報告例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**毛**利元就といえば、三本の矢——、『三矢（さんし）の訓（おし）え』です。

毛利家を西国の雄に押し上げた毛利元就が、その死を間際にして、3人の息子に言ってきかせた一家団結の教訓です。

それは、Jリーグチームがサンフレッチェ広島（サン=3、フレッチェ=矢）と名付けられるほど有名なエピソードです。三人の子供たちに矢を折らせて、「1本なら簡単に折れる矢も、3本なら折れ難い」と、安倍首相の経済政策はともかくとして、家族の結束が如何に重要であるかを説いたという内容ですが、調べてみますと、残念ながら、このエピソードは後世の創作です。

改めまして、皆さん、こんにちは。本日のビジターは篠山RCの堀口純雄様です。ようこそお越しいただきました。ごゆっくりどうぞ。



ゲストスピーカーは、柏原ローターアクトクラブ会長の小山雄平さんで、次年度会長の大久保彰彦さんも随行でお越しいただきました。柏原ローターアクトの活動報告、よろしくお願いいたします。

本年度は、ローターアクトクラブと6つの共同事業がありました。真夏の「氷上特別支援学校でのユニファイドスポーツ合宿」に始まり、「前島国際青少年リーダー養成セミナー」、年末の「プロバス、RAC合同親睦例会」、2月は柏原厄神さんでの「ポリオ撲滅共同募金」、3月は「青少年のための国際・社会奉仕研修と交流会」、そして先月の「丹波に住む外国人との国際交流プロジェクト」です。それぞれの事業、大変お世話になりました。今日はそれらの報告があると思いますが、特に後半の二つの事業は、ローターアクトクラブが主体となって見事に成功させていただきました。クラブの成長ぶりは、目を見張るものがあります、敬意を表すとともに、感謝申し上げます。小山会長、大久保幹事、疲労困憊ではないでしょうか？ 栄養剤等もご用意しておりますので、いつでも当薬局にお出てください。

さて、話を戻します。『三矢の訓え』ですが、元就の長男の毛利隆元は、父より先に亡くなっていますので、元就の臨終の時に3人の息子に言いきかせることは不可能です。かと言って、この話、まったくのウソでもありません。

それは、まだ隆元が元気だった弘治三年（1557年）11月25日付けの書状で、長男の隆元、次男の吉川元春、三男の小早川隆景の3人の息子宛てに、「三子（さんし）教訓状」を元就が送っていることに由来します。そこには、「3人の間に少しでも亀裂が生じたら、3人とも滅亡すると思え」てな事が書いてあって、この書状の内容がもととなって、3本の矢の逸話が生まれたのです。

余談ですが、こうしてみると、あたかも元就には3人の子供しかいなかったように思ってしまうのですが、実は元就、70代になっても子づくりに励んでいた元気満々で、男女それぞれ12人のお子さんを設けております。そのうち、9人の男の子と2人の女の子は無事に成人しています。

転じて、柏原ロータリークラブの三本の矢は——ということですが、故・河上輝彦先生が奨められた「三代会長・幹事会」ではないでしょうか。「三代会長・幹事会」とは、クラブの長期戦略計画の原案を立てるため、直前年度の会長・幹事、その年度の会長・幹事、次年度の会長・幹事という、三代に亘る会長・幹事が、柏原ロータリークラブの過去の経緯を現在の問題へと引継ぎ、未来に向けての計画を話し合う会議です。そして、その結果を理事会でしっかり検討します。ここで十分に検討・議論しておけば、クラブの方向性は安定し、狂ったりはしません。新年度に出航しても、会長・副会長・幹事の「三本の矢」でがっちりと支え合えば、荒波、ものともするものぞ——と、安定した航海ができるでしょう。

これは、ロータリークラブにおいても同じことが言えると思います。去る5月の第4週、ロータリークラブの例会で、次期大久保 RAC 会長は過去3年の会長ターゲットを参考に、大久保年度のクラブターゲットを宇崎直前会長、小山会長、次年度役員と相談した上で、その内容を会員に報告されていました。素晴らしいことだと思います。

地区においては、ガバナー、エレクト、ノミネーですが、次期ガバナーの瀧川エレクトは前年度のほぼすべての会議や事業に顔を出されて勉強されます。熱心なノミネーに至っては、私の知る限りでは、大室 P.G、滝澤 P.G、丸尾直前 P.G、そして現在の矢野ノミネーは、ノミネー時代からほぼすべての会議、事業に顔を出されています。こうして初めて流れが把握でき、問題点も見つかり、安定した地区運営が可能となります。クラブ運営に関しても同じだと思います。

次々年度は、柏原ロータリークラブ創立 55 周年、柏原高校インターアクトクラブ創立 50 周年、さらに柏原 RAC、氷上高校 IAC、氷上西高校 IAC が共に創立 5 周年の年となります。それゆえ、柳川会長がおっしゃるように「看却下」——、足元を見つめ直し、しっかりと早め早めに準備を始めなければ間に合いません。会員の皆様のご協力が、何より必要となります。

今後も社会・地域奉仕には、ロータリークラブ、インターアクト、ロータリークラブ、そしてプロバスクラブの「四本の矢」で協力し合いながら、切磋琢磨、自己研鑽を重ねていきましょう。



2017年6月23日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 46 (今年度クラブアッセンブリー例会)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**正**射必中——ですよ。会長としてなされたことは、必ずや実を結びますよと、落ち込んだ私にそう言って励ましてくれたのは、昨年の第一回例会にわざわざ九州から駆けつけてくれた田村志朗氏 (RID2700 青少年奉仕委員長・福岡東RC) でした。

この『正射必中』——、弓道の正しく射られた矢は、必ず的に当たるという考え方です。弓道には、弓を使って矢を射るまでの一連の動作を八つに区切って説明した「射法八節」という法則があります。すなわち、矢を射るまでの一連の動作とは、足踏み、胴作り、弓構え、打起こし、引分け、会、離れ、残心(残身)と呼ばれる八つのステップです。この八つのステップを正しく行うことができれば、矢は必ず的に当たる・・・とされています。とてもポジティブなアドバイスで、悩んでいた私の気持ちを楽にしてくれました。



改めまして、皆さん、こんにちは。本日は、阪神第3グループのガバナー補佐、阪上栄樹様にお越しいただきました。一年間のご指導、有難うございました。ごゆっくりしてください。

先週18日の日曜日、第39回地区ローターアクト年次大会が神戸で開催され、古川、広瀬両会員と私とで、出席して参りました。瀧川ガバナーエレクト、矢野ガバナーノミニーもご出席され、守本枝里香代表の元、2680地区は勿論、全国からローターアクターが駆け付け、総勢170名ほどの盛大な大会でした。柏原RACからは9名参加で、卒業生として荻野紗奈さんと宇崎聡太さん、阪上美咲さんが涙涙の感動的な卒業式。まるで、柏原RACのための大会のような錯覚に陥るほどでした。

次年度は、第40回地区ローターアクト年次大会が来年の6月10日、ここ柏原で開催されます。次年度の柳川新会長のまごころ「丹」の心で、皆さん、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日の例会は、柏原ロータリーの今年度事業報告ともいうべき、クラブアッセンブリーです。年度初め、それぞれの委員長の皆様には、今年度の会長方針並びに委員会への諮問事項として、より良きクラブ運営のために色々な願いをいたしました。それを受けて、各委員会方針を委員会開催後にお決めいただきました。その目標に向かい、委員会の皆様にご尽力いただきました。その過程が本日の柏原RCを作り、今日を迎えております。委員長並びに会員の皆様には深く感謝を申し上げます。

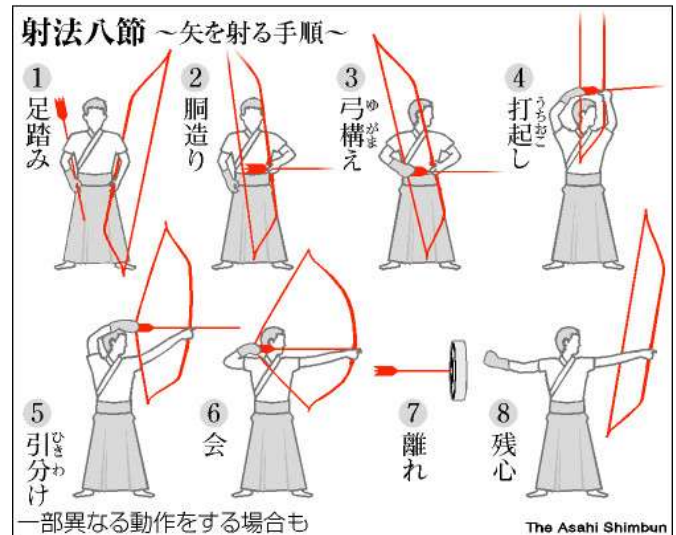
私は、各委員会への具体的な諮問事項の他に、本年度の柏原RC全体の活動最重点項目として、

1. 会員増強拡大
2. 地区補助金プロジェクトの成功
3. 青少年奉仕活動に対する会員の理解と参加協力

という3つを挙げさせていただきました。「会長の想いが会員皆の心に届き、当初の狙い通りのことが100%達成できたのか」と問われると、会長としての不徳の分、未達があったことを反省します。

さて、「正射必中」——。この言葉は、ゴディバジャパン代表取締役ジェローム・シュジャン氏の座右の銘でもあります。ゴディバジャパンは、この5年間で2倍の売り上げ増を達成しました。今の時代、どんなビジネス戦略を立てれば、このような結果が出せるのでしょうか？

ジェローム氏は、「その答えは、結果を出せるビジネスの正しい姿勢を、長年続けている弓道から学んでいたからです」と言われています。「正射必中」をビジネスの世界に置き換えると、「お客様のことを本当に考えて良い商品を作れば、結果は必ずついてくる」という意味です。



これは、まさにロータリーの職業奉仕の理念と同じであります。実際に仕事を進めていくと利益率や効率性、売り上げや職場の人間関係などに惑わされ、実現することの難しさに気づかされます。弓道の教えがあったからこそ、ブれることなく「正射必中」の考え方を貫き通せたと言われています。

職業奉仕の特徴は、結果として、ロータリアン本人が受益者になり得ることです。すなわち、職業奉仕を邁進することで、永続的に適正な利潤が得られます。その利潤を適正に事業に関係する周囲の人々に還元するとしても、ロータリアン本人もその恩恵を受けているのです。

少し苦言を申しますと、例会の遅刻や早退の言い訳に職業奉仕を引合いに出す方がおられますが、これは不適切な表現です。それは、「私は、職業奉仕を正しく理解していません」という証明にしかなりません。ついでに、自分の職業を生かしたボランティア活動を職業奉仕の範疇に入れる傾向が、昨今見られます。これは、その対象によって社会奉仕か国際奉仕に属する活動であり、職業奉仕ではありません。

売上や納税額の多さ、社員を多く雇うことこそ職業奉仕だと言われた方もいましたが、それはあくまで結果であって職業奉仕ではありません。結果について思い煩う、結果に目を奪われることは、本来の目的を見失ってしまいます。「結果より、今の行動に焦点をあてる」ことが大切です。これは、マラソンの高橋尚子の言葉です。

とかく我々は、結果の数字に目がいってしまいます。しかし、スポーツや芸術なら、日ごろ積み重ねた練習や稽古の量や質で結果は決まります。会社で言うなら、商品、サービス、清潔さなどを、毎日どれだけ磨き上げ、向上させていったかで決まります。つまり、日頃の行動が結果を左右する。正しい行いをすれば正しい結果がついてくる。間違った努力をすれば（あるいは何も努力をしなければ）悪い結果がやってくる。まさに「正射必中」です。

結果より、今の行動に焦点をあてることが大切です。本日の本年度クラブアッセンブリーは当初の目的ができた、できなかったという結果はともかくとして、委員会として如何に取り組んだのか、日頃の委員会活動をお話いただければ幸いです。

と、かえって各委員長にプレッシャーをかけて、会長スピーチを終わります。



2017年6月30日

RID2680 2016-17年度

柏原ロータリークラブ

## 会長の時間 47 (最終例会・大和)

柏原ロータリークラブ  
会長 坂東 隆弘

**素** (す) ——、糸を染めるときの形。糸を染める時、糸束の元の所を結んだまま染汁の入った鍋に漬けるので、その結んだ所は素のままの白い糸で残ります。その白い糸で残った部分を素といい「しろぎぬ、しろ、もと、もとより」の意味となります。(白川静 著：常用字解)

この「素」という字の説明ですが、私は漢方の師匠から、東洋医学の最も古い、最も根本的な医学経典の「黄帝内経素問」という書物の「素」について、「これは、蚕が最古の生薬とされる桑の葉を食べて、糸を出している様子を漢字に表したものだ」と、とてもロマンある教えをいただきました。私は、この由来解釈の方が好きです。

本日まで会長を務めさせていただいた私は、明日から、素の会員に戻ります。

改めまして、皆さん、こんばんは。本年度7月1日に始まり、6月30日の最終日。この年度は、初日から最終日まで会長をさせていただきました。48回目の最終例会は、会長のわがままで、ここ大和様での移動親睦最終例会とさせていただきました。

本日のゲストは、柏原プロバスクラブから谷垣悟会長、秋山登久男幹事、そしてローターアクト地区代表の守本枝里香様、Miho Dever 様、また、卓話でご無理をお願いいたしました田中洋行先輩、佐竹茂康先輩、そして宮崎実順先輩、山名康之先輩。さらに、補助金プロジェクトなどの事業でお世話になり、2ヵ月に1度のペースで共に活動してきた柏原ローターアクトクラブの皆さん。特に今期でローターアクトクラブ卒業となる宇崎聡太様、阪上美咲様には、この後、学友会入会式と感謝状贈呈式を行います。いやはや、とても賑やかな最終例会となりました。

思えばこの一年、会長としてわがままな、そして本当にご迷惑をおかけした年でした。皆様には、感謝、感謝、感謝の言葉しか浮かびません。ありがとうございました。

会長スピーチも、これが最後となります。48回とはなりませんでしたが(1回だけ出張で欠席)、47回で470分ぐらいでしょうか。合計して約8時間の会長スピーチ。私としては、まだしゃべり足りませんが、会員の皆様方はさぞかしほっとされていることと思います。既に会員の皆様は、気づかれていますことと思いますが、47回の会長報告の冒頭の文字、音は“いろはにほへと”の「いろは歌」47文字を順に使い、話を組み立ててまいりました。そして本日、最後の「す」となり、文字通り「素」に帰りました。

色はにほへと 散りぬるを 我が世たれぞ 常ならむ  
有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず

この「いろは歌」、中世から現代にいたるまで様々な解釈がなされてきましたが、例えば、  
「匂いたつような色の花も散ってしまう。この世で誰が不変でいられよう。  
いま現世を超越し、はかない夢をみたり、酔いにふけったりすまい」  
のように仏教的な無常を歌った内容と解釈するものや、これ以外にも色々な解釈があるそうです。  
いずれにしても現時点では、学者間で意見の一致をみるような定説はないそうです。

さて、「いろはのい」と言われれば、“基本的なことからですよ”というような意味合いによく使われます。第一回例会のいろはの「い」の陰陽五行は、物質の成り立ちであり、東洋医学理論の基礎中の基礎。それから一年、色々な事業をし、沢山の方と出会い、様々なお話をさせていただき、そして一年かけてぐるっと一周回って、素に戻りました。

諸行無常——、不変なものなどはなく、すべて無から有、有から無へと繰り返し、営みは続きます。「諸行は無常であって、これは生滅の法である。この“生と滅”とを超えたところに、真の大楽がある」と、『涅槃経』の中の無常偈（むじょうげ）新義真言宗の祖である覚鑿（かくばん）は、『密厳諸秘釈』（みつごんしょひしゃく）の中で説明しています。

尊敬する自然農法家で愛媛県伊予の福岡正信氏は、著書「無」の三部作の初版でこう書かれています。  
**無い。何も無い。何でもなかった。人間は、価値ある何物も所有してはいなかった。**

私は、神戸淡路大震災の折、有馬街道を走り駆けつけ、その惨状を目の当たりにした時、福岡氏のこの言葉が脳裏に浮かびました。

残念ながら、本年度を最後に、ロータリークラブを去られる仲間がいます。悲しく、寂しいことです。ロータリーに価値を求めようとして、見い出せなかったのでしょうか。誠に残念なことです。

ロータリーに価値はあるのでしょうか？ ロータリーの価値とはなんなのでしょうか？  
よくお聞きになるお話ですが、ある一つの物語を、最後の会長スピーチとしてお話しします。

スイスの片田舎での話。老婆が箆（ざる）の中に羊の毛を入れて、それを小川の流に浸して洗っていました。そこへ神父さんが通りかかりました。  
「お婆さん、貴女は毎週、教会に来て私の話を聞いているから、さぞかし物知りになっただろうね」  
「いや、神父さん、お話を聞いてもすぐ忘れてしまいますから、何も覚えていませんよ。でも、私はそれでいいと思います。神父さん、この箆の中を見てください。箆の中にはどんどん水が入ってきますが、すぐに箆の外へ流れ去ります。しかし、箆の中の羊の毛は、こんなに綺麗になっているでしょう。私も神父さんの話を聞いては忘れ、聞いては忘れしていますが、それでも私の心は少しずつ綺麗になっていると思いますよ。」と――。

ロータリーは例会に出て、聞いては忘れ、学んでは忘れしながらも、自分自信が磨かれていくのだというお話ですが、これは何を表しているのか？ ロータリー自体に価値があるのでは決してない。ロータリーの例会に出席し、親睦を深め、学び、活動すること自体、つまりロータリアンである貴方自身に価値があるのだということを意味していると思います。ロータリーに価値があるのではないのです。

最後の最後にまた蛇足を申しましたが、一年間、皆様の支えで何とか乗り切りました。本当にありがとうございました。一番ホッとしているのは幹事の足立成人さんだと思います。少し遅く生まれただけに、大変な目に合わせました。えっ？ 一番の被害者で、最もホッとしているのはクラブ会員全員？ 本当に、申し訳ありませんでした。お詫びとお礼をもって、これで最後の会長スピーチといたします。